

ラス此ニ於テ乎立法者モ亦犯罪ノ性質ヲ觀察シテ其輕禁錮ノ刑能ク懲治鑑戒ノ効アリト認ムルモノハ輕禁錮ヲ以テ之ヲ罰シ其罰金ノ刑能ク懲治鑑戒ノ効アリト認ムルモノハ罰金ヲ以テ之ヲ罰シ而シテ其輕禁錮罰金孰レカ能ク其効ヲ奏スルヤヲ認メ難キ場合ニ於テハ二者孰レヲ以テ罰スルモ之ヲ撰擇スルノ能權ハ一ニ裁判官ニ放任シタリ例ヘハ第二百五十條ハ罰金ヲ以テ之ニ科スルノ最モ効驗アリト認メタルモノニシテ第二百二十七條ハ輕禁錮ノ刑最モ能ク懲治鑑戒ノ効アリト認メタルモノナラン而シテ第二百四十六條第二百四十八條ノ如キハ所謂ル二者孰レカ其効ヲ奏スルヤヲ認メ難キ場合ニシテ裁判官代テ之ヲ撰擇スル所ノモノナリ去レハ立法者カ此等相伯仲スル所ノ犯罪ニ對シ或ハ罰金ヲ以テ之ヲ罰シ或ハ輕禁錮ヲ以テ之ヲ刑シ又或ハ一犯罪ニ對シ二者孰レカ裁判官ノ撰擇スル所ニ依テ之ヲ處罰スルヲ視レ

ハ則チ知ル我立法者ハ此兩刑ヲ以テ同等ト做シ敢テ其間ニ輕重ノ別ヲ爲サ、ルヲト

予ハ此說ニ服從スルヲ得ス概シテ自由ヲ剝奪スルハ財産ヲ剝奪スルヨリモ重カル可シ故ニ法律ハ輕禁錮ヲ以テ重シト爲シ罰金ヲ以テ輕シトシタルハ蓋シ疑ヲ容レサル所ナリ論者ノ所謂法律ニ於テ或ハ輕禁錮ヲ以テ罰シ或ハ罰金ヲ以テ之ヲ罰シ或ハ二者就レカ一ヲ擇テ之ヲ罰スルカ如キハ皆其犯罪ノ輕重ニ依リ稍重シトスルモノハ輕禁錮ヲ以テ之ヲ罰シ稍輕シトスルモノハ罰金ヲ以テ之ヲ罰スル所以ニシテ決シテ同等ナルカ爲メニアラサルナリ又其二者就レカ一ヲ擇テ之ヲ罰スル場合即チ第二百四十六條第二百四十八條等ノ如キハ其犯罪情狀ノ輕重ヲ判別シ之ニ依テ或ハ輕禁錮或ハ罰金ヲ科センカ爲メ其判別ノ權能ヲ裁判官ニ放任シタルモノニシテ是レ亦兩刑同等ノ論

據トスルニ足ラサルナリ

抑刑法第八條ニ於テ罰金ハ輕禁錮ヨリモ下位ニ列記シアルニアラス  
 ヤ蓋シ此第八條ハ第七條ト同シク輕重ヲ以テ順序ヲ定メ列記シタル  
 ハ明カナリ去レハ輕禁錮ノ重クシテ罰金ノ輕キヲ亦判然タリ又第二  
 十七條ニ於テ罰金ヲ禁錮ニ換フルハ一圓ヲ一日ニ折算ス然ルニ其禁  
 錮ノ期限ハ二年ニ過クルヲ得サルニアラスヤ是レ亦立法者ノ精神此  
 兩刑ヲ以テ同等ト認メサルノ確證ナリ若シ兩刑ノ間果シテ輕重ナシ  
 トセハ禁錮ハ十一日以上五年以下ナルニ何ヲ以テ二年ニ過クルヲ得  
 スト制限シタル耶何ヲ以テ五年ニ至ルヲ許サ、ル耶尙又第二十七條  
 第三項ニ據レハ換刑ノ禁錮限内罰金ヲ納ムル時ハ假令ヒ其納金者ノ  
 本人ニアラスシテ親屬其他ノ者ヨリスルモ尙ホ其已ニ經過シタル日  
 數ヲ控除シ禁錮ヲ免スルニ拘ハラズ輕禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニ

罰金刑ノ  
執行

至テハ罰金ヲ納メテ免カル、トテ得サルハ勿論他人ノ代テ刑ヲ受ク  
 ルヲ許サ、ルナリ是レ亦二者ノ間其輕重アルヲ知ル可キナリ故ニ予  
 ハ斷シテ輕禁錮ヲ以テ重シト爲シ罰金ヲ以テ輕シト爲スナリ

○罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム(第二十七條第一項)去  
 レハ裁判確定ノ後チ直チニ徵收スルニアラサルヲ以テ一般刑ノ執行  
 ノ原則ニ例外チ爲ス者ト謂ハサル可カラス

法律ハ此點ニ付キ一般ノ原則ニ依ラスシテ爰ニ一ヶ月ノ猶豫期限ヲ  
 與ヘタルハ何ソヤ蓋シ刑ノ執行ヲ全タカラシメン爲メニ外ナラサルナ  
 リ凡ソ何人ト雖モ罰金ヲ納完センカ爲メニ豫シメ金錢ヲ貯蓄スル者  
 アラサルヘシ然ルニ若シ一般ノ原則ニ依リ裁判確定ノ後チ直チニ之  
 チ徵收セント欲スル時ハ比々納完シ能ハサル者アリテ到底罰金ノ刑ハ  
 換刑ノ禁錮歸着スルヲ多カルヘシ果シテ然ラハ實ニ背反シ嚴酷

ニ失スルモノト謂ハサル可カラズ則チ一ヶ月ノ猶豫期限ヲ與ヘテ納  
完スルニ便利ナラシメ以テ刑ノ實行ヲ全タカラシムル所以ナリ

罰金ヲ納  
完セザル  
時ノ處分  
如何

○此故ニ罰金ノ宣告ヲ受ケタル者ニハ一月内ニ納完スルノ義務ヲ生  
ス若シ此期限内ニ納完セサルニ於テハ檢察官ハ之ヲ禁錮ニ換フルノ  
請求ヲ爲ズ可キナリ而シテ其請求ハ唯ニ全額ヲ納メサル時ノミナラス  
一部ノ納完ヲ怠リタル者ニ對シテモ尙ホ換刑ノ請求ヲ爲スチ得ルナ  
リ然リ而シテ檢察官ヨリ換刑ノ請求ヲ爲シタル時ハ裁判官ハ必ス換刑  
ノ命令ヲ爲スヘク其犯人ノ資力如何ヲ調査シテ之ヲ許否スルチ得サ  
ルナリ蓋シ此裁判官ノ命令タル刑ノ執行ヲ司トスル所ノ檢察官チシ  
テ處分上依據スル所アラシメシカ爲メノモノタルニ過キス而シテ其犯  
人資力ノ有無如何ヲ穿鑿スルカ如キハ是レ專ハラ刑ノ執行ニ關スルチ  
以テ檢察官ノ職務ニ屬シ裁判官ノ敢テ干與ス可カラサル所ナレハナ  
リ

リ

○刑法草按第三十四條ニハ「換フルチ得トアリ此語ニ從ヘハ許否ノ權  
ヲ以テ裁判官ニ放任シタルモノ、如クナレバ現行法ニ於テハ明カニ  
「換フ」トアレハ必ス之ヲ命令セサル可カラサルヤ明カナリ然レバ未タ  
裁判官ノ換刑ヲ命令セサル以前ニ在テハ檢察官自ラ代テ之ヲ換フル  
能ハサルナリ何者檢察官ノ職務タル唯刑ノ執行ヲ司トルニ在ルチ以  
テ裁判官ノ命令ナキニ擅ニ其刑ヲ變換スルカ如キハ固ヨリ其職權内  
ニアラサレハナリ殊ニ予カ説ニ於テハ禁錮ハ總テ罰金ヨリモ重刑ナ  
ルカ故ニ輕刑ヲ變シテ其重刑ニ換フルカ如キハ猶更裁判官ノ命令ニ  
據ラサル可カラサルト勿論ナリ

換刑ノ方  
法

○裁判官換刑ヲ命令スルニハ別ニ宣告ヲ用ヒス只之ヲ命令書ニ認メ  
檢察官ニ交付スルノミチ以テ足レリト爲ス

換刑ヲ命令スル所ノ裁判官ハ必スシモ罰金ノ言渡ヲ爲シタル裁判官  
タルヲ要セス例ヘハ重罪裁判所ニ於テ附加ノ罰金ヲ言渡シ其換刑ノ  
際ニ當テ已ニ該重罪裁判所ノ閉廷シタル場合ノ如キハ控訴若クハ輕  
罪ノ裁判所ノ裁判官之ヲ命令スルヲ得ルノ類ナリ

檢察官ハ  
罰金納完  
期限ノ猶  
豫ヲ與フ  
ルノ權アリ  
ヤ否

○檢察官ハ罰金ヲ納完セサル犯人ノ地位ヲ酌量スルノ權アルヤ否ヤ  
詳言スレハ犯人ノ資力如何ヲ酌量シテ納完期限ノ猶豫ヲ與フル權ア  
ルヤ否ヤ

論者或ハ曰ク罰金ヲ禁錮ニ換フルハ正道ニアラスシテ權道ナリ正道  
ハ常ニ之ヲ行フ可ク權道ハ止ムヲ得サルニ非サレハ行フ可カラス去  
レハ犯人資力アリテ之ヲ納メス或ハ現ニ之ヲ納ムル能ハサルモ月賦  
年賦等ノ方法ヲ以テ之ヲ納ムル道アリト思量スル時ハ所謂止ムヲ得  
サルノ場合ニ非サルカ故ニ未タ權道ヲ行フ可キ時ニアラス故ニ此等

ノ場合ニ於テハ檢察官ハ未タ必スシモ換刑ノ請求ヲ爲スニ及ハスト  
而ノ論者尙ホ此說ヲ鞏固ナラシメンカ爲メ附援シテ曰ク凡ソ罰金ノ  
刑ハ罰金ノ刑タル効力ヲ奏シ禁錮ノ刑ハ禁錮ノ刑タル効力ヲ奏ス故  
ニ立法者ノ罰金ヲ科シ禁錮ニ處スルヤ皆犯罪ノ性質ヲ斟酌シテ各其  
適當ノ効力ヲ奏成セシメンヲ強メサルハ莫シ而シテ彼ノ禁錮又ハ罰  
金ニ處スル場合ノ如キモ亦裁判官ヲシテ二箇ノ刑中其孰レカ最モ懲  
戒ノ効ヲ奏スルニ堪ユルヤヲ判別シテ以テ之ヲ適用セシムルトモ  
リ然ルニ今若シ納完期限ヲ經過シタルノミヲ以テ輒ク之ヲ換刑スル  
モノトセハ是レ即チ法律ノ本旨ニ悖リ懲戒ノ効力ヲ減殺スル者ナリ  
ト謂ハサルヲ得ス故ニ到底止ムヲ得サル場合ニ非サレハ檢察官ハ換  
刑ノ請求ヲ爲スヲ得スト且曰ク明治十四年第八十一號布告新舊比  
照法第八條ニ據レハ舊法ニ從ヒ贖罪收贖ニ處シタル者其金額ヲ延期

限内ニ納完スル能ハサル時ハ一圓ヲ一日ニ折算シ輕禁錮又ハ拘留ニ換フ云々トアリ而シテ此法文ハ要スルニ刑法第二十七條ノ意義ヲ擴張シタル者ニ外ナラス然ルニ其法文中所謂納完スル能ハサル時トハ即チ無資力ニシテ實際納完スルヲ能ハサル者ノ謂ヒナレハ若シ納完スルノ資力アル時ハ期限内現ニ納完セスト雖モ未タ必シモ換刑ヲ要セサルノ旨趣タルヤ知ル可シ去レハ刑法第二十七條ニ納完セサル者トアルモ亦是レ納完シ能ハサル者ノ意義ニシテ其資力アリナカラ納完セサル者ノ如キハ決シテ換刑ヲ請求セサル可カラサル者ニアラス之ヲ要スルニ檢察官ハ一ヶ月ノ期限ヲ過キテ罰金ヲ納完セサル者アルモ直チニ換刑ノ請求ヲ爲サル可カラサル者ニアラス必スヤ犯人資力ノ有無如何ヲ探究シ事宜ニ從テ之ニ猶豫ヲ與フルト否トチ酌量スルノ權アリト

○論者ノ說一理ナキニアラサルカ如シ然レモ予ハ到底之ヲ採用スルヲ得ス前已ニ詳論シタルカ如ク予ハ素ト禁錮ノ刑ヲ以テ罰金ノ刑ヨリモ重シト爲ス者ナレハ此義ヲ擴充シテ論スルモ尙ホ論者ノ說ノ採用ス可カラサルヲ知ル予ハ先ツ予カ主說ヲ述ヘ然ル後其細目ニ論及セン

予ノ見ル所ニ據レハ罰金ノ刑ニ處セラレタル犯人一月内ニ納完セサル時ハ檢察官ハ直チニ換刑ヲ請求セサル可カラス而シテ其資力ノ有無如何ハ曾テ之ヲ探究酌量スルヲ要セサルノミナラス現ニ資力アリト認メタリモ尙ホ換刑ヲ請求ス可キハ檢察官ノ職務ナリト思考スルナリ

先ツ法文ニ記載スル所ヲ見ヨ第二十七條ニハ限内納完セサル者ト記載シテ納完シ能ハサル者ト記セス禁錮ニ換フト記シテ換フルヲ得

ト記載セス又一月内ニ納完セシムト嚴肅ニ記載シテ曾テ寛假スル所ナキニアラスヤ然レハ則チ此法文ノ明言スル所ニ據ルモ限内納完セサル者ハ直チニ換刑ノ請求ヲ爲サ、ル可カラト論決スルノ至當ナルヲ知ル可キナリ

抑限内納完セサル者ノ中ニハ或ハ資力アリト雖モ故意ニ納完セサル者モアラン現ニ納完シ能ハサルモ若干ノ猶豫ヲ與フレハ則チ納完スルヲ得ル者モアラン赤貧洗フカ如ク到底納完シ得サルハ者モ亦之アラン然リ而シテ此最後ノ赤貧ニシテ到底納完シ得サル者ハ直チニ換刑處分ヲ爲サ、ル可カラサルヲ勿論ナリ何トナレハ赤貧ノ故ヲ以テ刑ヲ免カル、ノ理ナキハ勿論到底納完ノ期ナキ者ナレハ速カニ其換刑ノ處分ヲ爲ス可キヲ當然ナレハナリ故ニ此點ニ付テハ論者ノ説ト雖モ亦正ニ同一ノ論決ナル可シト信ス惟フニ只資力アリト雖モ

故意ヲ以テ納完セサル者又ハ猶豫ヲ與フル時ハ納完シ得可キモ現ニ納完スルヲ能ハサル者ニ付テノミ其論決ヲ異ニスルナラン歟  
今試ニ其資力アリト雖モ故意ニ納完セサル者ニ付テ論センニ已ニ法律ハ罰金納完ノ期限ヲ與ヘ以テ其間十分ニ納完ノ準備ヲ爲スヲ得セシム然ルニ尙ホ其準備ヲ爲サ、ル者ハ是レ其責犯人ニ在リ而シテ法律ハ換刑ノ處分ヲ施スヨリ他ニ又爲スヘキノ手段ナシ然リ而シテ禁錮ハ元來罰金ヨリ重キカ故ニ之レニ換フルモ敢テ社會ニ損スル所ナキノミナラス一般ニ其懲戒ノ効大ニ罰金ノ刑ニ優ル者アラン或ハ又輕キ罰金ヲ納完スルニ至ル可シ是レ皆立法者ノ換刑處分ヲ制定シタル精神ニシテ即チ直チニ換刑ス可キ所以ナリ佛國ニ於テハ民事上ノ負債ヲ償ハサル者ニ對シテステ尙ホ民事上ノ禁錮ヲ科シタリ是レ亦資力

アリテ故意ニ償還セサル者ヲ強迫シテ償還セシムルノ一手段タルニ過キス現今民事上ノ禁錮ハ之ヲ廢止シタリト雖モ罰金若クハ損害ノ賠償ニ至テハ尙ホ之ヲ實行ス蓋シ資力アリテ納完セサル者ニ對シ換刑ノ方法ヲ嚴重ニ實行シテ以テ納完ヲ促スハ最モ良好ノ手段ナリト云フ可シ又或ハ現ニ納完シ能ハサルモ若干ノ猶豫ヲ與フル時ハ之ヲ納完スルヲ得ル者アラン是等ノ者ニ付テ論スルモ亦直チニ換刑處分ヲ爲サ、ル可カラス若シ更ニ之レニ猶豫ヲ與ヘントスレハ果シテ如何ナル程度ニ依リ其期限ヲ定ム可シトスル乎又如何ナル限界ニ依リ其方法ヲ定メ得可キ乎凡ソ罰金ノ額タル其犯罪ノ性質輕重如何ニ因リ罪ト刑トノ權衡ヲ量リ以テ之ヲ定ムル者ナルニ今檢察官ニ於テ漫リニ之レカ猶豫ノ期限ヲ與ヘ或ハ月賦年賦ノ方法ヲモ尙ホ之ヲ許ス丁チ得ル者トセハ即チ檢察官ハ裁判官ノ宣告シタル刑罰ノ威

力ヲ滅殺スル者ナリ何トナレハ裁判官ハ一時ニ金額ヲ徵收シテ痛苦ヲ感セシメント欲シタルニ檢察官ハ十回又ハ二十回ノ月賦若クハ年賦ヲ許シ其義務ヲシテ輕カラシムレハナリ是レ豈ニ容許ス可キノ事ナランヤ且ツヤ甲犯人ニ對シテハ一時ニ之ヲ納完セシメ乙犯人ニ對シテハ月賦若クハ年賦ヲ以テ徵收スルカ如キアラハ又實ニ刑罰均一ノ性質ニ悖反スル者ナリト謂ハサルヲ得ス今他ノ點ヨリ觀察スルモ若シ檢察官ニ此權アリト假定スル時ハ檢察官ハ毎ニ犯人ノ財産ニ干渉シ一犯人アルコトニ必ス其納完期限ヲ伸縮シ之レカ徵收方法ヲ盡サ、ル可カラサルニ至リ其繁雜復タ言フニ堪ヘサル者アラン況ンヤ法律ハ已ニ納完期限ヲ一月ト明定シテ他ニ檢察官カ猶豫期限ヲ付與スルノ權アルヲ言ハサルニ據レハ則チ法律ノ精神ハ一ヶ月ノ猶豫アレハ罰金ヲ準備スルニ充分ナリ若之ヲ怠タリタル者ハ直チニ換刑

處分ヲ行フ可シト云フニ在ルヤ知ル可シ苟クモ然ラサレハ則チ何ソ必スシモ一ヶ月ノ期限ヲ明定スルヲ是レ要センヤ唯罰金ノ徵收換刑ノ處分ハ檢察官ノ便宜ニ任スト記載シテ足ランノミ論者ノ所謂罰金ハ自ラ罰金ノ効ヲ奏シ禁錮ハ自ラ禁錮ノ効ヲ奏ス然ルニ今輒ク罰金ノ刑ニ換ルニ禁錮ノ刑ヲ以テセハ是レ法律ノ本旨ニ悖リ刑ノ威力ヲ減殺スル者ナリトハ是レ亦大ニ其然ラサルヲ覺フ蓋シ予ノ說ニ從ヘハ禁錮ノ刑ハ元來罰金ノ刑ヨリ重シ重キ刑ヲ以テ輕キ刑ニ換フ何ノ威力ヲ損スルトカ是レアラン論者又曰ク罰金ヲ禁錮ニ換フルハ實ニ止ムヲ得サルノ權道ニ出ツ權道ハ輒ク用ユ可カラスト其レ然リ換刑ノ事ハ寔ニ止ムヲ得サル權道ニ出ツルト毫モ疑ナシト雖<sub>レ</sub>然<sub>レ</sub>已ニ相當ノ納完期限ヲ與ヘタルニモ拘ハラス故意ニ納完セサル者又ハ赤貧ニシテ到底納完スルヲ能ハサル者ニ對シテ其所

謂止ムヲ得サル權道ヲ施シ換刑處分ヲ執行スルハ是レ亦止ムヲ得サルニ出ツルモノニシテ敢テ漫リニ權道ヲ用ユルモノニアラサルナリ又明治十四年第八十一號布告新舊比照法第八條ニ所謂納完スル能ハハ、サ、ハ、時云々ノ一句ハ幾分カ論者ノ說ニ勢力ヲ與フル者ナル可キモ而カモ該法ニ規定スル所ハ敢テ刑法第二十七條ノ意義ヲ擴充センカ爲メニシタルモノニ非スシテ即チ舊法ニ從ヒ贖罪收贖ニ處シタル者其金額ヲ納完セサル時ノ處分方ニ關スル一時ノ便宜法ニ過キサレハ之ヲ以テ刑法ノ意義ヲ左右スルニ足ラサルハ敢テ予カ喋々テ談テ知ラサルヲ信スルナリ

以上説明シタル理由アルニ依リ檢察官ハ法律ノ期限外ニ猶豫ヲ與フルノ權ナシト論決スルハ予ニ於テ毫モ躊躇スル所ニアラス然リト雖<sub>レ</sub>犯人一ヶ月ヲ過キテ罰金ヲ納完セサル時檢察官ニ於テ直チニ其換



刑ノ請求ヲ爲サ、レハ則チ職務ヲ怠リタル者ナリト云フニアラス時ノ宜キニ從ヒ一時換刑ノ請求ヲ爲サ、ルカ如キハ檢察官ノ職トシテ固ヨリ不可ナル所ナシ否ナ寧ロ然ラサル可カラサルナリ予ハ唯法律ハ檢察官ニ向テ犯人ノ資力如何ヲ斟酌シテ犯人ノ爲メニ其猶豫ヲ與フルカ如キハ決シテ許サレサル所ナリト云ヘル而已

○一ヶ月ノ期限ハ納完ノ準備ヲ爲スカ爲メニ與ヘタチモノナリ故ニ若シ罪人赤貧ニシテ縱令ヒ一ヶ月ヲ經過スルモ到底納完シ得ルノ目的ナシトテ換刑ノ處分アラントテ請求スル時ハ檢察官ハ其未タ一ヶ月ヲ經過セサルニ關ハラス直チニ換刑ノ處分ヲ請求スルヲ得可シ何トナレハ元來一ヶ月ノ期限ハ檢察官ノ爲メニ設ケタルニ非スシテ畢竟犯人ノ利益ノ爲メニ與ヘタル期限ナレハ犯人自ラ此期限ノ利益ヲ拋棄スル上ハ復他ニ其期限ノ經過ヲ待ツノ理由ナケレハナリ

受刑者ノ請求ハ一ヶ月以内トケル月以テ換刑トスルニ由テ得其理

此ニ反シ檢察官ニ於テ若シ犯人ハ一ヶ月ヲ待ツモ到底納完ノ見込ナシト確認シタリモ苟クモ犯人ノ請求アルニ非サレハ直チニ換刑ノ請求ヲ爲ストテ得ス必ス一ヶ月ヲ經過スルヲ要ス蓋シ犯人ト雖モ政治家上諸多ノ處理セサル可カラサルモノアル可ケレハ法律ハ縱令ヒ資力アル者ニ對スルモ尙ホ且一ヶ月内納完スルニ及ハサルノ權ヲ付與シタリ況ンヤ其資力ナキ者ニ於テヤ

○犯人資力アリテ而シテ一ヶ月内ニ納完セサル時ハ檢察官ハ犯人ノ財産ヲ差押ヘ之ヲ公賣ニ付スル權アルヤ否ヤ  
說ヲ爲ス者アリ曰ク檢察官ハ犯人ノ財産ヲ差押エルノ權アルモ之ヲ公賣ニ付スルノ權ナシ若シ之ヲ公賣ニ付スル時ハ延テ他ノ無辜ノ人即チ犯人ノ債主ヲ害スルニ至ラン是レ刑ハ犯人一身ニ止マルトノ原則ニ反スル者ナリト抑差押トハ何ソヤ財産ヲ公賣ニ付スルノ手續ニ

限内納金  
ナル時ハ  
サハハ  
檢察官ノ  
受刑者ノ  
財産及  
押付ス  
ルニ由  
リヤ

非スヤ此場合ニ於テ公賣ヲ爲サスシテ單ニ財産ヲ差押ヘルノミニテハ果シテ何等ノ益カアル説者カ差押ノ權アルモ公賣ノ權ナシト言ヘルハ甚タ奇怪ノ主説ナリト謂ハサル可カラス而シテ又他ノ債主ヲ害スルノ故ヲ以テ公賣ヲ許ス可カラサルノ理由ト爲スト雖此亦是レ一箇ノ誤説タルヲ免カレス蓋シ負債者カ新ナル負債ヲ爲シタル場合ニ於テ其尋常債主ノ爲メニ害ヲ被ムルトハ固ヨリ普通ノ事ニシテ而カモ尋常債主ノ豫テ期シタル所ナリ何トナレハ書入質等ノ特權ヲ保有セサレハナリ苟クモ他債主ヲ除テ獨リ債權ヲ擔保セラレント欲スル者ハ特權ヲ有セサル可カラサルヤ論ヲ俟タズ今夫レ罰金ニ處セラレタルモ亦畢竟新ナル負債ヲ醸シタルニ外ナラサレハ檢察官カ犯人ノ財産ヲ差押ヘテ之ヲ公賣ニ付シタリトテ之ヲ以テ無辜ノ人ヲ罰スルニ至ルト謂フヲ得ス然ラサレハ則夫ノ禁錮懲役等ノ體刑ト雖此亦同一

ノ説ヲ爲ストテ得ルニ至ラン何トナレハ其服役中ハ業務ヲ營マス業務ヲ營マサルカ故ニ自カラ家政ノ衰頹ヲ來タス可ク家政衰頹シテ負債ノ辨濟ヲ能クスル者未タ曾テ之アラサレハナリ蓋シ刑罰特ニ罰金ノ刑ニ處スルカ如キ間接ニ幾分カ其債主及ヒ親屬ノ損害ヲ生スルコトアル可シト雖此是レ寔ニ刑罰ノ性質上亦奈何トモスルニ由ナキ所ナリトス要之予ハ檢察官ニ於テ財産差押ノ權アルハ勿論之ヲ公賣ニ付スルノ權モ亦之レアルコトヲ信スル者ナリ但シ實際ニ於テハ公賣ニ付スルコト殆ント鮮カル可シ何トナレハ檢察官ニ於テ換刑ヲ請求スル時ハ却テ罰完ヲ促スノ一手段ト爲ルカ故ニ寧ロ直ニ換刑ノ手續ヲ採ルノ簡且ツ便ナルニ如カサレハナリ

罰金ノ言渡アリタルヨリ一ヶ月ノ期限内ハ檢察官ヨリ強テ納完セシムルコト能ハス而シテ縱令ヒ犯人カ期限内ニ逃走スルノ虞アル時ト雖此

亦然リトス蓋シ逃走等ノ如キハ固ヨリ容易ニ推測ス可カラサルノ事ナルヲ以テナリ然レモ若シ期限經過スルモハ檢察官ハ直チニ換刑ノ請求ヲ爲スコトヲ得可ク乃チ裁判官ハ禁錮ニ換フルコトヲ命令スルカ故ニ此命令ニ依リ始メテ犯人ヲ逮捕スルコトヲ得ルニ至ル可シ

換刑ノ禁錮ハ二年ニ上ルコトヲ得ルニ依リテ得ルメタル理由

○罰金ヲ禁錮ニ換フルモ二年ニ過クルコトヲ得ス故ニ換刑ノ禁錮ハ二年ヲ以テ其極度ト爲ス此規定アル所以タル蓋シ禁錮ハ其性質素ト罰金ヨリ重キヲ以テ若シ之レカ制限ヲ爲サ、ル時ハ或ハ十數年ノ長期ニ上ルコトアリテ痛ク罰金トノ權衡ヲ失フニ至ル可キヲ以テナリ

罰金ヲ禁錮ニ代ヘタル後罰金ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ禁錮ヲ免スルノ事ハ第二十七條第三項ニ規定スル所ナリ而シテ此禁錮ヲ免スルノ處分ハ何人ニ於テ之ヲ爲ス可キ乎或ハ日ク禁錮ニ換フルコトヲ命令スル者ハ則チ裁判官ナリ故ニ之ヲ免スルコトヲ命令スル者

可キ乎

モ亦裁判官ナリト予ハ以爲ラク禁錮ハ性質上罰金ヨリ重キヲ以テ檢察官ヲシテ擅ニ之ヲ換ヘシム可カラス是レ裁判官ノ命令アルコトヲ要スル所以ナリ然リト雖モ其禁錮ヲ免スルノ事ハ畢竟一ノ執行方法ニ過キサレハ夫ノ通常禁錮ノ期限滿チタルニ因リ之ヲ放免スル場合ト同シク別ニ裁判官ノ命令ヲ俟タス檢察官之ヲ爲スコトヲ得可シト

罰金ヲ納完シテ以前死亡シタル者ノ處分如何

○未タ罰金ヲ徵收セサル中犯人死去シタル時ハ如何夫レ罰金ノ言渡ヲ爲シタル時ハ宛カモ通常ノ負債ニ異ナラス而シテ凡ソ相續人ハ先人ノ權利義務ヲ繼承スル者ナレハ非除ヤ犯人ハ死去スルモ其相續人ヲシテ罰金ヲ納完セシメ敢テ不可ナキニ似タリ然レモ法律ハ夫ノ刑罰ハ一身ニ止マルトノ原則ヲ擴充シ相續人ヲシテ罰金ヲ納完セシムルコト能ハサル者トセリ(刑法付則第二十條)

第三節 違警罪ノ刑

刑違警罪ノ

○違警罪ノ刑ハ拘留又ハ科料ナリ拘留ハ一日以上十日以下(第二十八條科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下(第二十九條)トス元來違警罪ハ専ハラ地方取締ノ規則ニ關スル犯罪ナルカ故ニ其刑尤モ輕ク又別ニ附加ノ刑アルコトナシ

第二十八條ニハ拘留ハ拘留所ニ留置スト記スルモ又留置場ニ置クコトアリ(監獄則第一條一)

拘留ト科料トハ裁判官ヲシテ其一ヲ選擇セシムルコトセリ即チ第四百二十五條以下ニ明示スル者はナリ

科料金納完ノ期限ハ十日ナリトス(第三十條)但シ明治十四年十二月廿八日警視廳達ニ依レハ違警罪ノ科料金ハ即納セシムルカ如ク見ユルト雖是レ唯成ル可ク即時ニ納完セシム可シトノ旨趣タルニ過キス而シ刑法ニ規定シタル限内ニ納完セサル時ハ勿論其未タ十日ヲ經過セザ

ル時ト雖是レ到底納完ノ目的ナシト申立ル時拘留ニ換フル等ノ手續ハ何レモ予カ既ニ講述シタル第二十七條ノ旨趣ヲ以テ之ヲ爲サ、ル可カラサルモノトス

第二款 附加刑ヲ論ス

附加刑ノ性質

附加刑ハ主刑ノ及ハサル所ヲ補充スルノ性質ヲ有スルモノナリ故ニ或ハ主刑ノ目的ヲ鞏固ナラシムルノ趣旨ニ出ツルモノアリ或ハ犯者ノ再ヒ罪過ニ陷ランコトヲ豫防スルノ趣旨ニ出ツルモノアリ又或ハ權利若クハ能力ノ上ニ加辱スルモノアリ要スルニ亦一箇ノ刑罰ニ外ナラサレハ犯人ニ對シ幾分カ苦痛ヲ感セシム可キノ性質ヲ具フルヤ勿論ナリトス

附加刑ハ六アリ今先ツ重罪ノ附加刑ヲ論シ次ニ輕罪ノ附加刑及重罪輕罪ニ普通ノ附加刑ヲ論セン

第一節 重罪ノ附加刑

重罪ノ附加刑ニアリ曰ク剝奪公權曰ク禁治産是ナリ

第一項 剝奪公權

剝奪公權ノ性質

剝奪公權ノ事ハ揭テ第三十一條及ヒ第三十二條ニ在リ(草案第三十九條佛國刑法第三十四條參照)

剝奪公權ハ加辱ノ刑ニシテ即チ其權利若クハ能力ノ上ニ於テ一般國民ト齒スルコト能ハサシムルノ刑ナリ而シテ其刑ハ無期ニシテ且其期滿免除ヲ得可カラサル而已ナラス而カモ宣告ヲ用スシテ當然附加セラル、所ノ刑ナリ佛國千七百九十一年ノ法律ニ從ヘハ剝奪公權ヲ主刑トシテ科シタル時ハ之ヲ宣告シタル裁判所ノ公示場ニ犯人ヲ伴ヒ書記ヲシテ汝ハ佛國ニ於テ破廉恥ノ所爲ヲ行ヒタルヲ以テ茲ニ國民ノ資格ヲ剝奪ス」ト言渡サシメタル後一時間此ニ直立セシムルト

主刑トハ附加トハ加運命トハ共ニストハ果シテ何ノ意ソ

セリ是レ皆犯人ニ加辱スルノ旨趣ニ出テサルハ莫キナリ

○剝奪公權ハ重罪ノ附加刑ニシテ無期有期ニ拘ハラズ總テ附加スルモノトス故ニ夫ノ主刑ト附加刑ト運命ヲ與ニスルトノコトハ唯主刑アリテ附加刑アリ主刑確定シテ附加刑モ亦確定スル等ノ一ヲ云ヘルモノニシテ其刑期ニ至テハ共ニ存滅スルモノニ非ス縱令ヒ主刑ハ有期ナルモ附加刑ハ必ス無期ナリ是レ第三十二條重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ云々終身公權ヲ剝奪ス」ト云ヘル所以ナリトス  
凡ソ無期刑ヲ難スル論者ハ就中附加刑ノ無期ナルヲ論難スルト雖モ予ハ必スシモ其非難ヲ是認セス何トナレハ無期刑ノ短所ヲ補充センカ爲メ我立法者ハ特赦復權等ノ規則ヲ定メテ特ニ犯人遷善ノ獎勵法ヲ設ケタレハナリ

剝奪公權ノ無期ナルヲ及ヒ別ニ宣告ヲ用ヒス當然附加セラル、一ハ

第三十二條ニ期滿免除ヲ得サルコトハ第六十條ニ記載セリ  
佛國刑法ニテハ其第一百十一條第一百二十七條第一百三十條等ニ於テ剝奪  
公權ノ主刑ト爲ル場合アリト雖モ我刑法ニハ主刑ト爲ル場合アルコ  
トナシ

剝奪公權  
ニ除カサ  
ル可クサ  
トハ不都合  
何ソ

○剝奪公權ニ付テハ論者交々之ヲ攻撃スルト雖モ立法者ニ於テ成ル  
可ク左ノ不都合ヲ排除シタル時ハ庶幾クハ之ヲ攻撃スルノ辭柄ナキ  
ニ至ラン歟立法者タル者ノ宜シク注意ス可キ所ナリ所謂不都合トハ  
要スルニ左ノ三箇ニ過キサル可シ

第一 附加刑モ又一箇ノ刑罰ナレハ犯人チシテ苦痛ヲ感セシメサ  
ルヘカラサルハ勿論ナルニ剝奪公權ノ爲メニ却テ他ノ苦痛ヲ免  
カル、ノ特許ヲ與フルカ如キ不都合アリ

例ヘハ兵籍ニ入ルノ權ノ如キ之ヲ剝奪スルハ實際却テ犯人ノ利益ト

爲ルカ如シ是レ立法者ノ宜シク注意ス可キ所以ノ一ナリ

第二 法律カ罰セントスル所ノ所爲ト剝奪公權ニ因リ剝奪スル所  
ノ權利ト元來毫モ關係ヲ有セサル者アルノ不都合アリ

例ヘハ佛國刑法ニ於テ司法官ニシテ行政官ノ職權ヲ冒シタル者チ罰  
スルニ公權剝奪ノ刑ヲ以テセルカ如シ蓋シ此所爲タル道德ノ點ニ付  
テ云ヘハ毫モ害惡ナキモノナリ然ルニ其人チシテ裁判所ニ出テ證人  
ト爲ルノ權ヲ失ハシムルカ如キ曾テ所爲ト刑トノ關係スル所アルチ  
見ス豈ニ不都合ニ非スヤ是レ立法者ノ宜シク注意ス可キ所以ノ二ナ  
リ

第三 剝奪公權ノ結果間接ニ他人ヲ害スルノ不都合アリ

例ヘハ犯罪ノ嫌疑ヲ被ムリタル者或人チ證人トシテ己レノ無罪ヲ證  
明セシメント欲スルモ其人ハ剝奪公權ノ刑ニ因テ證人ト爲ルノ權利

ヲ剝奪サレタル者ナレハ之ヲ證人ト爲スヲ得サル場合ノ如シ剝奪公權ノ結果施テ他人ヲ害スルモノト云フ可シ是レ立法者ノ宜シク注意ス可キ所以ノ三ナリ但シ強盜強姦等ノ犯人ヲシテ法廷ニ立テ證言セシム可カラサルヲ勿論ナケレハ又一概ニ此點ニ據テ攻撃スルヲ得サルモノアラン歟

剝奪公權ノ處分

○剝奪公權ハ第三十一條ニ臚列セル諸權ヲ剝奪スルニ在リ然レモ爰ニ記載スルモノ盡ク公權ト云フニ至テハ聊カ躊躇セサルヲ得ス例ハ其第八ニ記載スルモノ、如キ之ヲ公權ト云ハンヨリハ寧ロ私權ト稱スルノ妥當ナルニ若カサレハナリ而シテ此ニ所謂剝奪トハ其實公權ヲ行フ能力ヲ剝奪スルノ旨趣ナリ蓋シ此等ノ權利ハ重モニ之ヲ有スル本主自ラ使用スルニ非アレハ殆ント其用ヲ爲サ、ルモノナリ否ナ他人ヲシテ代理セシムルヲ能ハサルモノナリ故ニ此ニ剝奪公權トア

リテ公權ヲ施行スル能力ヲ剝奪スト云ハサリシモ實際ニ於テ敢テ支障アルヲナシ予ハ今此諸權ニ付キ順次左ニ講説スル所アル可シ

國民ノ特權トハ何ソ

第一 國民ノ特權 國民ノ特權トハ其性質又ハ法律ニ依テ日本人民ノミ享有スル權利ヲ云フ國民トハ誰チカ云フノ一義ニ至テハ本邦未タ民法ノ規定ナケレハ固ヨリ其細節ヲ知ルニ由ナシト雖モ願フニ日本人ノ親族ヨリ産レタル者ハ皆日本國民ト云フヲ得ヘシ然リト雖モ此ニ所謂國民トハ右ニ述ヘタル總テノ日本國民ヲ指スニ非スシテ佛語ノ「シトアイアン」即チ國土ノ意味ヲ有スルモノナラン歟蓋シ國土トハ政權ヲ有スル者ノ謂ニシテ則チ男女丁幼等ニ付キ法律上其制限アル者トス

然ルニ若シ國民ノ特權ヲ以テ男女丁幼ノ區別ナク總テノ日本人民カ有スル所ノ權利ナリトスルモハ夫ノ佛國民法ニ於テ人民ノ特權ト爲

ス所ノ外國人ヨリ出訴シタルモ其外國人ヲシテ訴訟入費支辨ノ爲メ豫シメ保證人ヲ立テシムルノ權利ノ如キモ亦之ヲ國民ノ特權ト謂ハサル可カラサルニ至ラン然レモ此ニ謂フ所ノ者ハ決シテ此等ノ特權ヲ指シタル者ニ非サル可シ又土地所有ノ權土地賣買ノ權内地通行ノ權國字新聞記者ト爲ルノ權ノ如キハ外國人ニ對シテハ之ヲ國民ノ特權ト云フ可キカ如シト雖モ此等ハ決シテ第三十一條ニ指示ス所ノ公權ニ非ス若シ土地ヲ所有シ又ハ賣買スルノ權ヲ剝奪スル時ハ是レ一種ノ奇怪ナル禁治産ニ異ナラス況ンヤ通行ノ權ヲ剝奪スルカ如キハ決シテ事理ニ於テ有ル可カラサルノ事ナルヲ依此視之此國民ノ特權トハ則チ府縣會若クハ町村會ノ議員ニ撰舉セラル、ノ權又ハ撰舉スルノ權等ヲ云フ者ナリト解釋セサル可カラサルナリ

○代言人ト爲ルノ權利ハ國民ノ特權中ニ包含スルヤ否ヤ此ハ代言人

剝奪ノ意

規則中ニ於テ當ニ定ムヘキ所ナリ惟フニ之ヲ國民ノ特權ト云フモ固ヨリ不可ナルヲナカル可シ

第二 官吏ト爲ルノ權 官吏ト爲ルノ權ヲ剝奪スルトハ超、將來ニ官吏ト爲ルノ權ヲ剝奪スルノミナラス現任ノ官職ヲモ亦罷免スル者トス本項ニハ言此ニ及ハスト雖モ第三十三條ニ於テ禁錮即チ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者スラ別ニ宣告ヲ要セス當然現任ノ官職ヲ失フノ規則アルニ依テ之ヲ觀レハ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ノ現任官職ヲ失フ可キヲ復タ論テ候タサル所ナリ草案ニハ此事ヲ明言シタリシモ刑法ハ之ヲ無論ニ付シタルモノト見、其文詞ヲ刪除シタリ又草案ハ官職ノミナラス總テノ公務ヲ執ルノ權ヲモ剝奪スル旨ヲ明言シタレモ刑法ハ亦之ヲ刪除セリ蓋シ官職ト公務トハ似テ非ナル者ナリ固ヨリ同視スルヲ得ス何トナレハ官職ハ官吏ニ非サレハ之レニ任スル



ヲ得サルモ公務ハ則チ之レニ異ナリ官吏ニ非サル者ト雖モ固ヨリ之ニ従事スルコトヲ得可ケレハナリ

官吏

○官吏トハ上勅委任官ヨリ下判任等外ノ官吏ヲ汎稱ス夫ノ御用掛ノ如キハ官吏ニ准セラル、者ナリ其他衛生委員ト云ヒ學務委員ト云ヒ若クハ傭吏ト云フカ若キハ何レモ單ニ公務ニ従事スルノミ之ヲ官吏ト稱ス可カラサルヤ蓋シ論ヲ竣タス

○剝奪公權ヲ附加スルノ刑ニ處セラレタル者公權ヲ執行シタルトハ則チ其刑アリ第百五十四條ニ記載スルモノ是ナリ然レモ官署ヨリ命セラレテ官吏ト爲リタルトハ之ヲ附加刑ノ執行ヲ逃レタル者ナリト爲ス可キ乎否ヤノ問題ニ至テハ論者或ハ嘸々スル者アリト雖モ予チ以テ之ヲ觀レハ其罪ト爲ラサルヤ固ヨリ多言ヲ要セスト信スルナリ  
第三 勳章年金位記貴號恩給ヲ有スルノ權 左ニ之ヲ略述ス可シ

勳章

勳章ハ一等ヨリ八等ニ至ルノ勳位ナリ大小綬章從軍記章等皆此中ニ包含ス

年金

年金トハ文武官吏ノ功勞アル者ニ給與スルモノニシテ即チ政府ヨリ年々下賜スル所ノ金圓ナリ

位記

此等ノ事ニ付テハ明治十五年三月司法省丙第九號同年四月丙第十六號ノ達及ヒ明治十六年太政官第三十九號ノ達等ニ就テ見ル可シ今其手續ノ大要ヲ述フレハ勳章ハ之ヲ剝奪シ年金ハ其票ヲ剝奪スルモノニシテ裁判所ニ於テハ宣告書ノ謄本ヲ添テ之ヲ司法省ニ送付ス可キモノトセリ

貴號

位記ハ一位ヨリ九位ニ至ル各正從アリ即チ十八階トス(明治二十年勅令第十號ヲ以テ叙位條例ヲ定メ正一位ヨリ從八位マテノ十六階トセリ)  
貴號トハ皇族華族士族ノ門閥稱號ヲ云フ

恩給

四百二十四

恩給トハ陸海軍ノ恩給令又ハ近時發布サレタル文官恩給令ニ依リ官  
ヨリ給與スル金圓ヲ云フ

外國ノ勳  
章ハ單ニ  
佩用ノ權  
以テ之ヲ  
奪スル所  
以テ之ヲ  
剝奪スル

第四 外國勳章ヲ佩用スルノ權 外國ノ勳章ハ之ヲ與ヘタル者外國  
政府ナルヲ以テ日本政府ハ之ヲ剝奪スルノ權ナシ唯其佩用ノ權ハ日  
本政府ノ與ヘタル所ナルヲ以テ之ヲ剝奪スルヲ得ルナリ但シ此佩  
用ノ權ヲ剝奪セラレタル者ト雖モ其刑ノ執行終リタル後外國ニ至リ  
其勳章ヲ佩用スルトハ毫モ妨ケナカル可シ何者日本國內ニ於テ佩用  
スルノ權ヲ剝奪セラレタルモ外國ニ於テ佩用スルノ權ヲ剝奪セラレ  
サレハナリ

國民ノ兵  
籍ニ入ル  
ハ權利カ  
義務カ

第五 兵籍ニ入ルノ權 夫レ兵役ハ國民タル者ノ當ニ服事ス可キ義  
務ナリ然レモ今試ニ他方ヨリ之ヲ觀レハ邦國防衛ノ權利ハ元來總テ  
ノ國民皆ナ之ヲ有ス可キ者ニ非ス故ニ畢竟一箇ノ權利タルニ相違ナ

シ且ツヤ邦國防衛ノ事タル誠忠殉國ノ氣節アル者ニ非サレハ能ク爲  
スナシ其任ヤ極メテ重ク其責ヤ甚タ大ナリ固ヨリ不忠不義ニシテ  
重罪ノ刑ニ處セラレタルカ如キ者等ニ委スルヲ得ス是レ此規定ア  
ル所以ナリ然リト雖モ凡ソ兵役ハ其任ノ重キヲ此ノ如ク隨テ榮譽ア  
ルト亦彼ノ如キニ拘ハラス時ニ櫛風沐露ノ苦ヲ嘗メ堆屍流血ノ境ニ  
臥スル等ノ辛酸ニ遭遇スルトアルニ依テ之ヲ觀レハ亦是レ一箇ノ義  
務タルニ外ナラス否ナ兵役ハ權利ト義務ト相渾スル者ト云フ可シ其  
レ然リ然ラハ則チ徒ニ犯罪アリタルカ爲メ兵役ニ就クノ權利ヲ剝奪  
シ義務ヲ除去ス可カラサルヤ明ナリ何トナレハ却テ犯人ノ倖僥ト爲  
ル可キヲ以テナリ是レ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ之ヲ剝奪セサル  
所以ナリ但シ其詳細ハ乞フ之ヲ停止公權ノ所ニ讓ラン  
草案第三十九條ニ於テハ兵器ヲ攜帶スル能力ヲ剝奪スルト爲シタ

四百二十五

証人ト爲  
ルノ權

ルモ刑法ハ唯兵籍ニ入ルノ權ヲ剝奪スルニ過キス故ニ其兵器ヲ携帯  
スルヲハ敢テ差支ナカル可シト思惟スルナリ

第六 裁判所ニ於テ証人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ  
在ラス法律カ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ノ裁判所ニ出テ、証人ト爲  
ルノ權ヲ剝奪スル所以タル抑、是等ノ人ハ廉耻ヲ破リ道德ニ反シタル  
者ナレハ其言フ所信スルニ足ラス述フル所採ルニ足ラストスルニ在  
リ今夫レ此ノ剝奪ハ幾分カ名譽ニ關係スルモノアルヲ以テ其重罪ノ  
刑ニ處セラレタル者ノ如キ之ヲ剝奪スルヲ固ヨリ可ナリト雖、然カ  
モ夫ノ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ對シ其公權ヲ停止スルノ一事ニ  
就テハ予ハ少シク議論ナキニ非ヌ後ニ至テ之ヲ論ス可シ

剝奪公權  
ハ寧口他  
人ヲ害ス  
ルヲアリ

○剝奪公權ハ其犯人ノ名譽ヲ害スルヨリモ寧口却テ他人ヲ害スルノ  
場合ヲ生スルヲアル可シ例ハ刑事上ノ被告人ト爲リタル者若クハ

トハ如何  
ナル故乎

民事上ノ權利ヲ主張スル者ニシテ其者ノ證言ヲ得ントスルモ剝奪公  
權ノ者ナルヲ以テ其益ヲ享グルヲ能ハサル場合ノ如シ但シ此等ノ場  
合ハ實際稀有ナル可キノミナラス法律ハ其證人タルヲ許サ、ルモ少  
ナクモ事實參考人タルヲ許シタレハ復大ナル不都合ナカル可シ何  
トナレハ民事又ハ刑事ノ裁判官ハ必スシモ證人ノ證言ヲ採用スルニ  
及ハス其心證ノ認定ニ據テ判定スルモノナレハ其證人ト云ヒ事實參  
考人ト云フ一ハ宣誓ヲ爲シ一ハ宣誓ヲ爲サ、ルノ差別アルモ而カモ  
裁判官ノ心證ニ付テハ二者殆ント涇渭ノ別ナケレハナリ然リ而シ其  
宣誓ノ有無ヨリシテ生スル結果ノ差異タル若シ證人カ故意ニ事實ニ  
非サル陳述ヲ爲シタル時ハ乃チ偽證ノ罪ヲ構成スルト雖、死之ニ反シ  
テ事實參考人ハ縱令ヒ故意ニ詐僞ノ陳述ヲ爲シタリトモ元來宣誓ヲ  
爲サ、リシ者ナルカ故ニ固ヨリ偽證ノ罪ヲ構成スルヲ無キナリ

○證人カ宣誓ヲ爲スハ決シテ僞言ヲ陳述セサルノ意ヲ神明ニ誓フ所  
 以ナリ故ニ佛國ニ於テハ裁判所公庭ノ正面ニ耶蘇ノ肖像ヲ畫キ之ニ  
 對シテ宣誓セシムルコトセリ我邦ノ宣誓ハ唯タ自ラ本心ニ誓フニ過  
 キス故ニ良心アル者ハ必ス其誓言ニ背クコトヲ欲セサル可シ又神佛ヲ  
 信スル者ハ其一タヒ神佛ニ對シテ宣誓シタル故ヲ以テ亦之ニ背クヲ  
 快シトセラル可シ其レ然リ然ラハ則チ縱令ヒ重罪ノ刑ニ處セラレタ  
 ル者ト雖モ亦均シク宣誓セシメタル後事實ヲ陳述セシムルモ敢テ支  
 障ナキカ如シ何トナレハ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ト雖モ自ラ本心  
 ニ誓フコト能ハサルノ理ナケレハナリ然ルニ我法律ニ於テ事實ノ陳述  
 ヲ爲サシムルニ方リ故ラニ其宣誓ヲ爲サシメサルハ予ノ少シク解ス  
 ルコト能ハサル所ナリ

親屬又ハ

人或ハ云ハン治罪法第百八十一條ニ於テハ民事原告人及ヒ被告人ノ

雇人ニ宣  
 誓セシメ  
 サル所以

雇人若クハ親屬等ノ如キ何レモ宣誓ヲ爲サシメス單ニ參考人トシテ  
 事實ヲ陳述セシムルニ非スヤ夫レ雇人若クハ親屬スラ猶ホ且ツ然リ  
 況ンヤ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ於テヤ法律ノ規定固ヨリ此ノ  
 如クナラサル可カラスト然レモ凡ソ雇人ノ如キハ法律ニ於テ宜シク  
 之ヲシテ其雇主ニ盡スト眞實ノ陳述ヲ爲スト交全カラントチ獎勵セ  
 サル可カラス然ルニ今法律上強テ雇人ニ宣誓セシムル者トスル時ハ  
 雇人ハ其雇主ノ爲メニ事實ヲ纏繞セン乎法律ノ罪人ト爲ルヲ奈何セ  
 ン寧口雇主ノ不利ト爲ルモ無飭無裝ノ陳述ヲ爲サン乎雇人ノ義ニ缺  
 グル所アルヲ奈何セン雇人タル者焉ソ去就ノ道ニ迷ハサルヲ得ンヤ  
 是レ法律カ民事原告人及ヒ被告人ノ雇人ヲシテ證人タルコトヲ得セシ  
 メサル所以ナリ其親屬ニ於ケルモ亦然リ法律ハ其友情ヲ捨テ、陳述  
 ヲ爲サシムルコトヲ好マス今若シ強テ宣誓ヲ爲サシメン乎證人ハ法律

ニ忍ハサレハ則チ親屬ニ忍ハン友情ヲ全フスレハ則チ良心ヲ辱シメ  
 ン是レ豈ニ法律ノ敢テス可キ所ナランヤ蓋シ法律ノ精神ハ一タヒ誓  
 チ宣フル時ハ決シテ偽證ヲ爲サ、ル者ナリトスルニ在ルヲ以テナリ」  
 ○本項ニハ人民相互ノ間ニ保證人ト爲ルノ權ヲ包含セサルヤ明ナリ  
 蓋シ若シ此權ヲ剝奪スルモノトセハ犯人其者ヨリ寧ロ他人ヲ害スル  
 ヲアル可ケレハナリ例ヘハ甲者丙者ニ對スル債權ニ付キ乙者ヲ保證  
 人ト爲シタルニ乙者重罪ノ刑ニ處セラレタル場合ノ如キ乙者ハ公權  
 チ剝奪セラル、チ以テ保證人ト爲ルノ權ナキニ至リ隨テ又其保證ヲ  
 無効ト爲サ、ルヲ得サル可シ苟クモ如斯ナレハ則チ丙者ノ損害ヲ來  
 タスヤ知ル可キナリ

剝奪公權  
 ナ受ケタ  
 ル者通事  
 ナ爲シ得  
 ル乎

○通事ハ證人ノ語中ニ包含スルヤ蓋シ治罪法ノ規定ニ依レハ通事ハ  
 宣誓ヲ爲ス者ナルカ故ニ固ヨリ證人ノ中ニ包含セシムルヲ得可シ

ト思惟ス何トナレハ被告人ト裁判官若クハ檢察官ノ間ニ於テ其言語  
 ノ通セサルモノヲ正實ニ通譯スル者ナレハナリ然レモ通事ヲ爲ス權  
 ノ如キハ之レヲ剝奪シタルカ爲メ敢テ他人ヲ害スルノ恐レナカル可  
 シ何トナレハ通事ヲ爲ス者ハ世間固ヨリ數多アル可キヲ以テナリ  
 第七 後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此  
 限ニ在ラス

後見人ノ  
 性質

後見人ノ事ニ付テハ須ラク民法ニ規定ス可キモノナリ而メ其職務ヲ  
 ルヤ則チ無能力者ノ事務ヲ取扱ヒ其補益ヲ圖リ又ハ其財産ヲ管理ス  
 ルニ在リ故ニ必ス善良方正ノ人ナラサル可カラス然ルニ重罪ノ刑ニ  
 處セラレタル者ノ如キハ決シテ善良方正ノ人ニ非サルヲ勿論ナレハ  
 復委スルニ後見人ノ事務ヲ以テス可カラズ是レ剝奪公權ノ一ニ置カ  
 ル、所以ナリ

後見人ト  
爲ルハ  
權利ハ  
義務カ

○後見人ノ職務ハ彼ノ兵籍ニ入ルノ權ト同シク一方ヨリ之ヲ視レハ其名譽ノ權タルニ疑ヒナシト雖モ又他ノ一方ヨリ之ヲ觀察スルハ其責任甚タ重大ニシテ到底一箇ノ義務ナリト云フヲ得可シ故ニ實際何人モ好シテ自ラ後見人ト爲ルヲナシ去レハ佛國ニ於テモ後見人ハ一箇ノ公役ト爲シ重大ノ理由アルニ非サレハ容易ク之ヲ辭スルヲ得サルモノトセリ由此觀之後見人ト爲ルノ權利ヲ剝奪スルハ犯人ノ爲ノ毫モ苦痛ヲ感セシメスシテ寧ロ其義務ヲ減殺シタルノ實情ナキニアラス然レモ既ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナレハ法律上其後見人ト爲リ得ルノ資格ヲ剝奪スルハ固ヨリ至當ナリト信スルナリ然レトモ尊屬カ親屬ノ許可ヲ得テ其子孫ノ爲メニ後見人ト爲ルハ前述ノ例外ト爲ス抑法律上此例外ヲ設ケタル所以ハ苟クモ尊屬親ニシテ親屬ノ許可ヲ得タル者ナレハ其子孫ノ爲メニ敢テ不利益ノ事ヲ爲

サ、ル可キヲ以テナリ

刑法第三  
十一條第  
七項ニ所  
謂親屬ト  
如何

○如何ナル親屬カ其許可ヲ與フ可キ乎第百十四條ニ於テ親屬例ヲ定メタリト雖モ願フニ這ハ刑法第二編以下ニ於テ親屬ト稱スルモノニ適用ス可キモノニシテ此ニ所謂親屬ナルモノニ適用ス可カラス何トナレハ後見人ノ事ニ付テノ親屬ノ事ハ元來民事ニ關スルモノナレハ須ラク民法ニ規定ス可キ者ナレハナリ但シ本邦未タ民法ノ制定ナキヲ以テ固ヨリ茲ニ其如何ヲ論定スルヲ得ズト雖モ恐ラクハ佛國ノ親屬會議日本ノ親類寄合ノ如キモノヲ指スモノナラン歟何トナレハ今予ノ父重罪ノ刑ニ處セラレ公權ヲ剝奪セラレタリト假定セン予ノ後見人ト爲ランスルニ際リ予ノ兄之ヲ許可スルモノトセン乎予ニシテ父ニ許可ヲ與ヘンハ甚タ倫理ニ反スルモノト謂フ可シ然レモ親族協議シテ之ヲ許可スル時ハ敢テ差支アルヲナシ何トナレハ特定ノ

一人之ヲ許可スルニ非ズシテ則チ親屬ノ名義ヲ用ヒテ之ヲ許可スレハナリ但シ若シ親屬ナキ時ハ裁判所ノ允許ヲ受ケサル可カラスト思料スルナリ

管財人管理

第八 分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權管財人ハ身代限ヲ爲ス者ノ爲メニ其財産ヲ管理シ又ハ估賣ヲ爲シ若クハ債主ニ債務ヲ辨償スル等ノ事ヲ掌ル者ナリ管理者ハ社會ノ財産又ハ共有財産ヲ管理シ若クハ保存スル者ナリ要スルニ此等ノ人ハ各債主若クハ社員及ヒ共同所有者ノ利益ヲ圖リ事ニ幹タル者ナレハ固ヨリ善良方正ノ人ナラサル可カラス然ラサレハ則チ私擅ニ其財産ヲ消費スルノ恐アレハナリ

剝奪公權  
ニ因リ管  
財人又ハ  
管理者タ

○此ニ注意ス可キハ抑分散者ノ管財人會社及ヒ共有財産ノ管理者タル素ト債主株主若クハ共有者等カ投票ヲ以テ之ヲ定ムル者ナレハ多

ハル權ヲ失  
所以

數ヲ以テ少數ヲ壓スル結果ヲ生スルヲ免レサルノ事是ナリ例ヘハ債主社員共有者ノ中其多數ノ人ハ曾テ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ヲ以テ管財人又ハ管理者ト定メントスル片ハ縱令ヒ少數ノ人ハ之テ危險ナリトスルモ投票ノ結果亦之ヲ奈何トモスルヲ得ス強テ之レカ承諾ヲ爲サル可カラス是レ甚タ危險ナリト謂フ可シ法律カ管財人又ハ管理者ト爲ルノ權ヲ以テ剝奪公權ノ中ニ記載スルニ至リタルノ趣旨ハ實ニ此危險ヲ防クニ在リ佛國刑法ノ剝奪公權中ニハ此項ノ設ケナシ是レ特ニ我カ草案者ノ創設シタル所ナリ  
然ルニ例ヘハ甲乙二人ノ共有財産アリテ甲ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナルニ乙ニ於テ此ニ關ハラス甲ヲシテ管理者タラシムルヲ承諾シタル場合ノ如キ法律ハ此ニ干渉セスシテ可ナリ乃チ本項中ニ包含セサル者トスヘキカ如シ奈何トナレハ此ノ如キハ固ヨリ多數カ少

數ヲ壓スル等ノ危険ナキヲ以テナリ又會社ニ於テ社員全數一致ノ上ハ猶ホ亦重罪ノ受刑者ヲシテ會社ノ管理者ト爲ストテ得可キカ如シ苟クモ然ラサレハ則チ寧ロ法律ハ干涉ニ過クルノ嫌ナキト能ハサレハナリ然レモ法律ニ區別ヲ爲サル以上ハ此等ノ場合ト雖モ管財人ト爲リ又ハ管理スルノ權ナキ者ト解釋スルノ穩當ナルヘキナリ

剝奪公權ニ由リ學校長教師學監ト爲ルハ權ヲ失ハシムル所以

第九 學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權 夫レ幼年子弟ノ始メテ學ニ就クヤ志未タ定マラス氣未タ確カナラサレハ薰陶シテ善良ノ人タラシム可ク誘掖シテ邪曲ノ徒タラシム可シ故ニ子弟ノ善タリ邪タリ良タリ曲タル皆ナ陶冶鞭撻ノ如何ニアラサルハ莫シ世間夫ノ人ノ子ヲ懲ラサル者其レ果シテ幾何カアル教育ニ關スル者其任ヤ固ヨリ重シ豈ニ教育者其人ヲ精撰セサルヘケンヤ其レ然リ然ラハ則チ法律カ其重罪ノ受刑者ヲシテ學校長教師若クハ學監ト爲ルノ權ヲ失ハシムル所以

モ亦固ヨリ明瞭ニシテ予ノ喋々ヲ要セサルヲ知ル可キナリ而シテ本項ニハ只學校長云々トノミ記シテ其官立公立又ハ私立ノ區別ヲ爲サス是レ蓋シ凡ソ校長教師學監等ノ職タル其教育ニ關スル點ニ就テハ官立公立タルト私立タルノ間固ヨリ區別ス可キ理由ナキニ由ルナリ然リト雖レモ夫ノ子弟ノ爲メニ家庭ノ教育ヲ爲ス者又ハ管絃踏舞ノ遊技ヲ教授スル者ノ如キハ此中ニ包含セサルヤ勿論ナリトス

第三十二條ニ所謂重罪ノ刑ニ處セラル者トノ意義

第三十二條ニ所謂重罪ノ刑ニ處セラル者トハ現ニ重罪ノ刑ヲ宣告サレタル者ヲ云フ故ニ元來重罪ナルモ其減等シテ現ニ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ固ヨリ此中ニ包含セサルナリ而シテ其重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ乃チ別ニ宣告ヲ用ヒスシテ終身上來講述シタル諸權ヲ剝奪セラル、モノトス

剝奪公權

第三十一條ニ記載スル諸權ヲ剝奪スルコトハ瞥見スル所ニテハ有期ノ



ハ無期ノ  
主刑ニ附  
加スル効  
ナキニ似  
タリ如何

刑ニ處セラレタル者ニ就テ利益アルモ無期ノ刑ニ處セラレタル者ハ元來終身身体ノ拘束ヲ受タルヲ以テ亦敢テ此等ノ公權ヲ剝奪スルノ必要ナキカ如シ然レハ無期刑ニ處セラレタルモ期滿免除ニ因テ免刑ヲ得タル者ノ如キ固ヨリ剝奪公權ノ効アルヲ見ル可シ又刑期計算ニ關スル予ノ説ニ從ヘハ重罪ノ刑ノ宣告ヲ受クルト同時ニ剝奪公權アリトスルカ故ニ固ヨリ無期ノ刑ニ處セラレタル者ニ對シテモ亦必要アリト謂ハサル可カラス何トナレハ剝奪公權ナケレハ則チ刑期中ト雖ハ公權ノ執行ヲ爲シ得ルノ不都合ヲ生ス可ケレハナリ(第五十一條ノ解釋參看)

第二項 禁治産

禁治生ノ  
性質

禁治産モ亦主刑ノ効力ヲシテ鞏固ナラシムルノ性質ニ基ク者ニシテ即チ犯人カ自己ノ財産ヲ治ムルノ能力ヲ奪フモノタリ然リ而シテ

産ハ全ク主刑ニ附従スルモノナルカ故ニ主刑有期ナレハ禁治産モ亦有期ナリ主刑無期ナレハ禁治産モ亦タ無期ナリ到底其存亡ヲ異ニスルコトナシ禁治産ハ剝奪公權ト異ナリテ期滿免除ヲ得ルノ刑ナリ即チ主刑ニシテ期滿免除ヲ得ル時ハ禁治産モ亦隨テ期滿免除ヲ得可シ又禁治産ハ公權剝奪ト同シク別ニ宣告ヲ用ヒスシテ當然附加スル所ノ刑ナリトス(第三十五條)

重罪ノ刑  
ニ處セラ  
レタル者  
ハ何故ニ  
禁治産ノ  
性質ニ似  
タリ如何

○夫レ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ何故ニ治産ヲ禁スルノ必要アリトスル乎蓋シ自己ノ財産ト雖ハ之ヲ隨意ニスルコトヲ得セシムル時ハ百方計術ヲ運ラシテ以テ其苦痛ヲ寬ニセンコトヲ圖リ或ハ獄吏ニ賂ハスニ賄遺ノ利ヲ以テシ之ヲ小ニシテハ衣服飲食ヲ裕ニシテ以テ自衣服役ノ苦楚ヲ慰メ之ヲ大ニシテハ越獄脱監ヲ圖ルカ如キノ憂アルノミナラス凡ソ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ノ如キ敢テ子孫ノ計ヲ顧ミルニ暇マア

ラス漫リニ其財産ヲ抛テ己レノ苦楚ヲ弛メント欲スルハ滔々タル彼等ノ常態ナリト謂フ可シ之ヲ要スルニ治産ヲ禁セサルハ到底刑罰ノ實力ヲ滅殺スルノ虞ナキト能ハス是レ禁治産ノ制アル所以ニシテ而カモ又主刑ノ効力ヲ鞏固ナラシムルノ性質ニ基クト云ヘル所以ナリ去レハ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ其刑期間自ラ不動産即チ土地家屋ノ賃貸若クハ賣買ハ勿論動産即チ金穀等ノ貸借賣買又ハ工業場ノ管理等總テノ處分管理ノ所爲ヲ爲ストテ得ス然レモ若シ財産ニ關スル所爲タルモ其効果現ニ生セスシテ本人ノ死後ニ至リ始メテ生スルモノ即チ財産遺囑ノ如キハ之ヲ爲ストテ得ヘク又契約ニシテ其財産ニ關セサルモノモ亦之ヲ爲ストテ得可シ例ヘハ婚姻ノ如キ是ナリ然レモ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ夫婦同監スルヲ能ハサルヤ勿論ナリ我邦ニテハ刑期中結婚スルヲハ素ヨリ稀有ナリト雖モ佛國邦ニテ

治産ノ禁  
ヲ受タル  
者ハ自ラ  
管財人ヲ  
撰任スル  
ヲ得サル  
ル乎

ハ往々此事アリ是レ民法上私生子ノ子ヲ嫡出ノ子ト爲スカ爲メニハ必ス結婚アリタルヲ要スル等ノ規則アルヲ以テナリ但シ婚姻ニ付從スル夫婦財産契約ヲ爲ストハ固ヨリ許サ、ル所ナリ  
重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒスシテ其主刑ノ終ルマテ自ラ財産ヲ治ムルヲ禁セラル、カ故ニ苟クモ財産ヲ所有スル者ナル時ハ必ス管財人ヲ任セサル可カラス然リ而シテ犯人自ラ其管財人ヲ撰任スルノ權利アリヤ否ヤニ就テハ必ス多少議論アルモノ、如シ然レモ予テ以テ之ヲ觀レハ抑、法律ノ禁スル所ハ一ハテ犯人自ラ其財産ヲ治ムルニ在ルヲ以テ管財人ヲ撰任スルヲ禁スルノ理由ナキモノノ如シ故ニ若シ法律ニ於テ總テノ私權ヲ行フヲ禁シタル時ハ格別苟クモ然ラスシテ單ニ治産ノ禁ヲ令シタル而已ナレハ犯人ハ無論自ラ管財人ヲ撰任スルノ權アリト決定セサルヲ得サルナリ然レモ管財

人ヲ撰任スルニ際リ財産ノ一部ヲ以テ刑ノ苦痛ヲ寛ニスル等ノ方法  
ヲ契約スルヲ能ハサルハ勿論ナリトス  
若シ本人ニ於テ管財人ヲ撰任スルヲ能ハサル時ハ親族代テ之ヲ撰任  
スルヲ得可シ雖モ必ス本人ノ許諾ヲ得ルヲ要ス草案第四十四條ニ  
於テハ管財人ハ本人ト親族ト協議シテ之ヲ撰任スル者ト定メタリシ  
カ刑法ニハ其法文ヲ削除シタリ

治産ノ禁  
ヲ受ケタ  
ル者其禁  
ルハノ制  
設

治産ノ禁ヲ受ケタル者其禁ヲ犯シテ他人ト契約シタル時ハ夫ノ公權  
ヲ剝奪セラレタル者其公權ヲ行ヒタル場合ノ如クニ刑罰ヲ受クルニ  
非ス唯其契約ヲ無効トスルノミ而シテ其無効ヲ訴フルノ權利ヲ有スル  
ハ其契約ヲ無効トスルニ付キ利益ヲ有スル者即チ第一治産ノ禁ヲ受  
ケタル本人第二管財人第三治産ノ禁ヲ受ケタル本人ノ相續人承權人  
債主第四禁治産者ト其契約ヲ爲シタル者第五檢察官等ナルヘシ

○草案ニ於テハ荷クモ自由ヲ剝奪スルノ刑ニ處セラレタル者ハ其重  
罪ノ犯人ハ勿論設ヒ輕罪ノ刑ヲ受ケタル者ト雖モ皆其主刑ノ終ルマ  
テ自ラ財産ヲ治ムニトテ得ストセリ刑法ニ於テハ之ヲ其重罪ノ刑ニ  
處セラレタル者ニ限ルト爲シタリ然レモ若シ果シテ禁治産ハ主刑  
ノ効力ヲ鞏固ナラシメンカ爲メニ設ケラレタル者ナリトスル時ハ寧  
ロ草案ノ規定ヲ相當ナリト謂ハサルヲ得サルナリ

第二節 輕罪ノ附加刑

輕罪ノ附  
加刑

輕罪ノ附加刑ハ停止公權及ヒ罰金ノ二者トス(第三十三條第三十四條  
及第四十二條)

第一項 停止公權

停止公權  
ノ性質

停止公權ハ大抵剝奪公權ト其性質ヲ同クス唯其間差異アル者ハ停止  
公權ハ禁錮及ヒ監視ノ刑期間之ヲ科スル者ニシテ剝奪公權ノ如ク終

身即チ無期ニ公權ヲ行フヲ禁セサルニ在リ

第三十三條ニ所謂禁錮ニ處セラレタル者トハ元來輕罪ヲ犯シテ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ト其重罪ヲ犯シ減等シテ輕罪ト爲リ禁錮ノ刑ニ從ヒ罰金ヲ納完セサルカ爲メ禁錮ニ換ヘラレタル者ハ此中ニ包括シタリト看做スヲ得ス何トナレハ第二十七條ノ規則ニ從ヒ罰金ニ代ハリタル禁錮ハ第三十三條ニ謂ヘル禁錮ニ處セラレタル者ニ非ス乃チ禁錮ニ處セラレタル者トハ裁判ノ法式ヲ履行シテ宣告セタルモノナラサル可カラサルヲ明ナルニ罰金ヲ禁錮ニ換フルノ手續ハ單ニ裁判官ノ命令ニ過キサレハナリ

第三十三條規任ノ官職ヲ失フノミナシテ特書シタル理由

○又同條ニ現任ノ官職ヲ失フヲ特書シタルハ則チ剝奪公權ト區別センカ爲メナリ蓋シ剝奪公權ニ於テハ祇ニ現任ノ官職ヲ失フノミナス亦將來官吏ト爲ルノ權ヲ併セテ失フモノナリト雖モ停止公權ハ則チ然ラス唯刑期間公權ヲ停止スル而已ニシテ其刑期滿限ノ後ニ於テハ固ヨリ官吏ト爲ルノ權ヲ保有セシムルモノタリ而シテ茲ニ現任ノ官職云々ヲ特書シタルハ人或ハ將來官職ニ就クヲ能サルノ疑ヲ抱ク者有ラン乎ヲ慮リ乃チ特書シテ以テ只現任ノ官職ヲ失フノミナルヲ明カナラシメタルナリ

○又同條ニ刑期間公權ヲ行フヲ停止スルト記セルニ依レハ第三十一條ニ記載スル公權ノ中夫ノ年金ノ如キハ停止公權ノ期限中之ヲ受取ルヲ得サルノミニシテ刑期滿限ノ後ハ乃チ一時ニ之ヲ受取ルヲ得可キカ如シ然レモ實際決シテ然ルニ非ス此事ニ付テハ宜シク明治十六年九月十三日太政官第三十九號ノ達及ヒ同年十月廿九日大藏省無號達ヲ參看ス可シ蓋シ刑法ニ於テハ僅ニ公權ヲ行フヲ停止スル

公權停止ノ効及テ特別ノ命令達

四百四十五

ニ過キスト雖此達ノ定ムル所ニ依レハ其重禁錮ニ處セラレタル者ハ常ニ勳章年金ヲ剝奪セラレ輕禁錮ニ處セラレタル者ハ一時年金ヲ停止スルモノトシ又犯罪ノ訴ヲ受ケテヨリ以來刑期滿限ニ至ル迄ノ間ニ係ル年金ハ之ヲ扣除シテ其殘餘ヲ給與スルトセリ

禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ必ス時止ハレタル公權ヲ停止スルヲ附加スル所ナラズ以テ

予ハ前ニ剝奪公權ヲ論スルニ際リ公權ヲ剝奪シテ却テ犯人ヲ利スル等ノ不都合ヲ生スルトアルヲ以テ立法者ノ當ニ注意ス可キ事項ヲ述ヘタリ今ヤ停止公權ニ付テモ亦立法者ニ對シ同一ノ注意ヲ望マサルヲ得ス何ナレハ其不都合ノ結果ヲ生スルト殆ント彼レ剝奪公權ニ異ナラサルヲ以テナリ例ハ徵兵忌避ノ所爲ハ第七十八條ニ依リ重禁錮ニ處セラル、ヲ以テ亦同時ニ公權ヲ停止セラル、者トス夫レ徵兵忌避者ハ元來兵役ヲ忌避シタル者ナレハ其兵籍ニ入ルノ權ヲ停止シテ果シテ何ノ苦痛カアル寧ロ其希望ヲ充タス者ト謂ハサルヲ得ス

且ツ盜罪詐欺罪ヲ犯シタル者ニハ固ヨリ誠實ノ人ナシト決言スルヲ得可キモ徵兵忌避者ノ如キハ誠實ノ人必スシモ之ヲ犯サ、ルニアラス否ナ徵兵忌避ト人ノ善惡邪正トハ殆ント牽連スル所ナシト謂フ可シ然ルニ今徵兵忌避者ノ公權ヲ停止シ其裁判所ニ出テ、證人ト爲ルノ權ヲ停止スルハ抑、如何ナル理由ニ基テ然ルモノ乎徵兵ヲ忌避スル者ハ即チ國民ノ義務ヲ知ラサル者ナリ國民ノ義務ヲ知ラサル者ナルカ故ニ即チ真正ノ事實ヲ陳述スル者ニ非スト演譯シ能フ可シト爲スニ在ル乎予ヤ其說ヲ求メテ之ヲ得サルナリ願ミテ其證言ニ因リ己レカ利益ト爲ント欲スル者ヲ視ヨ其證人タラシメントスル者ハ徵兵ヲ忌避シタルカ爲メ即チ證人タルノ權ヲ失ヒタレハ亦之ヲ奈何トスルニ由ナカラシ夫レ如斯ナレハ此等ノ場合ニ於ケル停止公權ハ犯人其者ヨリ寧ロ他人ニ苦痛ヲ與フル者ナリト謂ハサルヲ得ス況ンヤ彼ノ

第二百四十六條第二百四十八條等ニ規定スル傳染病豫防規則ニ違犯シタルカ爲メ禁錮ニ處セラレタル者ノ公權ヲ停止シテ其裁判所ニ於テ證人ト爲ルコトヲ許サ、ルノ殊ニ一層奇怪ナルヲヤ其レ然リ故ニ若シ裁判官ヲシテ公權中ノ一又ハ二三ヲ取捨シテ之レカ剝奪停止ヲ爲スノ自由アラシメハ蓋シ前述ノ不都合ヲ除キ且ツ大ニ犯人ノ懲戒ト爲ルニ庶幾カラン歟

停止公權ハ必要ナリヤ

之ヲ要スルニ停止公權ハ其効用實ニ些々タルニ似タリ何トナレハ刑期間此等ノ權利ヲ行フコトヲ停止シタリトテ之ヲ以テ犯人ニ苦痛ヲ感セシムルニ足ラス蓋シ佛國等ニ於テハ時ニ或ハ入獄中ノ者ヲ國會議員ニ撰擧スル等ノコトアルヲ以テ停止公權ノ効用ナキニ非サルモ我邦ニハ未タ此等ノ事ナケレハ亦敢テ入獄中公權ヲ停止スルカ如キノ必要アルヲ見ス而シテ入獄中官吏ト爲ルヲ得サルコトモ固ヨリ明瞭ニシテ

獄中勳章ヲ佩用スルモ以テ名譽トスルニ足ラサレハ此等ノ停止ハ敢テ犯人ニ對シテ其効ナキ而已ナラス其兵籍ニ入ルノ權又ハ裁判所ニ出テ、證人ト爲ルノ權等ヲ停止スルカ如キ却テ他人ノ害ト爲ルニ至ル可シ夫レ他人ノ害ト爲ラサル者ハ停止ノ効ナク停止ノ効有ルモノハ亦他人害ト爲ルハ奇々怪々ノ結果ナリト謂ハサル可カラズ然レモ予カ前刑期計算ノ所ニ於テ論シタルカ如ク裁判宣告ノ日ヨリ附加刑ノ効果生スルモノナレハ犯人保釋ヲ得タル場合等ニ於テハ停止公權モ亦大ニ其効用ヲ見ルニ至ル可キナリ

第二項 罰金

罰金ハ當然附加スル者ニアラス必ス宣告アルコトヲ要ス即チ第四十二條ニ記載スル所ナリ而シテ附加ノ罰金ハ其徵收換刑等概シテ主刑ノ罰金ト同一ニシテ主刑ノ罰金ニ付テハ予既ニ之ヲ講了シタレハ今復茲

附加ノ罰金

ニ養セサル可シ

第三節 重罪輕罪ニ普通ノ附加刑

重罪ニ普通ノ附加刑

重罪輕罪ニ普通ノ附加刑ハ監視及ヒ沒收ノ二者ナリトス但沒收ハ又違警罪ノ附加刑ト爲ルトモアル可シ

第一項 監視

監視

監視ハ有意犯ニシテ最モ惡ム可ク最モ恐ル可ク且ツ最モ社會ト道德トヲ傷害ス可キ所爲ニ付キ附加ノ刑トシテ科スル者トス然レモ又時アリテ主刑ヲ免シ單ニ監視ニノミ付スルト有リ此場合ニ於テハ附加刑ノ名稱ハ頗ル妥當テ欠クモノト謂ハサルヲ得ス

監視ハ何ノ爲メニシテ設ケラレタルヤ

監視ハ主刑ノ終ルト同時ニ始マルモノニシテ監視ノ始マリタル時ハ則チ主刑ノ終リタル時ナリ而シテ監視ハ一ハ犯人ノ再ヒ罪穢ニ陥ラントスルヲ豫防シ一ハ其自由ノ幾分ヲ檢束シテ以テ懲戒スル所アラ

宣告ヲ要モスシテ監視ニ附加スル

シメントスルニ在リ故ニ亦一箇ノ刑罰タルニ外ナラサルナリ  
主刑ノ期滿免除ヲ得可キ場合ト雖モ監視ハ仍ホ期滿免除ヲ得サルモノナリ又宣告ニ因テ附加セラレ或ハ宣告ナクシテ法律上當然附加セラレ、モノトス

○重罪ノ刑ニ附加スル監視ハ別ニ宣告ヲ用ヒス而シテ其主刑無期ナル時ハ終身服役スルヲ以テ又別ニ監視ニ付スルノ利益アルトナシ故ニ主刑無期ナル時ハ其期滿免除ヲ得タル場合ニノミ監視ニ付スルモノトス(第三十九條)

期滿免除ニ因リ其主刑ヲ免スル場合ニ於テハ附加刑タル監視モ亦之ヲ付セスシテ可ナルカ如シ奈何トナレハ犯罪ノ後既ニ三十年ノ星霜ヲ經タル者ヲ五年ノ監視ニ付スルカ如キハ殆ント益スル所ナカル可ケレハナリ然レモ法律ノ規定既ニ斯ノ如クナレハ實行上復之ヲ奈何

重罪刑ニ  
附加スル  
監視ノ期

トモスルニ由ナキナリ  
有期ノ重罪刑ニ附加スル監視ハ各本刑ノ短期三分ノ一ニ等シキ時間  
トス(第三十七條)故ニ有期徒刑有期流刑ニ處セラレタル時ハ其短期ハ  
十二年ナルヲ以テ監視ハ四年ナリ又減等セラレテ重懲役重禁獄ニ處  
セラレタル時ハ其短期ハ九年ナルヲ以テ監視ハ三年ナリトス而シテ  
ニ本刑ノ短期ト云ヘルハ法律上定ムル所ノ短期ニシテ裁判官カ宣告  
シタル刑ニ就テ云ヘルニハ非サルナリ

宣告ニ因  
リ附加ス  
ル監視

○輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス且各本條ニ明文アル時ノ外  
裁判官ニ於テ擅ニ之ヲ附加スルヲ得サルモノトス(第三十八條)  
輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス監視ノ期限間  
公權ヲ停止ス主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者亦同シ(第三十四條)  
ト明定シ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ付テ此ト同一ノ規定ナキ所以

タル他ナシ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ既ニ終身公權ヲ剝奪スルモ  
ノナレハ特ニ監視ノ期限間公權ヲ剝奪スルト記スルノ必要ナキヲ以  
テナリ

茲ニ所謂輕罪ノ刑ニ於テトハ禁錮罰金ヲ併セ云フヲ勿論ナリ何トナ  
レハ單ニ罰金ニ處シタル者ト雖亦監視ニ付スルノ場合アレハナリ  
(第九十九條第二百一條參看)但此事ニ付テハ聊カ所論アリト雖亦  
ハ姑ク其所ニ讓ラン

又第三十三條ニ於テハ禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現  
任ノ官職ヲ失ヒ云々ト記シタルモ第三十四條ノ輕罪ノ刑中單ニ罰金  
ノ刑ニ處セラレタル者ハ現任ノ官職ヲ失フ可キ乎否ヤニ付テハ法律  
上別ニ明文アルヲナシ是レ罰金ノ刑ニ該ル者ハ其情狀素ト輕キニ由  
ル然レモ實際ニ於テハ或ハ官署ノ長官ニ於テ之ヲ免職スルヲアルヘ



シト思惟セラル  
停止公權ノ効用薄キヲハ予既ニ之ヲ述ヘタリ然レモ第三十四條ノ場  
合ニ於テハ其効用アルヲ明カナリ何トナレハ主刑ノ既ニ終リタル場  
合ナレハナリ

主刑ヲ免シテ單ニ監視ニ付シタル時其監視ハ重罪ト云フ可キ乎將タ  
監視ヲ科ス可キ者ハ之ヲ重罪ト云フ可キ乎將タ  
輕罪ト稱ス可キ乎  
云フ可キ乎

主刑ヲ免シテ單ニ監視ニ付シタル時其監視ハ重罪ト云フ可キ乎將タ  
輕罪ト稱ス可キ乎ノ疑問アリ然レモ予顧フニ此等ノ監視ハ所謂特別  
ノ刑ニシテ之ヲ重罪ト稱ス可カラサルナリ人或ハ云ハン第三  
十四條第一項ニ輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付セラレタル者ハ云々公權ヲ  
停止ス「ト記シ第二項ニ至テ主刑ヲ免シテ監視ニ付シタル者亦同シ」ト  
記シ二者等シク公權ヲ停止シタル事及ヒ停止公權ハ元來輕罪ニ限リ  
テ附加スル者ナル事トニ依テ之ヲ觀レハ此場合ノ監視モ亦輕罪ノ刑  
ナラント然レモ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル場合ハ既ニ之ヲ懲

戒ス可キ刑ニ處セサル者ナレハ縱令ヒ其後罪ヲ犯ス者アルモ之ヲ再  
犯者ナリト看做ス「ト能ハサル可シ果シテ然テハ到底之ヲ重罪ト輕罪  
ト稱スル「ト能ハサルヤ晰ケシ畢竟行政上一箇ノ豫防處分タルニ過キ  
サルノミ

第二項 沒收

沒收トハ  
何ソ

沒收ハ或ル財産ノ所有權ヲ官ニ取奪スルニ成立スル者ニシテ重罪輕  
罪違警罪ニ通シ用ユ可キモノナリ今其性質ニ就テ云ヘハ期滿免除ヲ  
得可ク又必ス宣告アル「トテ要スルノ刑ナリトス

○沒收ハ一ノ刑ナルヲ以テ法律ノ明定スル場合ニ非サレハ裁判官ハ  
之ヲ宣告スル「ト能ハス然レモ我刑法ハ第四十三條ニ其原則ヲ規定シ  
タルノミニシテ他ニ其適用ヲ示サ、ルカ故ニ動モスレハ解釋上ノ困  
難ヲ來ス「トナキニアラス何トナレハ第四十三條ニ列記スル者ト各本

條トテ参照シテ其沒收ス可キ者ト否テサル者トテ判別セサル可カラ  
 サレハナリ之ニ反シテ佛國刑法ハ其第十一條ニ重罪輕罪ニ付テノ沒  
 收ノ原則第四百七十條ニ違警罪ニ付テノ沒收ノ原則ヲ掲ケ尙ホ各本  
 條ニ於テ其沒收ス可キ物品ヲ明示シタルカ故ニ其原則ヲ解釋スルニ  
 於テモ亦甚タ容易ナリ而シテ若シ裁判官ニ於テ其各本條ニ明定シタル  
 以外ノ物件ヲ沒收シタルハ則チ大審院ハ之ヲ原由ト爲シ以テ其裁  
 判ヲ破毀スルナリ我刑法中ニモ或ル場合ニ於テ本條ニ云々ノ物品ハ  
 之ヲ沒收スト特記シタル所ナキニアラスト雖モ是レ唯第四十三條ニ  
 規定スル原則ノ例外ニ係ル沒收ヲ掲ケタルニ過キサレナリ  
 沒收ハ則チ刑ナリトノ趣旨ニ因リ若シ被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタル  
 時ハ其事件ニ關シ差押タル物品ハ之ヲ沒收スルコト能ハス乃チ其所有  
 者ニ還付スルコトヲ要ス

數罪俱發  
 於場合ニ  
 沒收處分

○數罪俱發ノ場合ニ於テハ一ノ重キニ從テ處斷シ其輕キ罪ヲ問ハサ  
 ルノ規則ナルカ故ニ今若シ法律ニ禁制シ若クハ犯罪ノ用ニ供シタル  
 物件等ニシテ重キ罪ニ屬スル者ハ之ヲ沒收スルヲ得ルコト勿論ナレモ  
 其輕キ罪ニ屬スル物件ハ之ヲ沒收スルコトヲ得ルヤ否ヤ是レ第三百三條  
 ニ規定スル所ナリ曰ク「數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フ時ト雖モ其沒收  
 及ヒ徵償ノ處分ハ各本條ニ從フ」ト

第四十三  
 條但書ノ  
 解

○第四十三條ノ但書ハ瞥見スル所ニテハ上文ノ「宣告シテ官ニ沒收ス」  
 ノ文詞ヲ承ケ即チ宣告セスシテ沒收スル者アルカ如クニ見ユルト雖モ  
 決シテ然ルニアラス此但書ハ單タ官ニ沒收スノ語ヲ承ケタル者ニシ  
 テ即チ本條ニハ沒收ス可キ三箇ノ場合ヲ規定シタリト雖モ法律規則  
 ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ可キモノニ  
 シテ其沒收ス可キモノ必スシモ本條三箇ノ場合ニ限ラストノコトヲ明

沒收ス可キ物件

カシタルニ在リ固ヨリ宣告セスシテ沒收スル例外ノ場合アルヲ言ハント欲シタルニ非サルナリ去レハ此但書ニ依リ刑法ハ勿論他ノ特別法ニ於テ沒收ノ例ヲ規定シタルモノアル時ハ皆其規定ニ從テ處分ス可シト雖其沒收ハ必ス之ヲ宣告セサル可カラス夫ノ佛國ノ如キ其沒收ス可キ物品ハ各本條ニ明定スルニ拘ハラス猶ホ之ヲ宣告スルヲ要ストセリ況ンヤ我刑法ノ如ク各本條ニ明定スル所ナキ者ニ於テヤ

第一 法律ニ於テ禁制シタル物件

凡ソ沒收ノ目的物ハ之ヲ別テ二ト爲スヲ得可シ曰ク物件ノ性質法律ニ違反スルニ因リ之ヲ占有シ販賣シ又ハ陳列スルヲ以テ直チニ沒收セラル可キモノ(一)曰ク物件ノ性質ハ敢テ法律ニ違反セスト雖其或ハ犯罪ノ用ニ供セラレ或ハ犯罪ニ因リ直接ニ獲得セラレタルカ爲メ

沒收セラル可キモノ(二)是レナリ

罪心及罪休ノ解

○佛國刑法第十一條ニハ罪體ナルモノアリ罪體トハ何ソヤ凡ソ犯罪ニ心ト體トアルヲ猶ホ人ニ心ト體トアルカ如シ罪心トハ犯罪構成ノ原素中其無形ニ属スルモノ即チ犯法ノ意思ヲ云ヒ罪體トハ犯罪構成ノ原素中其有形ニ属スルモノ即チ阿片烟軍用ノ銃砲彈藥猥褻ノ圖書、偽造若クハ變造ノ貨幣度量衡等ノ類ヲ云フ佛國刑法ニ於テ此罪體ヲ收没スルノ例ハ其第七十六條第二百八十六條及ヒ第二百八十七條等是ナリ

第四十三條ニ所謂禁制ニ於テ何物ヲ指シタルモノナル乎

○我刑法ニ於テハ罪體ト言ハス唯法律ニ於テ禁制シタル物件ト云ヘルノミ夫レ法律ニ於テ禁制シタル物件トハ果シテ何等ノ物件ヲ指稱シタルモノナル乎即チ前段說示シタル罪體ノ事ヲ云ヘルニ在ルノミ去レハ阿片烟ノ如キハ其最モ著ルシキ者ト云フ可シ又夫ノ銃砲藥彈

ノ如キハ元來一個人ノ私有ス可キ者ニ非サルヲ以テ之ヲ禁制物ト看ルヲ得可シ(第一百五十七條)然レモ更ニ一步ヲ進メテ之ヲ細論スレハ銃礮彈藥ト雖モ又官許ヲ得テ之ヲ所有シ又ハ販賣スルヲ得ルカ故ニ此場合ニ於テハ之ヲ禁制物ト云フヲ得サル可シ畢竟其禁制物タルト否ラサルトハ各場合ニ依テ判別セサル可カラサル者ニシテ豫シメ之ヲ汎論スルヲ能ハサルナリ阿片烟ニ於テモ亦然リ其物品ハ之ヲ禁制物ナリト云フト雖モ若シ賣藥商人カ官許ヲ得テ之ヲ所有シ又ハ販賣スル場合ノ如キ之ヲ禁制物ト云フ可ラサルヤ明ナリ其他偽造變造貨幣及ヒ度量衡偽造ノ證書又ハ猥褻ノ圖畫等皆禁制物ナリ而シテ其偽造ニ關スル物件ハ官許ヲ得テ之ヲ所有スルヲ得可キ者ニ非サレハ是レ即チ純然タル禁制物ナリト雖モ然カモ猥褻ノ圖畫ノ如キハ之ヲ公然展示シ又ハ販賣スルヲ得サルノミニシテ敢テ其所有ヲ禁スル

者ニ非サレハ是レ純然タル禁制物ニ非スト謂フ可シ茲ニ注意ス可キアリ他ナシ前段講述スル所ノ物件ハ元來禁制物ナリト雖モ他犯罪成立ニ必要ナル條件具備シテ犯罪始メテ成立シ犯罪成立シタルヲ以テ刑ノ言渡ヲ爲スニ至リ此ニ於テ始メテ此等ノ物件ヲ沒收スルヲ得可キモノニシテ其犯罪成立セサル時ハ即チ決シテ沒收スル能ハサルト是ナリ

第二 犯罪ノ用ニ供シタル物件

犯罪ノ用ニ供シタル物件トハ物件カ法律ニ違反スルニアラス只犯罪ノ用ニ供セラレタルカ爲メ法律之ヲ沒收スヘキヲ令シタルノミ例ヘハ貨幣ヲ偽造スルカ爲メニ用ヒタル器械又ハ人ヲ殺傷スルカ爲メニ用ヒタル器具ノ如キ即チ是ナリ佛國刑法ハ犯罪ノ用ニ供ス可キ物件ヲ以テ犯罪ノ用ニ供シタル物件

ト同シク之ヲ沒收スルトセリ所謂犯罪ノ用ニ供ス可キ物件ヲ沒收スルトハ即チ法律ノ禁制スル兵器ヲ造リタル場合ニ於テ其物体ヲ沒收スルカ如キヲ云フ此場合ニ於テハ乃チ一ノ犯罪ト爲シテ之ヲ罰スルナリ(佛刑法第三百十四條參着)是レ其物件ハ危險ヲ社會ニ與フルモノナルカ故ニ之ヲ犯罪ノ用ニ供シタルモノト同視ス可シトスルニ由ル我刑法ハ犯罪ノ用ニ供シタル時ニ非サレハ之ヲ沒收セサルヲ以テ未遂若クハ豫備ノ用ニ供シタル物件ハ其未遂又ハ豫備ヲ罰スル場合ニ限り之ヲ沒收ス可キノミ

夫ノ第四百二十五條第一ニ記載スル規則ヲ遵守セスシテ火藥ヲ市街ニ運搬シタル者ハ其火藥ヲ沒收ス可キヤ否ヤ予惟フニ之ヲ沒收スルト得サル可シ何トナレハ火藥ハ犯罪ノ用ニ供セラレタル者即チ罪ヲ犯スノ器械ト爲リタル者ニ非サレハナリ

第三 犯罪ニ因テ得タル物件

犯罪ニ因テ得タル物件トハ例ハ強竊盜ノ贓物官吏ノ收受シタル賄賂若クハ第四百二十七條第十二項(違警罪)ノ場合ニ於テ得タル金錢ノ如キ是ナリ然レモ犯罪ニ因テ得タル物件ヲ以テ他ノ物件ニ交換シタル時例ハ贓金ヲ以テ他ノ物件ヲ買入レタル時ハ其物件ヲ沒收スルト得ス他ナシ沒收ハ或ル確定ノ物件ヲ指シテ之ヲ收奪スルモノニシテ例ハ危險ノ物件ヲ沒收スルハ即チ之ヲ破壞シテ社會ノ危險ヲ兩前ニ綢繆スルノ旨趣ナルニ今其代物ヲ沒收スルカ如キハ是レ沒收ノ目的ニ背反スルモノナレハナリ

○第四十三條ニ云ヘル別ニ定メタル沒收ノ場合トハ刑法ニ在テハ第百六十一條及ヒ第二百六十一條ニ記載スル場合ノ如キ是ナリ夫レ犯罪ノ用ニ供シタル物件ハ其犯人ノ所有ニ係ルカ若クハ所有者ナキ時

別ニ定メタル沒收ノ場合ト如何

ノ外之ヲ沒收スルヲ得サルハ第四十四條ニ記載スル原則ナリ然ルニ今示シタル場合ニ於テハ其物件何人ノ所有ニ係ルヲ問ハス等シク之ヲ沒收スルモノトスコレ例外ト爲ス所以ナリ

第四十四條ノ規定スル所ニ依レハ其法律ニ於テ禁制シタル物件ハ其官許ヲ得テ所有スル者及ヒ正當官衙ノ所有スル者ヲ除クノ外何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收スルモ其犯罪ノ用ニ供シタル物件及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ物件其者カ法律ニ違反スルニ非スシテ其犯罪ノ用ニ供セラレ又ハ犯罪ニ因テ直接ニ獲得セラレタルニ因リ始メテ法律ニ違犯シタリト爲シ沒收セラル、モノトス然リ而シテ其之ヲ沒收スル所以タル重モニ犯人ヲ懲戒シテ再ヒ之ヲ使用セシメス若クハ犯罪ノ成果ヲ益セシメサレントスルニ在ルヲ以テ其他人ノ所有ニ係リ又ハ他人ニ輾轉シタルモノハ之ヲ沒收スルヲ能ハスト定メタルナリ

又所有者ナキ財産ハ官ニ屬スルヲ以テ一般ノ原則トスルカ故ニ其犯罪ノ用ニ供シタル物件又ハ犯罪ニ因テ得タル物件ニシテ現ニ所有者ナキ時ハ之ヲ沒收スルヲ當然ナリト謂フ可シ

○沒收ノ言渡前犯人死去シタル時ハ何等ノ物件ト雖モ之ヲ沒收スルヲ得ス若シ其言渡後犯人死去シタル時ハ其言渡ニ基キ物件ヲ沒收スヘキヲ勿論ナリ

以上購述シタル沒收ノ事ニ付テハ宜シク明治十五年五月司法省丙第二十號達及ヒ同年六月同省丙第廿四號達ヲ參看ス可シ

### 第三章 刑ノ減輕及ヒ加重ヲ論ス

○前章ニ於テ既ニ講説シタルカ如ク立法者カ刑ニ輕重ノ等差ヲ立テ且ツ數種ノ刑罰ヲ設ケタル所以ハ必竟犯罪ニ大小輕重ノ等差アリテ固ヨリ畫一ノ處分ヲ爲ス可カラサレハ其犯罪ノ情狀ニ因リ各恰當ノ

刑ヲ求ムルヲ得可ク即チ偏重偏輕ノ弊ヲ除キ罪ト刑トノ權衡ヲシテ交々宜シキヲ得セシメントスルニ在ルナリ

犯罪ノ情狀ハ各輕重ノ別アリテ固ヨリ同一視スルヲ得ス例ヘハ竊盜犯ノ如キ二人以上ニテ犯シタル時ハ其被害者ニ與フルノ危險一人ニテ犯シタル時ヨリ大ナルヲ勿論ナレハ其情狀モ亦隨テ重ク又其犯人十六歳以上二十歳未滿ナレハ其能力常人ニ若カサルカ爲メ隨テ其情狀輕シ又被害者犯人ノ親屬ニ係ル時ノ如キハ其情狀他人ノ物品ヲ竊取シタル者ニ比シテ稍輕シト謂フ可シ之ヲ要スルニ既ニ犯罪ノ情狀ニ輕重アル時ハ其刑罰モ亦隨テ輕重ナキヲ能ハス加之ナラス法律ハ或ル場合ニ於テハ其情狀ニハ敢テ輕重ナキモ利益主義ニ基テ其刑罰ヲ宥恕スルヲ間々之レナキニアラス

罪ノ情  
而ノ此情狀ノ輕重ヲ來タス原由ハ犯罪ノ前ニ起ル者アリ犯罪ト共ニ

狀ヲ輕重  
スル原由  
ハ何レノ  
時ニ生ス  
ル乎

起ル者アリ又犯罪ノ後ニ起ル者アリ

例ヘハ幼年ニシテ教育ノ未タ全カラサルカ爲メ又ハ其親屬朋友ノ惡風ニ感染シタルカ爲メ罪ヲ犯ス者アリ或ハ赤貧飢餓ニ迫ルカ爲メ又ハ何等ノ原因ナク只私利ヲ經營センカ爲メ他人ノ物品ヲ盜ム者アリ是等ハ皆犯罪ノ前ニ起リタル情狀ナリ又二人以上ニテ共ニ竊盜ヲ犯シタルカ如キハ則チ犯罪ト共ニ起リタル情狀ナリ又竊盜ヲ犯シタル後其贓物ノ處分如何ニ由リテ生スル情狀ノ如キモ亦必ス無キニ非ス是レ犯罪ノ後ニ起リタル情狀ナリ

夫レ如此犯罪ノ情狀千態萬狀固ヨリ枚舉ニ遑アラス是以テ立法者ハ強メテ各種ノ情狀ヲ網羅シ可及的豫シメ之ヲ法文ニ規定スルヲ要スルナリ

然レモ其千態萬狀ノ情狀ニ至リテハ立法者ニ於テ豫シメ悉ク網羅シ

テ規定スル能ハサルヲ勿論ナレハ乃チ裁判官ニ酌量ノ權ヲ委スルノ止テ得サルニ至レリ但シ裁判官ニ酌量ノ權ヲ許シタルハ單ニ減輕ノ時ニ限ル者ト爲シ其加重ノ如キハ裁判官ニ於テ只各本條ニ規定スル刑期限内ニ在テ最上ノ期限若クハ金額ヲ科スルノ權アルノミ是レ加重ノ自由ヲ舉テ裁判官ニ委スルカ如キハ裁判官ノ職權重キニ過キ却テ危險アリトスルニ由ル

立法者カ豫定シタル加重減輕ニハ一般ノ犯罪ニ適用セラル、者アリ或ハ特別ノ犯罪ニ適用セラル、者アリ

茲ニハ加重減輕ノ原由ハ姑ク之ヲ説明セス先ツ其原由アリタル者ト假定シテ直チニ加重減輕ノ方法ヲ講述ス可シ

第一款 加減例ヲ論ス

加減例ニ付テハ第六十七條以下ニ規定セリ此加減例即チ刑ヲ加重減

輕スル方法タル當ニ立法者ノ豫定シタル加減ニ適スルノミナラス立法者カ裁判官ヲシテ加減スルヲ得セシメタル場合ニモ亦同シク適スルナリ去レハ第六十六條ニ「法律ニ於テ」ト云ヘル文詞ハ之ヲ法律自ラ加減シタル時ト解セスシテ則チ法律ニ從ヒト云フノ意味ニ讀ム可キ者トス

加減例

○凡ソ刑ヲ加減スルニハ常事犯ト國事犯トヲ區別セサル可カラズ即チ第六十七條ニ於テハ常事犯重罪ノ加減例ヲ定メ第六十八條ニ於テハ國事犯重罪ノ加減例ヲ定メタリ而シテ其加減順序ハ何レモ極メテ簡單ナリ例ヘハ常事犯ニ付キ死刑ヨリ一等ヲ減スレハ無期徒刑二等ヲ減スレハ有期徒刑ト爲リ國事犯ニ付キ死刑ヨリ一等ヲ減スレハ無期徒刑二等ヲ減スレハ有期徒刑ト爲ルカ如キ是ナリ

刑ノ加重

○法律ハ刑ヲ加重スルト減輕スルトニ付キ其例ヲ異ニセリ



法下減輕  
揆テハ其  
セテ同ク

加ヘテ死  
刑ニ入ル  
ル所以ハサ

第四百七十

第一 加重シテ死刑ニ上ルヲ能ハスト雖モ死刑ハ減輕シテ徒刑若クハ流刑ニ下スヲ得(第六十六條)

其加ヘテ死刑ニ入ルヲ能ハサル所以ハ予カ前既ニ説明シタルカ如ク抑テ死刑ハ最上ノ刑ニシテ所謂刑ニ希望ス可キ諸多ノ性質ヲ缺キタル者ナレハ立法者ハ各本條ニ於テモ可成的死刑ノ場合ヲ減少センヲ強メリ然ルニ今其元來死刑ニ該ラサル者ヲ加重シテ死刑ニ致スカ如キハ全ク此精神ニ悖ル者アルニ由ルナリ

第二 輕罪ノ刑ハ加重シテ重罪ニ入ルヲ能ハスト雖モ重罪ノ刑ハ減輕シテ輕罪ニ下スヲ得

其加ヘテ重罪ニ入ルヲ能ハサル所以タル蓋シ重罪ノ刑ハ其處分輕罪ニ比シテ酷ク嚴格ナルカ故ニ今輕罪ヲ加ヘテ重罪ニ入ルカ如キハ頗ル苛酷ニ過クルノ嫌ナキヲ能ハス加之ナラス若シ重罪ニ入ルヲ得

加ヘテ重  
罪ニ入ル  
ル所以ハサ

ル者トセハ亦其公權ヲ剝奪セサル可カラズ又其後重罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ則チ再犯ヲ以テ論セサルヲ得サルニ至ル可ク要スルニ立法者ハ此等ノ處分ヲ正當ニアラスト爲シタルニ由ルナリ

各本條ニ定メタル禁錮ハ五年ヲ以テ最長期ト爲スト雖モ再犯加重等ノ場合ニ於テハ此五年ヲ加ヘテ七年ニ至ルヲ得ル者トス故ニ七年ノ刑期ハ夫ノ重罪ノ刑中輕懲役又ハ輕禁獄ノ短期ヨリ重キニ似タリト雖モ其性質ハ依然輕罪ノ刑タルニ外ナラサルナリ

第三 違警罪ノ刑ハ加重シテ輕罪ニ入ルヲ能ハス然レモ之ヲ減盡スルヲ得

其加ヘテ輕罪ニ入ルヲ能ハサルノ理由タル違警罪ハ元來專ハ一地方ノ取締ニ關スル些細ノ犯罪ナレハ其性質輕罪ノ比ニアラサルヲ猶ホ輕罪ノ重罪ニ於ケルカ如キニ由ル但シ拘留ハ加ヘテ十二日ニ至ル

加ヘテ輕  
罪ニ入ル  
ル所以ハサ

トテ得可ク科料ハ加ヘテ二圓四十錢ニ至ルヲ得可シト雖モ其違警罪タル性質ヲ變スル者ニ非サルナリ

○刑ハ死刑ヨリ上ルヲ得ス又拘留一日科料金五錢ヨリ下ルヲ得ス何トナレハ死刑ノ上ニ刑アラズ拘留一日科料金五錢ノ下ニ刑アラサレハナリ然レモ往時ハ死刑ニ斬絞ノ二者ヲ別チ斬ヲ以テ重ト爲シ絞ヲ以テ輕シト定メタル而已ナラス尙ホ其上ニ炮殺磔刑等ノ酷刑アリタリト雖モ此最後ノ二者ハ維新ノ後早ク既ニ廢セラレタリ

重罪ノ刑ノ加減法

○重罪ノ刑ト重罪ノ刑トノ間ニ在テ或ハ加重シ或ハ減輕スルノ順序ハ第六十七條及ヒ第六十八條ニ於テ明示セリ而シテ其輕懲役又ハ輕禁獄ヨリ減輕スル場合ハ則チ第六十九條ニ於テ規定セリ  
輕懲役ヨリ一等ヲ減スレハ則チ二年以上五年以下ノ重禁錮ト爲リ輕禁獄ヨリ一等ヲ減スレハ則チ二年以上五年以下ノ輕禁錮ト爲ル抑シ禁

輕罪ノ刑ノ加減法

錮ハ其重タルト輕タルトヲ問ハス十一日ヲ以テ最短期トナス者ナルニ此場合ニ限り特ニ二年以上ニ制限シタルハ如何蓋シ其理由タル若シ之ヲ十一日以上ト爲サン手元來輕懲役及ヒ輕禁獄ハ各六年ヲ以テ最短期ト爲ス者ナルニ僅ニ一等ヲ減メ十一日ノ禁錮ニ下ルヲ得セシムル時ハ其間甚タ輕重ノ權衡ヲ失スル而已ナラス裁判官ニ委スルニ如斯廣大ナル範圍ヲ以テスルノ不可ナルニ由ル第二編以下ノ各本條ニ於テモ十一日以上五年以下ト云フカ如キ最長期ト最短期トノ間互ニ懸隔シタル刑期ノ規定ヲ見サルモ亦實ニ此レニ職由セサルハ莫シ  
○重禁錮ヨリ輕禁錮輕禁錮ヨリ罰金ト各遞下ス可キカ如キト雖モ輕罪ノ加減例ハ即チ全ク重罪ノ場合ト異ニシテ其各刑期內ニ於テ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス是レ第七十條ニ規定スル所ナリ  
其然ル所以ノ者ハ他ナシ元來重禁錮ハ輕禁錮ト其刑ノ長短ヲ同クシ

只定役ノ有無ニ付キ差異アルノミナレハ其定役アル重禁錮ヨリ一等ヲ減シテ定役ナキ輕禁錮ニ處シ又輕禁錮一等ヲ加ヘテ重禁錮ニ入ルモ其刑期ニ異同ナケレハ加減ノ効甚タ薄弱ニシテ寧ロ各刑期內ニ在テ期限ノ長短ヲ區別シ之ヲ加減スルノ勝レルニ如カサル而已ナラス輕禁錮ハ常事犯及ヒ國事犯ニ通用スルモノナルモ重禁錮ハ決シテ國事犯ニ適用セサルカ故ニ今二者ヲ相通シテ加減スルカ如キハ甚タ不都合ヲ生ス可ケレハナリ

○罰金ハ先ニ説明シタルカ如ク其性質一般ニ輕禁錮ヨリ輕キ者ナレハ之ヲ輕禁錮ト相通シテ加減スルモ敢テ不可ナキニ似タリ然レモ元來罰金ハ財産ヲ奪ヒ禁錮ハ自由ヲ奪フノ刑ニシテ其性質自カラ異同アリ去レハ一般ヨリ觀察スルキハ罰金ハ元來禁錮ヨリ輕キ刑ナリトスルモ立法者ハ或犯罪ニ付テハ其情狀罰金ヲ科スルヲ以テ

適當ト爲シ又或犯罪ニ付テハ其情狀禁錮ニ處スルヲ以テ適當ト爲シ而シテ各其懲戒ノ目的ヲ達スルニ足ル可シト思惟シタル刑ヲ設ケタル者ナルニ今罰金ヨリ加ヘテ禁錮ノ刑ヲ科シ禁錮ヨリ減シテ罰金ノ刑ヲ科スルカ如キハ惟ニ其權衡ヲ失スルノ恐レアルノミナラス更ニ立法者ノ趣旨ヲ傷フニ至ルノ患ナキト能ハサレハ寧ロ各其刑限內ニ於テ金額刑期ヲ増減伸縮スルノ至當ナルニ如カスト思料シタルニ由ル加之ナラス第七十條ニ於テ禁錮ハ加ヘテ七年ニ至ルヲ以テ制限シタルモ罰金ノ刑ハ此制限ナケレハ或ハ幾百萬ノ多額ニ至ルコトアルモ固ヨリ逆睹ス可カラサルカ故ニ此點ヨリ云フモ到底二者ヲ區別スルノ利便アリト做シタルニ在ルナリ其レ然リ禁錮罰金ノ加減例ハ重罪ノ場合ト全ク其趣ヲ異ニシテ刑期金額四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲スカ故ニ例ハ第三百六十

六條竊盜ノ刑即チ二月以上四年以下ノ重禁錮ヨリ一等ヲ減スレハ最短期ノ四分ノ一ハ十五日ナルヲ以テ之ヲ二月ヨリ扣除シテ一月十五日ト爲シ最長期ノ四分ノ一ハ一年ナルヲ以テ之ヲ四年ヨリ扣除シテ三年ト爲シ乃チ一月十五日以上三年以下ノ重禁錮ノ區域内ニ於テ處斷ス可キモノトス夫レ是等ノ場合ニ於テハ非除ヤ一等ヲ減輕セラルルモ三年ノ重禁錮ニ處セラル、<sup>一</sup>アル可ク又減輕セラレサルモ僅々二月ノ重禁錮ニ處セラル、<sup>一</sup>ナキニ非サル可キヲ以テ此減刑ハ殆ント犯人ニ利益ナキカ如シト雖<sup>レ</sup>決シテ然ルニアラス即チ三年ヨリ四年ニ至ル間ノ一年ヲ科セラル、<sup>一</sup>ナキノ利益ト二月ヨリ下テ一月十五日ニ科セラル、ノ利益トアルナリ而<sup>レ</sup>之ヲ加等シタル場合ニ於テモ其理タルヤ敢テ之ニ異ナラス例ヘハ前述竊盜ノ刑ニ一等ヲ加フレハ二月十五日以上五年以下ノ重禁錮ト爲ルカ加キ是ナリ又罰金ノ加

減ニ付テモ亦同一ナリトス

輕罪ノ刑  
ニ付テハ  
以上ノ加  
減スルハ  
何スルヤ

○茲ニ一ノ問題アリ即チ只一等ヲ加減スル場合ハ第七十條ニ於テ明了ナリト雖<sup>レ</sup>其二等以上ノ加減又ハ減輕アルキハ如何ナル方法ヲ用ユル乎ト云ヘル是ナリ

此問題ニ付テハ第七十條ニ據リテ答フルヲ得可シ即チ各本條ニ記載シタル刑期即チ本刑ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス例ヘハ竊盜ノ場合ニ於テ未<sup>レ</sup>丁年ナリシカ爲メ一等ヲ減シ自首シタルカ爲メ又一等ヲ減ス可キハ先ツ一等減ニテ一月十五日以上三年以下ト爲シ又一等ヲ減シテ一月以上二年以下ト爲ス何トナレハ其本刑ノ二月以上四年以下ナルヲ終始移動アル可カラサルカ故ニ先ツ一等ヲ減シテ一月十五日以上三年以下ト爲シ更ニ一月十五日及ヒ三年ノ四分ノ一ヲ減シテ刑期ヲ定ムルヲ能ハサレハナリ今之ヲ加重スル場合

ニ就テ云フモ亦同一ナリ即チ一等ヲ加フレハ二月十五日以上五年以下ト爲リ二等ヲ加フレハ三月以上六年以下ト爲ルカ如キ是ナリ又一等ヲ加減スル場合ニ於テモ其理一ナリ例ヘハ一等ヲ加フレハ二月十五日以上五年以下ト爲リ一等ヲ減スレハ本ニ復シテ二月以上四年以下ト爲ル可キナリ

輕罪ノ刑  
ヲ減盡シ  
タル場合

○第七十一條ニ曰ク「禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタル時ハ科料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下寡數一圓九十九錢以下ニ及フ時ハ亦拘留科料ニ處スルヲ得ト即チ前段ニ述ヘタルカ如ク禁錮罰金ハ四等ヲ減スルニ由リ減盡ス可ク四等ヲ減セスシテ一等二等若クハ三等ヲ減シタルニ止マル時ハ其長期又ハ多額ハ仍ホ輕罪ノ刑ニ止マルモ其短期又ハ寡額ハ降テ違警罪ノ刑ニ及フアル可シ何トナレハ禁錮罰金ハ其長期ト短期ト又ハ多額ト寡額ト各別ニ

減輕スレハナリ去レハ此場合ニ於テハ裁判官ハ其犯情重キ者ニ對シテハ或ハ輕罪ノ刑ヲ科シ其犯情輕キ者ニ對シテハ或ハ違警罪ノ刑ヲ科シ總テ其犯情ノ輕重如何ニ應シテ輕罪違警罪何ヨノ刑ニテモ之ヲ科スルヲ得ル者トス要スルニ輕罪ノ刑ヲ減盡シテ違警罪ニ下ルノ法ハ猶ホ重罪ノ刑ヲ減盡シテ輕罪ノ刑ニ下ルノ法ト其旨趣敢テ異ナラサルナリ

違警罪ノ  
刑ノ加減  
法

○第七十二條ニ於テハ違警罪ノ加減例ヲ示セリ是レ亦禁錮罰金ノ場合ト同シク各本刑ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲スナリ本條第一項ニハ別ニ注意ヲ要スル程ノコトナシ只拘留ハ減シテ一日以下ニ降スト能ハス科料ハ減シテ五錢以下ニ降スト能ハサルノ規則ニ付テハ少シク注意スヘキナリ抑モ其一日又ハ五錢以下ニ降スト能サルハ即チ其刑ナキカ爲ナリ而シテ其減等シタルカ爲メ最短期又ハ最寡

刑ノ加減  
ニ因リ零  
數ヲ生シ  
タル等ノ  
處分及体  
刑ノ金刑  
トノ間差  
異アル所

額ノ一日若クハ五錢以下ニ降スヘキ場合ナキニアラス夫レ此場合ニ於テハ裁判官ハ仍ホ一日若クハ五錢以上ノ刑ニ處セラルヲ得サル乎蓋シ本條ニ於テ一日以下若クハ五錢以下ニ降スヲ得スト云ヘルハ只其下ニ刑ナキヲ明カニシタル者ニシテ敢テ裁判官ニ必ス一日以上若クハ五錢以上ノ刑ヲ科ス可シト命シタルニ非ス要スルニ其減シテ一日以下若クハ五錢以下ニ降スヘキ時ハ之ヲ拘留若クハ科料トシテ科スルコト能ハスト云フノ意ニ過キサカヘシ故ニ裁判官ニ於テ若シ其犯情甚タ輕キカ爲メ一日以下若クハ五錢以下ニ該ル可キ者ナリト思料スル時ハ其刑ナキカ爲メ直チニ之ヲ放免スルコト得ヘキナリ

○第七十三條ニ於テハ禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿タサル時ハ之ヲ除棄スル旨ヲ定メタル者ナリ而シテ罰金科料ヲ加減スルニ因リ零數ヲ生シタル場合ニ付テハ此規定ナキヲ以

テ其零數ハ之ヲ除棄スルコトヲ得サル者トス其區別アル理由ハ他ナシ若シ禁錮拘留ニ付キ其零數ヲ計算スル者ト爲ス時ハ監獄ノ手續上言フニ堪ヘサル煩雜ヲ生ス可シト雖斥之レニ反シテ罰金科料ニ付テハ其零數ヲ計算スルモ敢テ此等ノ患ナケレハナリ

附加ノ罰  
金加減法

○附加刑中加減例ヲ要ス可キハ唯罰金アルノミ而シテ附加ノ罰金ハ其主刑ニ從テ加減シ其四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス若シ減盡シタル時ハ止タ主刑ヲ科スルノミコレ第七十四條ニ規定スル所ナリ其罰金ヲ減盡シタル時降テ科料金ニ處セサル所以タル元來科料金ハ違警罪ノ主刑ニシテ附加刑ニ非サレハナリ  
剝奪公權ハ其性質上加減スルコト能ハス何トナレハ元來無期刑ナレハナリ

停止公權及ヒ禁治產ノ二者ハ素ト主刑ト運命ヲ共ニス可キ者ナルカ

故ニ亦別ニ加減例ヲ要スルコトナシ  
 沒收ハ其性質加減ス可キ者ニ非ス蓋シ沒收ノ性質タルヤ其一等二等  
 ナ減輕シテ沒收物品ノ一部分ヲ分離スヘカラサルモノナレハナリ  
 監視ハ長短ノ期限アル者ナレハ其性質上加減スルコト能ハサルニ非ス  
 然レモ監視ハ一種特別ノ性質ヲ有スル者ニシテ主トシテ再犯ヲ豫防  
 スルノ手段ニ出テタル者ナレハ若シ之ヲ減シテ十五日若クハ二十日  
 等ニ爲スカ如キハ爲メニ法律ノ目的ニ反馳スルニ至ル可ケレハナリ  
 但シ之ヲ加重スルハ敢テ此目的ヲ害スルノ憂ナキカ如シト雖モ立法  
 者ハ尙ホ之ヲ裁判官ニ許サスシテ只其六月以上二年以下ノ區域内ニ  
 於テ最長期ヲ擇ムノ權ヲ與ヘタルノミ  
 予ハ此ヨリ上來講說シタル加減例ノ必要ヲ來タス可キ原由ヲ論セン  
 第二款 一般ノ宥恕減輕ヲ論ス

予ハ宥恕減輕ノ原由ヲ説明スルニ先タテ法律カ社會上ノ利益主義ニ  
 基キ刑ヲ免スルノ場合即チ宥恕免刑ノ場合アルヲ見シ蓋シ宥恕減輕  
 ニ因アルヲ以テ之ヲ茲ニ論スルハ敢テ樹幹竹葉ヲ挿ムノ譏ナキヲ信  
 スルナリ

無罪ト免  
 刑トノ區  
 別

○佛國刑法ヲ講スル者ハ必ス無罪ト宥恕免刑トヲ區別セサルハ莫シ  
 夫レ無罪トハ犯罪ニ必要ナル條件即チ辨知力若クハ自由力ノ二者中  
 其一ヲ欠失シ爲メニ犯罪ノ成立セサル場合ナリ(是レ第二篇第三章ニ  
 於テ既ニ説明シタル所ナリ宜シク就テ看ル可シ)ト雖モ宥恕免刑ハ則  
 チ之ニ異ナリ犯罪成立ニ必要ナル條件ヲ具備シタル者罪ヲ犯シタル  
 場合ニシテ其犯罪ハ固ヨリ成立スルト雖モ唯他ノ原由ニ因リ其刑ヲ  
 免スル者ナリ故ニ無罪ト宥恕免刑トハ全ク其場合ヲ異ニシ而カモ其  
 性質ヲ同シクセサルモノナレハ決シテ之ヲ同一視スルコト得サル者

トス

佛國刑法宥恕免刑ノ場合ハ第二百四十七條第二百四十八條第三百五十七條及ヒ第三百八十條等是レナリ

佛法ニ於テ無罪ト宥恕免刑トノ區別ヨリ生スル利益區別スルヲ

○予ハ茲ニ佛蘭西法ニ於ケル無罪ト宥恕免刑トノ區別ヨリ生スル利益ヲ示ス可シ

第一 重罪裁判所ニ於テ無罪トスル時ハ別ニ重罪裁判所ノ宣告ヲ用ヒス只重罪裁判所長ノ命令ヲ以テ之ヲ言渡スト雖モ宥恕免刑ノ場合ニ於テハ重罪裁判所ノ宣告ヲ以テ之ヲ言渡ス者トス

第二 無罪ノ時ハ裁判長ヨリ陪審官ニ對シ犯罪ノ有無ニ關スル一問ヲ爲スニ止マルモ宥恕免刑ノ時ハ有罪ナルヤ否ヤト將タ他ノ原由即チ宥恕ス可キ原由アルヤ否ヤトノ二問ヲ發スルナリ

第三 無罪ノ時ハ犯人ヨリ裁判費用ヲ徵收セサルモ宥恕免刑ノ時

ハ必ス之ヲ徵收スル者トス

第四 無罪ノ時ハ裁判官誤テ其無罪ヲ言渡シタルノ確證アル時ト雖モ再ヒ被告人ヲ裁判ニ付スルコトヲ得ス之ニ反シテ宥恕免刑ノ場合ニ於テハ一旦其言渡ヲ爲スト雖モ檢察官ハ其判決ニ對シテ上告ヲ爲シ之ヲ破毀セシムルコトヲ得ル者トス

我刑法ニ於テ無罪ト宥恕免刑トノ區別ハ之ヲ區別セス

○我刑法ニ於テハ無罪ノ時ト宥恕免刑ノ時トヲ區別セス常ニ其罪ヲ論セスノ一語ヲ以テ之ヲ規定スルニ過キス然レモ所謂其罪ヲ論セストハ罪ハ成立スルモ其罪ヲ免スト云フノ意味ニシテ夫ノ第七十五條以下第八十條迄及ヒ第八十二條ニ記載スル場合即チ辨知力若クハ自由力ノ二條件中ノ一ヲ欠キタルカ爲メ元來犯罪ノ成立セサル場合ニ此語ヲ用ユルハ頗ル妥當ヲ失スル者ナリト謂ハサル可カラス去レハ此罪ヲ論セスト云ヘルハ即チ罪トシテ論セストノ意ニ解釋セサル可



免刑ノ法

カラサルナリ之ヲ要スルニ我刑法ハ無罪ト宥恕免刑トノ二箇ノ場合  
 ナ混同シタルカ故ニ其罪ヲ論セスト云ヒタリトテ實際上大ナル支障  
 ナカル可シト雖モ理論上須ラク之ヲ區別セサル可カラサルナリ  
 ○我刑法ニ於テ宥恕免刑ノ場合ハ第五百五十三條第三百七十七條第三  
 百八十七條第三百九十八條第三百五十六條及ヒ第二百二十六條第九  
 十二條等はナリ而シテ最後ノ二條ハ其監視アルノ故ヲ以テ論者或ハ  
 宥恕免刑ニ異ナリト云フ者アランモ知ル可カラスト雖モ予ハ之ヲ宥  
 恕免刑中ニ入レテ敢テ不可ナキ者ト信スルナリ蓋シ佛國刑法ニ依レ  
 ハ後ノ二條モ亦之ヲ宥恕免刑ノ場合ナリトスルニ於テ少シモ議論ア  
 ルナシ

罪囚ヲ藏  
匿シ又ハ  
証憑ヲモ  
滅スルモ

第五百五十三條ハ即チ第五百五十一條第五百五十二條ニ記載シタル犯罪人又  
 ハ逃走ノ囚徒若クハ監視ニ付セラレタル者ナルヲ知テ之ヲ藏匿シ

其親屬ノ  
爲ナルハ  
之ヲ論  
ハセトス  
ル所以

若クハ隱避セシメタル者及ヒ罪證ト爲ル可キ物件ヲ隱藏シタル者ノ犯  
 罪ニ係ル此場合ニ於テハ止ムヲ得サル無形ノ強制ヲ感シタリト謂  
 フ可カラス又辨知力ナキ者ニ非サレハ犯罪ニ必要ナル二條件ヲ具備  
 シタル者即チ其犯罪成立シタル者ニ係ルヲ以テ決シテ無罪ニ非サル  
 ヤ明ナリ法律カ其罪ヲ論セスト記シタルモ亦宜ナリト謂フ可シ然レ  
 此場合ニ於テ其罪ヲ論セサルハ他ニ理由アルヲ以テナリ他ナシ其  
 犯法者ノ地位ハ社會ニ對スル義務ト親屬間自然ノ愛情トノ間ニ介立  
 スル者ニシテ乃チ法律ヲ犯サ、ラン乎親屬間自然ノ愛情ヲ割カサル  
 チ得ス親屬間自然ノ愛情ヲ完クセン乎復タ法律ニ背カサルヲ得ス其  
 舉措實ニ窮セリト謂フ可シ去レハ今社會ニ對スルノ義務ヲ捨テ、親  
 屬間自然ノ愛情ヲ完クシ爲メニ法律ニ違犯スルニ至リタリト雖モ之  
 チ以テ彼ノ故ヲニ他人ノ爲メニ社會ニ對スル義務ヲ顧ミス法律ヲ犯

スニ至リタル者ト其間宜シク徑庭スル所ナカラサルヲ得ス是レ法律ニ於テ其親屬ノ爲メニシタル者ハ其罪ヲ論セス即チ宥恕免刑スルノ規定アル所以ナリ(佛刑法第二百四十八條參看)

親屬相盜ヲ論セザル所以

第三百七十七條ハ親屬相盜ノ場合ニ係ル此場合ニ於テモ亦責任ニ關スルニ條件ノ具備シタル者ナレハ即チ無罪ノ場合ニ非スシテ竊盜罪ノ成立スルヤ曾テ疑ナシ只他ノ原由ニ因テ之ヲ宥恕免刑スル而已本條竊盜ヲ以テ論スルノ限ニ在ラスノ語ハ佛國ニ於テモ或ル論者カ稱道スルカ如ク親屬間ニ在テハ各財産ヲ共有スル者ニシテ親屬皆財産ノ一部ニ權利ヲ有スルカ故ニ親屬間ノ相盜ハ之ヲ竊盜ト命名スルヲ得ストノ理由ニ基クカ如シト雖モ予ハ信ス決シテ然ラサルヲ抑親屬間ハ平和ヲ保ツヲ以テ第一ト爲ス蓋シ親屬ノ平和ハ即チ社會ノ平和ニシテ社會ノ利益焉ヨリ大ナルハ莫ケレハナリ

去レハ此竊盜ヲ以テ論スルノ限ニ在ラストノ語ハ即チ通常ノ竊盜ノ如ク罰ス可キノ限ニ在ラス但損害賠償物件還給等ノ民事上ノ責任ハ格別ナリト云フノ意味ヲ含ミタル者ナリト解釋セサル可カラサル者ナラン歟蓋シ若シ親屬間ノ相盜ヲ理シテ竊盜ノ刑ニ處スル時ハ其自ラ速キタルニ拘ハラス人情トシテ自然ニ其物ノ所有主ヲ怨望スルニ至ルヲナキヲ保セス苟クモ斯ノ如クナレハ則チ一家ノ平和ヲ傷グルヤ固ヨリ論ヲ竣タス立法者ノ用意亦周到ナリト云フ可シ然レモ是レ畢竟社會ノ利益主義ニ基ク者ナリト謂ハサルヲ得サルナリ(佛刑法第三百八十條參看)

第三百八十七條(即チ遺失物埋藏物ニ關スル場合)及ヒ第三百九十八條(即チ詐欺取財及ヒ受寄財物ニ關スル場合)ハ其原由上ニ於テ前者ト同一ナルヲ以テ復別ニ説明ヲ要セサル可シ

証告ノ自  
首者ヲ論  
以セサル所

四百九十

第三百五十六條ハ証告者ノ自首シタル場合ニ係ル本條ニ曰ク「証告者  
爲スト雖モ被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ証告者其自首シタル時  
ハ本刑ヲ免ス」ト此場合モ亦証告ノ罪充分成立シタル者ナレハ固ヨリ無  
罪ノ場合ニアラス即チ宥恕免刑ノ一ナリ然リ而シテ立法者カ茲ニ宥恕  
免刑ヲ擇ミタルモ亦前者ト同シク社會ノ利益主義ニ基キタル者ニシ  
テ其害惡ノ未タ發見セラレサル前ニ於テ成ル可ク証告者ノ再思ヲ促  
カシ夫ノ無辜ノ人ヲシテ速ニ冤枉ノ苦ヲ免カレシメント強メタルニ  
外ナラサルナリ

内亂陰謀  
及偽造貨  
幣ノ自首  
者ヲ論以  
サル所以

第二百二十六條ハ内亂ノ陰謀ヲ爲シタル者自首シタル場合(佛國刑法第  
百八條參看)ニシテ第九十二條ハ貨幣ヲ偽造シタル者未タ行使セザ  
ル前自首シタル場合ナリ(佛國刑法第三百三十八條參看)  
此兩條ニ記載スル者モ亦夫ノ責任ニ關スルニ要件ヲ缺失シタルニ非

内亂陰謀  
及偽造貨  
幣ノ自首  
者ヲ論以  
サル所以

サルヲ以テ無罪ノ場合ニアラス即チ宥恕免刑ノ一ナリ而シテ其社會ノ  
利益主義ニ係ルヲ猶ホ前數者ニ異ナラス即チ此等ノ犯罪ヲ遂ケサル  
前ニ於テ自首センヲ犯人ニ勸誘スル者ニシテ其害惡ノ未タ社會ニ  
發露セサル前其公益ノ將ニ傷害セラレントスルニ先タチ早ク既ニ之  
ヲ回復センヲ強メタルニ外ナラサルナリ  
然ルニ此場合ニ於テハ監視ニ付スルヲ以テ人或ハ其宥恕免刑ト謂フ  
可カラサルヲ疑フ者アラン然レモ現ニ佛國刑法第百八條及ヒ第百三  
十八條ニ於テモ此ト同一ニ監視ニ付スルト雖モ亦一箇ノ宥恕免刑ノ  
場合ナリトセリ蓋シ監視ハ一箇ノ刑トハ云ヘ寧ロ行政上犯罪豫防ノ  
手段ナルヲ予カ既ニ說示シタル所ノ如シ即チ夫ノ死刑ノ期滿免除ヲ  
得タル者モ尙ホ監視ニ付スル(第三十六條)ニ依テ之ヲ觀ルモ復タ其一  
種特別ノ性質アルヲ知ルニ足ル可シ而シテ本條ニ箇ノ場合ノ如キハ

實ニ社會ノ公安ヲ害スルコト重大ナルヲ以テ非除ヤ社會ノ利益主義ニ基キ自首者ノ罪ヲ理セサルニモセヨ其行爲上幾分カ檢束スル所アリテ其再犯ヲ未然ニ豫防スルハ甚タ肝要ナリト做シタルニ在リ去レハ予ハ本條二箇ノ場合モ亦宥恕免刑ナルコト毫モ疑ナキヲ信スルナリ而シテ本條二箇ノ場合及ヒ第三十九條ニ記載スル死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得タル場合ノ如キハ全ク主刑ヲ免シタル場合ナルカ故ニ其監視ハ附加刑ノ性質ヲ失ヒタリト云フ可シ故ニ此般ノ監視ハ之ヲ附加刑ト云ハンヨリハ寧ロ一箇ノ行政處分ナリト云フノ可ナルヲ知ルナリ

一般ノ宥恕減輕ノ理由

○予ハ此ヨリ一般ノ宥恕減輕ノ理由ニ反リ説カン  
一般ノ宥恕減輕ハ年齢不足ノ場合アル者ニシテ即チ第八十條第八十一條及ヒ第八十三條ニ記載スル者はナリ

第八十條第二項ニ云ヘル十二歳以上十六歳ニ滿タサル者は是非ヲ辨別シテ罪ヲ犯シタル時ハ全ク其罪ナキニアラス然レモ其年齢不足ナレハ辨知力モ亦隨テ不足ナル可シト法律上宥恕シテ本刑即チ普通ノ刑ニ二等ヲ減シテ處分スル者トセリ

第八十一條ニ云ヘル者モ亦年齢不足ノ場合ナリト雖モ前第八十條第二項ニ云ヘル者ニ比スレハ稍長年者タリ即チ十六歳以上二十歳未滿ノ幼者ニ係ル抑此幼者モ亦未タ普通ノ辨知力ヲ有スルニ至ラスト雖モ其前者ヨリ長年ナルノ故ヲ以テ辨知力モ亦隨テ前者ニ勝レリト看做スハ事ノ素ト至當ナルヲ知ル可シ去レハ法律ハ宥恕ノ段落ヲ前者ヨリ減シテ只一等ヲ減輕スルコト爲シタルナリ

第八十三條ハ違警罪ニ關スル宥恕減輕ノコトヲ規定セリ而シテ其前數條ト揆テ一ニセサルハ他ナシ罪質輕微ニシテ且ツ專ハラ地方ノ取締ニ

關スル法律ナルニ由ル

右第八十條第二項第八十一條及ヒ第八十三條ニ規定シタル者ハ總テ各犯罪ニ一般ナル宥恕減輕ノ場合ナリトス  
予ノ思考スル所ニテハ自首減輕モ亦普通ノ宥恕減輕ナリト信スルト雖モ我刑法ニ於テハ別ニ節ヲ分テ規定シタルカユヘニ予モ亦之ヲ次欸ニ讓リテ茲ニ説明セサルトセリ

以上述ヘタル場合ノ外佛國ニ於テハ尙ホ普通ノ宥恕減輕アリ即チ我刑法第三百九條以下第三百十三條迄ニ記載シタル挑激ノ場合是ナリ佛國刑法ハ其第三百二十一條以下ニ於テ年齢不足ノ宥恕減輕ト共ニ之ヲ同一ニ規定セリ但挑激ニ關スル宥恕減輕ハ殺傷ノ場合ニノミ適用スルヲ以テ其區域彼レ年齢不足ニ關スル者ニ比シテ狹隘ナリトス而シテ我刑法ニ於テハ此種ノ宥恕減輕ヲ以テ特別ノ者ト爲スカ如シ即

チ第八十四條ニ於テ「此節ニ記載スルノ外特別ノ不論罪宥恕減輕ハ各本條ニ於テ之ヲ記載スト云ヘルニ依テ徴ス可キナリ  
佛法ニ於テ特別ノ宥恕減輕ニ關スル者ハ第三百三十五條第八十四條第八十五條第二百八十八條第四百四十一條第三百四十三條等是ナリ宜シク就テ看ル可シ

第三款 特別ノ宥恕減輕ヲ論ス

特別ノ宥恕減輕ニ付テハ第三百九條以下ニ規定セリ予ハ先ツ挑激ニ關スル宥恕減輕ノ正條ヲ茲ニ示ス可シ

第三百九條 自己ノ身體ニ暴行ヲ受ケリニ因リ直チニ怒ヲ發シ暴

行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴

行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

本條ノ宥恕アランカ爲メニハ即チ左ノ要件アルヲ知ル可シ

特別ノ宥恕減輕

刑法第三百九條ノ

- (一) 自己ノ身體ニ暴行ヲ受クル事
  - (二) 其暴行ハ人ヲ挑激スルニ足ル者ナル事
  - (三) 又其暴行ハ不正ノ所爲ニ因リ自ラ招キタル者ニアラサル事
  - (四) 挑激ノ所爲ト殺傷ノ所爲ト近接シタル事
- 以上四箇ノ要件中其一ヲ缺失スル時ハ則チ宥恕減輕ノ恩典ヲ享クル  
トナシ

○第一自己ノ身體ニ對スル暴行ヲ要スルカ故ニ其財産ニ對スル暴行  
ハ以テ此要件ヲ充タスニ足ラサル而已ナラス妻孥縁族ノ身體ニ對ス  
ル暴行ニ挑激セラレタル場合ト雖モ尙ホ宥恕減輕セラル、トナカル  
ヘシ況ンヤ未タ曾テ半面傾蓋ノ識ナキ者ニ對スル暴行ヲヤ然レモ惡  
チ懲ラシ善ヲ授クルハ凡ソ人情自然ノ常勢ナレハ吾レ人共ニ他人ノ  
暴行ヲ受クルチ目撃シテ爲メニ一拳ヲ弄スル丁固ヨリ絶無テ保セス

而ノ其心事ヲ察スレハ義氣寧ロ恕ス可キ者アリ之ヲ夫ノ尋常ノ毆打  
殺傷ニ比擬スルハ頗ル人情ニ合ハサルニ似タリ況ンヤ第三百十四條  
ノ正當防衛ニハ他人ノ爲メニスル者ト自己ノ爲メニスル者トチ區別  
セサル規定ニ照スニ其權衡甚タ宜シキヲ失フノ感ナキヲ能ハサルチ  
ヤ

草按第三百四十四條ニ於テハ自己ノ身體ニ限ラス他人ニテモ其暴行  
ヲ受ル者アルニ因リ怒ヲ發シテ人ヲ殺傷シタル時ハ其情狀ニ依リ罪  
ヲ宥恕スルトチ得ル旨ヲ定タリ而シテ其自己ノ身體ニ暴行ヲ受ケタル  
時ト異ナル點ハ一ハ必ス宥恕減輕ヲ與ヘ一ハ則チ其情狀ニ依リ或ハ  
宥恕減輕ヲ與ヘ或ハ宥恕減輕ヲ與ヘサルトアルノ一點ナリシナリ然  
ルニ本法ハ自己ノ身體ト限リタルト先ニ述ヘタルカ如クナレハ其他  
人ノ爲メニ人ヲ殺傷スル時ハ其殺傷ハ法律上毫モ通常ノ殺傷ニ異ナ

ラサルカ故ニ宥恕減輕ヲ能フルコト能ハサルナリ但其場合ニ依リテ裁判官カ酌量減輕ヲ用ユルヲ得ルコト勿論ナリトス

○第二其暴行ハ人ヲ挑激スルニ足ル者ナルコトヲ要スルカ故ニ其暴行ハ必ス有形ニシテ且ツ重キ者タラサル可カラス去レハ啗ニ言語文章ヲ以テ罵詈汚辱ヲ加ヘタルカ如キハ固ヨリ挑激ノ原由ヲ充スニ足ラサル而已ナラス縱令ヒ手足ヲ加ヘタル者ナリモ只纒カニ手足ヲ觸レタルカ如キハ之ヲ以テ此挑激ノ原由タル暴行アリト云フコト得ス何トナレハ此ニ所謂挑激ハ其結果人ヲ殺傷スルニ至ルカ如キ重大ナル場合ナレハナリ故ニ佛國刑法ニ特ニ重キ暴行ノ文字アルハ實ニ之レカ爲メナリ我刑法ニハ此等ノ文字ナシト雖モ亦必ス附加ヘテ讀マサル可カラス

又佛國刑法ニ於テハ將ニ暴行ヲ加ヘントスルニ因リ怒ヲ發シテ直チ

ニ之ヲ殺傷シタル場合ニモ亦同一ノ決定ヲ爲セリ例ヘハ杖ヲ翳シテ將ニ毆打セントスルニ因テ怒ヲ發シテ直チニ之ヲ殺傷シタル場合ノ如キ亦均シク宥恕減輕ヲ與フル者トス然ルニ我刑法ハ暴行ヲ受ケルニ因リトアルヲ以テ必ス現ニ其暴行ヲ受ケタルコトヲ要スル者トス

○第三其暴行ハ不正ノ所爲ニ因リ自ラ招キタル者ニアラサルコトヲ要スルカ故ニ例ヘハ有夫ノ婦ト姦通シタルカ爲メ本夫ノ暴行ヲ受ケルニ至リ其暴行ヲ受ケルニ因リ挑激セラレテ本夫ヲ殺傷シタル者ノ如クハ決シテ宥恕減輕セラル可キ者ニアラサルコト猶ホ夫ノ正當防衛タラシニハ自己ノ不正ノ所爲ニ淵源セサルコトヲ要スル規則ノ趣意ト異ナラサルナリ

○第四挑激ノ所爲ト殺傷ノ所爲ト近接シタルコトヲ要スルカ故ニ其暴行ヲ受ケタルヨリ少シモ時間ヲ經過セス直チニ殺傷ノ所爲アリタル

トテ要ス是レ本條直チニ文字ヲ特記シタル所以ナリ而シテ其然ル所以ノ者ハ他ナシ既ニ暴行アリテヨリ若干ノ時間ヲ經過スレハ忿怒ノ度漸ク減シ復タ事理ノ當否ヲ辨別シ得可ケレハナリ

第三百九條ノ宥恕ノ所以

○之ヲ要スルニ以上數箇ノ要件ヲ具備シタルニ因リ怒ニ乘シテ人ヲ殺傷シタル時ハ則チ其罪ヲ宥恕シテ本刑ヲ減輕スル者トス蓋シ其理ノ由テ來ル所敢テ多辨ヲ要セサル可シ夫レ物ニ觸レ事ニ感シテ思慮ノ正鵠ヲ失ヒ肯綮ヲ得サル者アルハ人性ノ洵ニ免レサル所ナリ況ヤ事急ニ勢逼ルノ機ニ際シタルヲヤ何ソ暴ニ報ルニ暴ヲ以テスルノ非策タル寧ロ正理ト道義ヲ知識ノ戰場即チ法廷ノ上ニ爭フノ遠謀ヲ常人ニ望ム可ケンヤ法律ハ敢テ望マサルニアラス望テ得可カラサルヲ知レハナリ其レ然リ然レハ則チ此般ノ犯人ニ付テハ亦幾分カ原諒スル所ナクシテ可ランヤ是レ我刑法ニ於テ宥恕減輕ノ恩典アル所以ナリ

○第三百十條モ亦宥恕ニ關スル事項ヲ規定セリ即チ左ノ如シ

第三百十條毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後ヲ知ル能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕スルヲ得

二人相互ニ毆傷シテ先下手ノ知ル能ハサル後手ノ知ル能ハサル時各其罪ヲ宥恕ス

本條ハ毆打鬪爭シテ相互ニ創傷シ孰レカ先ツ手ヲ下シタルカ其先後ヲ知ル能ハサル場合ニシテ之ヲ尋常ノ刑ニ處スル時ハ其一方ハ必ス不幸ヲ被フルニ至ル可シ何トナレハ若シ他ノ暴行ニ因リ怒ヲ發シテ暴行人ヲ毆傷シタル時ハ即チ前第三百九條ニ依リ當然宥恕減輕セラル可キ者ナレハナリ是レ此場合ニ於テハ各其罪ヲ宥恕スル所以ナリ然レモ茲ニハ只得ルトアルカ故ニ必スシモ宥恕セラル、ニ非ス或ハ其情狀ニ依リテ宥恕スルヲ得サル場合アル可シ例ヘハ其共毆ノ以前互ニ惡口罵詈ヲ爲シタル場合若クハ一人創傷シテ一人ハ爲メニ



死亡シタル場合ノ如キ是ナリ何トナレハ前者ハ交々不正ノ所以アリ  
後者ハ他方死亡シタル場合ニシテ本條ニ所謂互ニ創傷トアルノ文詞  
即チ双方ノ只創傷ハミ爲シタル場合ニ限ル可シト解釋セサル可カラ  
サル正條ニ適セサレハナリ

○第三百十一條ハ本夫其妻ノ現行姦通ヲ撞見シテ直チニ姦夫又ハ姦  
婦ヲ殺傷シタル場合ナリ其正文ヲ茲ニ掲出ス可シ

第三百十一條 本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又  
ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シ  
タル者ハ此限ニ在ラス

姦通ノ現行犯モ亦本夫ノ爲メニハ挑激ノ原因ヲ爲ス者ナリ蓋シ婦ノ  
不節破操ハ特リ本夫ノ面目ヲ傷グルノミナラス一家ニ汚辱ヲ加フル  
ノ最モ甚シキ者ナレハ也況ンヤ現ニ醜行汚爲ノ實況ヲ目撃シタルニ

姦夫姦婦  
ヲ殺傷シ  
タル本夫  
ニ宥恕ヲ  
以テスル  
所以ナリ

於テチヤ之ヲシモ忍フ可クンバ將タ何チカ忍フ可カラサラン是レ法  
律ニ於テ此ニ宥恕ヲ與フル所以ナリ否ナ當時憤怒滿腔實ニ事理ヲ辨  
別スルノ知能力ヲ失ヒタル者ナリト推測シテ處スルニ寬典ヲ以テシ  
タル所以ナリ

然リト雖トモ本夫ノ爲メニ挑激ノ原因ト爲タリトセンニハ唯リ  
即時殺傷シタル場合ニ限ルコトニシテ若シ其時期業已ニ多少ノ時間  
ヲ經過シタル時ハ最早自ラ裁斷スルノ寬典ナキテ曉知セサル可カラ  
サル何トナレハ予カ尋常挑激ノ場合(即チ第三百九條)ニ於テ説示シタ  
ス如ク時日ノ經過ト共ニ怒熱ヲ冷却シ隨テ復タ事理ヲ辨別スルノ  
自由ヲ回復ス可ケレハナリ故ニ本條ニ於テモ亦其姦通ヲ目撃シタル  
ト殺傷ヲ行ヒタルトノ時機接近シタルヲ以テ必須ノ要件ト爲サ、ル  
可カラス是レ姦所ニ於テ直チニ云々ト云ヘル所以ナリ

夫本夫挑  
激ヲ受ケ  
タリトシ  
テ宥恕ヲ  
得ントス  
ルニハ即  
時ニ姦夫  
ヲ殺傷シ  
タル所以  
ナリ

本夫カ宥  
恕ヲ得ン  
ニハ殺所  
ニ於テ殺  
傷シタル  
ト爲スヤ  
ト爲スヤ

本條「姦所ニ於テ」ノ文詞アルカ爲メ人或ハ之ヲ二箇ノ要件ト爲ス者ア  
ラン乎蓋シ刑法草案及ヒ佛國刑法ニ於テハ「姦所ニ於テ」ノ文詞ナキニ  
獨リ我刑法ノミ之ヲ挿入シタレハナリ然レモ予テ以テ之ヲ觀ルニ立法  
者ハ敢テ佛國刑法及ヒ刑法草案ノ趣旨ヲ變更セントシタルニアラス  
唯タ姦通ノ目撃ト殺傷トノ二箇ノ所爲ノ互ニ最モ接近シタル者ナラ  
サル可カラサルヲ明示スルニ在ル者ナリト信ス苟クモ然ラサレハ  
此一句ハ殆ント法律ノ精神ニ吻合セサルモノアルニ至ラン他ナシ此  
宥恕ヲ設ケタルハ前段既ニ講説シタルカ如ク滿腔ノ憤怒爲メニ事理  
ノ辨別ヲ爲スノ暇ナカル可シトノ推測ニ出ル者ナレハ其姦所ニ於テ  
スルハ則チ然リ姦所ヲ離隔スレハ則チ此推測ニ適セストスルノ理萬  
々アル可カラサレハナリ去レハ本夫カ姦夫又ハ姦婦ノ北クルチ追テ  
之ヲ姦所ノ外ニ殺傷シタル場合ト雖モ亦本條ノ適用ニ妨ケナシト決

定セサル可カラサルナリ

斯ク論シ來レハ本條但書ハ復タ詳説ヲ要セスシテ自カラ明了ナルヲ  
覺ユルナラン何者苟クモ本夫先ニ姦通ヲ縱容シタレハ事ノ唐突ニ出  
タル者ニアラサルカ故ニ忽チニシテ憤怒ノ情ニ耐ヘサルカ如キ原由  
絶テ無カル可ケレハナリ

第三百十二條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶

牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル者

ハ其罪ヲ宥恕ス

晝間故ナ  
ク住居ヲ  
侵シタル  
者ヲ殺傷  
シタルハ  
之ヲ宥恕  
スル所以

○抑、正當ノ故ナク現ニ人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ  
踰越損壞セントスル者ノ如キハ是レ威力ヲ負テ住居ノ自由ヲ襲撃ス  
ル者ナリ暴動ノ敵對ヲ爲ス者ナリ勢腕力ヲ以テ之レニ應セサルヲ得  
ス而シテ其晝間ト云ヒ殊ニ未タ身體生命ノ危機ニ迫リタル場合ニアラ

スシテ其犯人ヲ殺傷シタル者ノ如キ之ヲ無罪ノ人ト云フ可カラサル  
モ又幾分カ原諒スル所ナカル可カラスコレ宥恕減輕ヲ與フル所以ナ  
リ

本條ノ規定スル所ハ後ノ第三百十五條第三項ト相對セリ只彼ハ夜間  
ニシテ此ハ晝間ナルノミ夫レ晝夜ノ區別ニ因テ何故ニ如此一ハ不論  
罪ト爲シ一ハ宥恕減輕ニ止マルト爲スノ差異ヲ生スル乎是レ晝間ハ  
畏怖ノ念夜間ニ比シテ固ヨリ輕ク他ノ救援ヲ呼フノ便モ亦隨テ容易  
ナル可シトノ推測アルニ由ル但シ本條晝間ノ場合ト雖モ其暴動ノ施  
テ身體生命ニ危害ヲ與フル等ノ患アルニ因リ止ムトテ得スシテ其犯  
人ヲ殺傷シタル時ハ更ニ第三百十四條ノ適用ヲ受ケテ不論罪ノ言渡  
ヲ受ク可キト勿論ナリトス

第三百十六條 身體財産ヲ防衛スルニ出ルト雖モ已ムトテ得サル

ニ非スシテ害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危害已ニ去リタル後ニ於テ勢  
ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ不論罪ノ限ニ在ラス但情  
狀ニ因リ第三百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルトテ得

正當防衛  
權ノ適用  
者

○本條ハ正當防衛ノ條件ノ一即チ暴行人ヲ殺傷スルニ非サレハ其生  
命若クハ財産ヲ防衛スルノ手段ナキ時ト云ヘル要件ノ缺ケタル場合  
又ハ其危害ノ既ニ去リタル後ニ於テ餘勢ニ乘シテ其暴行人ヲ殺傷シ  
タル者ニ係ル是レ不論罪ト爲サ、ルモ而カモ宥恕減輕スルトテ得ル  
所以ナリ但シ爰ニ得トアルニ依リ其情狀ニ因リテハ或ハ之ニ宥恕減  
輕ヲ與ヘサルトアルトアルマ勿論ナリトス

上來講述シタル數ヶ條ニ於テ宥恕減輕ヲ爲ストハ即チ本刑ニ照シテ  
二等又ハ三等ヲ減シ處斷スルノ謂ナリ是レ第三百十三條ニ規定スル  
所ナリ

特別ノ宥恕  
及ニ關スル  
罪則ノ不  
論ル規  
例外ノス

○我刑法ハ特別ノ宥恕及ヒ不論罪ニ關スル規則ニ例外ヲ設ケタリ即  
第三百六十五條ニ規定スル所是ナリ

第三百六十五條

祖父母父母ニ對シタル殺傷ノ罪ハ特別ノ宥恕及  
ヒ不論罪ノ例ヲ用フルヲ得ス但其犯ス時知ラサル者ハ此限ニ  
在ラス

刑法第三  
百六十五  
條ニ所  
謂特別  
及ノ不  
論罪  
何トハ  
如

茲ニ所謂特別ノ宥恕及ヒ不論罪トハ即チ第三百九條乃至第三百十六  
條ノ規定ヲ指ス者ナリ此條寔ニ解釋ノ困難ナルヲ覺フ蓋シ刑法草案  
第四百七條ニハ單ニ特別ノ宥恕ヲ與ヘサル旨ヲ規定シ又佛國刑法ニ  
於テハ宥恕不論罪共ニ此例外ナク只其第三百二十三條ニ於テ祖父母  
父母ヲ殺シタル者ハ宥恕ヲ與ヘサル旨ヲ記スルノミ故ニ佛國刑法ニ  
據レハ其尊屬親ニ對スル場合ト雖モ若シ創傷ニ止マル時ハ宥恕セラ  
ル、ト勿論ナリ

第三百六  
十五條ノ  
規定ノ當  
否如何

我刑法ニ於テ本條ヲ設ケタルノ理由ハ予ノ不敏ナル果シテ何ノ故タ  
ルチ知ラサルナリ凡ソ人皆ナ身體髮膚ヲ父母ニ享クルト雖モ其既ニ  
一旦之ヲ享ケタル上ハ各自ヲ防衛スルノ權利アリ又義務アリテ父母  
ト雖モ之ヲ奪フヲ能ハサルノ公道アルチ信スレハナリ  
然リ而シテ今父母ノ暴行ヲ我身體ニ加ヘテ將ニ生命ヲ失ハントスルニ  
迫リ已ムヲ得ス父母ヲ殺傷シタル者モ尙ホ不論罪ノ限ニ在ラスト  
スル時ハ縱令ヒ子ハ父母ニ孝ニシテ尊長ニ順ナルノ公道正義アルニ  
モモセヨ不正ナル父母ノ所爲ニ因リ身命ヲ犧牲ニ供セシメントスル  
カ如キノ結果ニ至リ且ツ父母ハ其元來奪フヲ能ハサル天賦ノ權利ヲ奪  
フ者ナレハ此規定ハ必スヤ多クハ學者ノ議論ヲ免カレサル可シ但草  
按ノ規定ノ如ク單ニ特別ノ宥恕ノミニ關シ此例外ヲ設ケルハ庶幾  
クハ此批難チ免ル、トチ得ン何トナレハ特別ノ宥恕ノ場合ハ決シテ

身體生命ニ危険アル場合ニ非ス、只他ノ挑激ニ因リ怒ヲ發シテ暴行人  
 ヲ殺傷シタル場合タリ而シテ父母尊属ニ對シ他人ニ對スルト同シク  
 怒ヲ發シテ之ヲ殺傷スルカ如キハ蓋シ子孫タル者ノ道ニ於テ全キチ  
 得可カラサルヲ勿論ナレハ之ヲ敢テスル者ハ法律上宥恕ヲ與フ可カ  
 ラスト定ムルモ亦固ヨリ失當ニアラサレハナリ  
 ○今假ニ凡ソ子孫ハ其祖父母父母ニ對シテハ總テ自守自衛ノ權ヲ揮  
 揮スルヲ得サル者ト做シ乃チ本條所定ノ例外ヲ道理アル者トセン  
 乎及ホシテ一般ノ不論罪即チ第七十五條ノ場合ニモ亦同一ノ決定ヲ  
 爲サ、ル可カラス然ルニ本條ニハ特別ノ宥恕及ヒ不論罪云々トアリ  
 テ且ツ第八十四條(即チ第七十五條ト同節ノ法條)ニハ此節ニ記載スル  
 ノ外特別ノ不論罪宥恕減輕ハ各本條ニ於テ之ヲ記載スルトアルニ依テ  
 之ヲ觀レハ第三百六十五條ニ所謂特別ノ宥恕及ヒ不論罪トハ即チ第

三百九條以下ノ規定ヲ指シタル者ナリト解セサルヲ得ス果シテ然ラハ  
 則チ法律ハ一般ノ場合ニ於テハ子孫ニ自守自衛ノ權アリト爲シ特別  
 特別ノ場合ニ於テノミ其權ヲシト定メタル者ナリ否ナ二者宜シク同  
 一ノ規定ヲ出ツ可クシテ而シテ同一ノ規定ヲ爲サ、ル者ナリ是レ予カ  
 不敏ナル其説ヲ得ルニ困シム所以ナリ今場合ヲ定メテ更ニ之ヲ詳説  
 セン  
 例ヘハ父母故ナク予ノ身體ニ暴行ヲ加ヘテ將ニ生命ヲ奪ハントス予  
 事機ノ急ナル遁逃スルニ道ナク已ムヲ得ス父母ヲ殺傷シ終ニ以テ身  
 チ脱スルヲ得タリトセン是レ暴行人ノ他人ニ係ル時ハ即チ正當防衛  
 ノ權ヲ揮シタル者ナリトシテ必ス不論罪タル可キ場合ナリ、然ルニ  
 殺傷ニ關スル宥恕減輕及ヒ不論罪ハ予カ既ニ述ヘタルカ如ク特別ノ  
 場合タルカ故ニ即チ第三百六十五條ノ明文ニ基キ當ニ不論罪ノ恩典

ヲ蒙ムルヲ能ハサルノミナラス又宥恕減輕タモ尙ホ之ヲ受クルヲ得サル者タリ

又例ヘハ人子ノ手ヲ把リテ予ノ父母ヲ殺傷シタル場合又ハ予父母ト共ニ航海中颶風ノ漂ハス所ト爲リ樁折レ楫挫ケテ將ニ溺死セントスル際父ノ片板ニ倚リテ纜カニ水波ノ間ニ簸颺セラル、チ目撃シ其片板ヲ奪フテ纜ニ身ヲ遁ル、チ得タルモ父ハ爲メニ水死セリトセン是レ子タル者ノ洵ニ忍フヲ能ハサル所ナルニ法律ハ身ヲ殺シテ仁ヲ爲スヲ望マサルノミナラス自守自衛ノ爲メ眞ニ已ムヲ得サル場合ニ於テハ人ヲ殺スモ尙ホ且ツ之ヲ咎メストノ趣旨ニ因リ之ヲ不論罪トセリ第三百六十五條ニ於テ特別云々ト云ヘルモ此場合ハ即チ第七十五條ノ一般ノ場合ニ係ルヲ以テナリ夫レ斯ノ如ク前例ニテハ父母ニ不正ノ暴行ヲ爲シタル越度アルニ拘ハラズ子ノ之ニ對シテ爲シタル殺

傷ハ不論罪ハ勿論宥恕減輕タモ被ムルヲ得ス後ノ例ニテハ父母ニ不正ノ暴行ナク眞ニ天災ノ不幸ニ遭遇シタルモ幸ニ片板ニ倚リテ溺死ノ難ヲ免ル、ノ望アルニ方リ子其片板ヲ奪ヒタルカ爲メ遂ニ溺死シタル者ニシテ前者ニ比スルニ寧ロ其情重キニ拘ハラズ全ク其罪ヲ論セストスルハ豈ニ復タ奇ナラスヤ予ノ不敏ナル説ヲ求メテ得サルナリ以上講述シタルカ如ク其特別ノ宥恕及ヒ不論罪ト一般ノ宥恕及ヒ不論罪トノ二箇ノ場合ニ於テ其父母尊屬ニ對スル犯罪ニ付キ區別ヲ爲シタルハ予ニ於テ其理由ヲ發見スルヲ能ハサル所ナリ故ニ予ノ意見ヲ以テスレハ總テ祖父母父母ニ對スル殺傷ニ付テハ宥恕減輕及ヒ不論罪ヲ與ヘスト規定スルカ將タ總テ宥減輕ノミ與ヘスト規定スルカ已ムナクソハ則チ總テ祖父母父母ニ對スル特別ノ規定ヲ全廢スルカ孰レニシテモ一般ノ場合ト特別ノ場合トテ區別スルノ理ハ到底之

レナキ者ト信スルナリ

第四款 自首減輕ヲ論ス

○予ハ前ニ自首減輕モ亦一般ノ減輕ナルヲ以テ須ラク宥減輕ト共ニ列記ス可キ者ナルヲ告ケタリ元來草按ニ於テハ之ヲ宥減輕ト同節ニ記載シタリシテ刑法ニテハ別節ニ規定スルヲ爲シタリ然レモ仍ホ一般ノ減輕タルニハ相違ナキナリ

自首減輕トハ何ノ  
自首減輕ノ制アル所以如何

自首トハ自ラ犯シタル罪ヲ官署ニ申告スルヲ云ヒ其自ラ犯シタル罪ヲ官署ニ申告シタルニ因リ其刑ヲ減輕ス之ヲ名ケテ自首減輕ト云フ  
○法律カ自首者ニ減輕ヲ與フル理由ハ如何是レ宜シク講究ス可キ所ナリ  
或ハ曰ク自首ニ減等ヲ許スハ犯人自ラ悔悟シタルヲ以テナリト是レ未タ充分ノ理由ト爲スニ足ラス奈何トナレハ法律ニ於テ自首者ニ減

輕ヲ與フルヲ規定シタル上ハ即チ犯人ト約スルニ自首シタル時ハ必ス減輕ヲ與フ可キヲ以テシタル者ニシテ其真心悔悟シタルヤ否ヲ審査スルヲ要セサレハナリ加之ナラス豫シメ減輕ヲ期シテ罪ヲ犯シタル自首者ノ如キハ毫モ悔悟ノ意ナキノミナラス其減輕ハ却テ法律ノ威力ヲ滅殺スルノ弊ヲ速クニ至ル可シ且ツヤ犯人悔悟ノ情ハ狀刑期中ニ於テ行政處分ノ恩典ヲ受ク可キ者ナレモ決シテ刑ヲ減輕スルノ理由ト爲スニ足ラス是レ予カ或説ヲ以テ未タ理由ノ充分ナラサル者トスル所以ナリ  
尙ホ他ノ點ヨリ觀察スルモ第八十五條ニハ「罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺故殺ニ係ル者ハ自首減輕ノ限ニ在ラス」トアリ若シ悔悟ヲ以テ自首減輕ノ理由ト爲ス時ハ決シテ發覺前後ヲ分ツトテ要セス單ニ其果シテ悔悟シタル

ヤ否ヤチ見ル可キ等ナルニ本法ノ規定茲ニ出テス其一旦犯罪ノ發覺シタル上ハ自首減輕ノ限ニ在ラストスルヲ以テ視ルモ自首ニ減輕ヲ與フルハ悔悟ノ爲メニ非ラサルヲ知ルヘキナリ

學者又或ハ云ク自首ニ減輕ヲ與フルノ主意ニアリ一ニ曰ク犯人ニ於テ自首スル時ハ犯人法網ヲ脱シ法律ノ威力ヲ減殺スルノ憂ナシ故ニ之ニ減輕ヲ與フルヲ好トス二ニ曰ク犯人ニ於テ自首スル時ハ無辜冤罪ニ陷ルノ患ナシ故ニ之ニ減輕ヲ與フルヲ好トスト且ツ曰ク凡ソ自首者ニ減輕ヲ許ス時ハ犯人豫シメ自首減輕ヲ期シテ容易ク犯スノ弊ヲ生スルノ患ナキニアラスト雖モ抑法律ハ其利益其弊害ニ勝ルアルヲ以テ自首者ニ減輕ヲ與フルヲ採用セリ之ヲ要スルニ自首減輕ハ其自首シテ自ラ爲シタル犯罪ニ付キ社會ニ利益アル幾分ハ勤務ヲ爲シタル者ナレハ其勤務ニ對シテ減輕スルハ亦敢テ失當ノ事ニアラス

而ソ刑法草案編纂者カ自首ニ減輕ヲ與ヘタルノ主意亦此ニ在リト

草按第九十六條ノ自首者ニ減輕ヲ許シタルノ理由果シテ如此ナリトスルモ刑法ハ其行文草按ト異同アリ草按ニ記載シタル文詞ニシテ刑法ニ記載セサル者アリ又草按ニ記載セサルモノニシテ刑法ニ記載シタル文詞アリ固ヨリ之ヲ同視スルヲ能ハサルナリ

刑法第八十五條ニ所謂事トハ如何ナル意義乎

今先ッ刑法第八十五條ニ云ヘル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前トハ果シテ如何ナル意味ナル乎見ン蓋シ法文ノ正面ヨリ之ヲ解釋スレハ單ニ犯罪事件ノ未タ官署ノ耳目ニ達セサル前ヲ云フ者ノ如シ然ルニ草按ニ於テハ罪証未タ發覺セサル前云々トアリテ犯罪事件ハ已ニ發覺スルモ其犯人ノ果シテ誰タルカ未タ發覺セサル前ナレハ則チ自首ノ効アリト定メアリシ

若シ犯罪事件ノ發覺セサル前ト解釋スレハ其適用極メテ狹隘ナリ何



トナレハ之ヲ實際ニ徴スルモ犯罪事件ノ發覺セサルヲ稀有ナレハナ  
リ加之ナラス此解釋ニ依ル時ハ前述二箇ノ理由ト相抵觸スルニ至テ  
ン乞フ左ニ説ク所ヲ聞ケ

自首減輕ノ理由果シテ犯人法網ヲ脱セス隨テ法律ノ威力ヲ滅殺スル  
ノ憂ナキカ爲メナリトセン乎犯罪事件ハ縱令ヒ發覺シタル後ナルモ  
犯人ノ誰タルヲ未タ發覺セサル以前ナレハ當然自首ノ効アル者ト  
セサル可カラス是レ其理由ニ抵觸セル所アリトスル所以ノ一ナリ  
自首減輕ノ理由又無辜冤罪ニ陥ルノ憂ナキカ爲メナリトセン乎其犯  
罪事件ハ既ニ發覺シタルノ後ニ於テ自首スルモ亦其効アリト謂ハサ  
ルヲ得ス是レ其理由ニ抵觸セル所アリトスル所以ノ二ナリ  
由此觀之該條ニ所謂事未タ發覺セサル前トハ犯罪事件ノ發覺ヲ指ス  
ニ非スシテ即チ犯人ノ誰タルカヲ知ルヲ能ハサル時ヲ指ス者ナリト

解釋セサル可カラス

草按ト刑法トハ其規定ヲ同フセサル旨告ケタリシカ即チ左ノ如シ

自首ノ點  
ニ付キ草  
案ト刑法  
ト同シカ  
ラサル點

(一) 草按第九十六條ニ於テハ其自首ノ効アランカ爲メニハ犯人自ラ自  
首スルノミナラス現ニ捕ニ就クヲ要シタリ是レ蓋シ單ニ自首ノ書  
面ヲ提供シ乍ラ其身ヲ躲ス者ノ如キハ社會ニ勤務ヲ盡シタルノ効ナ  
シトスルニ由ルナラン然ルニ刑法第八十五條ニハ現ニ捕ニ就クヲ要  
スルノ明文ヲ刪除シタリ

(二) 草按ニハ自ラ官ニ自首シタル者トアリ刑法ニハ唯タ官ニ自首シタ  
ル者トアルノミ故ニ草按ニ依レハ必ス身自ラ官ニ首出スルヲ要ス  
レモ刑法ニ依ル時ハ必スシモ自ラ首出スルヲ要セス書面或ハ代人  
等ヲ以テスルモ固ヨリ可ナルカ如ク解釋セラル、ナリ

(三) 刑法ニハ謀殺故殺ニ係ル者ハ自首減輕ヲ許サ、ルノ例外ヲ示セリ

ト雖凡草按ニハ此例外アルコナシ尤モ但書ヲ以テ各本條別ニ自首減免ノ例ヲ掲クル者ハ此限ニ在ラスト記セリ蓋シ其各本條ニ掲クル場合トハ即チ第二百二十六條内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ自首シタル場合第二百二十六條偽証者裁判宣告ニ至ラサル前自首シタル場合等ニ記スル者是ナリ

謀故殺ノ  
自首者ニ  
減輕ヲ與  
ヘサルヲ  
如何ノ當  
否規

此自首者中謀殺故殺ニ係ル者ノ取除ケハ予テ益疑團ヲ確カラシムルノ感ナキ能ハス何トナレハ此例外ノ設ケアルカ爲メ殆ント前述ノ二理由ヲ消滅スルニ至レハナリ今乞フ少シク其理由ヲ述ヘン  
夫レ謀殺故殺ハ其罪固ヨリ重大ナリ重大ナル犯罪ニ付テハ法律ニ於テ特ニ鄭重ノ注意ト嚴密ノ手數トヲ要シテ其犯人ヲ搜索セサル可カラサルヤ論ヲ俟タス何トナレハ其重大ノ罪ヲ犯シタル者ヲ漏シタルト誤テ無辜ノ人ヲ入レタルトハ共ニ社會ノ公安ヲ害シ人民ノ私益ヲ

傷フコノ最モ重ク最モ大ナル可ケレハナリ其レ然リ然ラハ則チ犯人ノ自首ハ此最モ畏ル可キ危險ヲ掃除スル者ナルカ故ニ法律ハ謀殺故殺ノ犯人ニ就テコソ寧ロ却テ自首減輕ノ効顯著ナリト謂ハサルヲ得ス然ルニ故ヲニ減輕ヲ與フルノ例ニ在ラスト爲シタルニ依レハ則チ法律カ自首者ニ減輕ヲ與ヘタル精神ハ蓋シ右二理由ノ外ニ在ル可シトノ疑ヲ惹起スル亦無理ナラサルヲ知ルナリ

以上講說シタル所ニ依テ第八十五條ノ精神ヲ尋ヌレハ蓋シ前ニ予カ非難シタル悔悟ノ理由ヲ採用シタル者ナル可キ歟果シテ然ラハ事未タ發覺セサル前ナル語ハ犯罪事件ノ未タ發覺セサルノ意ニ解釋シテ而シテ法律ハ唯其悔悟ノ迅速ナランコトヲ勸誘シタル者ナリトノ意ニ論釋セサル可カラサルナリ

又其謀殺故殺ニ係ル者ヲ以テ自首減輕ノ例外ニ置ク所以ハ其罪大ナ

ルヲ以テ縱令ヒ悔悟スルモ爲メニ罪狀ヲ減輕ス可キ者ニ非ラストス  
ルノ意ナラン歟

然レモ司法省ノ解釋及ヒ現今實際ニ適用スル所ヲ視レハ予カ茲ニ説  
明シタル意義ニ解釋セスシテ事未タ發覺セサル前トハ即チ犯人其者  
ノ誰タルトテ知ラサル場合ヲ指ス者ナリトセルカ如シ明治十五年十  
月本省内訓ニ刑法第八十五條ノ發覺トハ其犯人ノ官ニ發覺セサルニ  
拘ハラス被害者ニ於テ犯人ノ誰タルヲ確知シタル上ハ官ニ發覺セシ  
ト同一ノモノトスト云ヘルニ依テ之ヲ知ルナリ

○第八十六條ハ財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贓物ヲ返還  
シ又ハ損害ヲ賠償シタル時ノ規定ヲ爲シタル者ニシテ則チ其全部ヲ  
還償シタル時ハ自首減等ノ外二等ヲ減シ半數以上ヲ還償シタル時ハ  
同シク一等ヲ減スル者ト爲ス此規定タル犯人ノ自首シテ尙ホ損害ノ

自首者  
物ヲ返還  
シ又ハ損  
害ヲ賠償  
シタル時  
ノ處分

還償ヲ爲サンコトヲ勸誘スルニ出ルノミナラス抑此刑法ハ道德ヲ傷ツ  
クルト公益ヲ害スルトノ二者ヲ斟酌シテ之レカ刑度ヲ定メタル者ナ  
ルカ故ニ本條ノ如ク被害者ニ其損害ノ全部又ハ半數以上ヲ還償スル  
時ハ社會ノ被害モ亦隨テ減少ス可ク結局民事上ノ義務者カ其辨濟ヲ  
爲シタルト同一ニ看做シ以テ其刑ヲ減輕スルノ至當ナリトシタルニ  
在ナリ

被害者ニ  
自首シタ  
ル場合

○第八十七條ハ財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者被害者ニ首服シタル時  
ハ官ニ自首シタルト同シク即チ第八十五條ノ減輕ヲ與フル旨ヲ定メ  
タル者ニシテ別ニ深キ理由ノアルニ非サルナリ

○第八十八條ハ各本條ニ於テ別ニ自首ノ例ヲ定メタル者ハ其特別ノ  
定メニ從フ可キ旨ヲ明示スルニ在リ而シテ其所謂別ニ自首ノ例ヲ定メ  
タル者トハ即チ第二百二十六條第百九十二條及ヒ第二百二十六條等ニ

記載シタル者ヲ云フ是レ亦現ニ生シタル實害ノ度ヲ量リテ其刑ヲ定メタル者ナリ

第五款 酌量減輕ヲ論ス

酌量減輕  
法ノ旨趣

○凡ソ立法者ノ法律ヲ制定スルヤ可成的罪ト刑トノ權衡ヲ得ンリヲ強ムルハ固ヨリ論ヲ竣タスト雖モ然カモ犯人ノ衆キ情狀ノ差アル固ヨリ豫メ一定ノ規矩ニ據ル可カラサル者無キテ保セス故ニ立法者ハ裁判官ニ委ヌルニ其情狀ヲ斟酌シ宜シキニ從テ減輕ヲ爲シ得ルノ權ヲ以テセリ之ヲ酌量減輕ト謂フ即チ第八十九條及ヒ第九十條ニ規定シタル所ナリ

又酌量減輕ハ其對審裁判ナルト欠席裁判ナルト將タ法律ニ於テ本刑ヲ加重シ若クハ減輕ス可キ者ト否トヲ問ハス減輕ノ情狀アル者ニ對シテハ齊シク之ヲ適用スルヲ得ル者トス佛國ニ於テハ欠席裁判ノ

場合ニ付キ酌量減輕ヲ爲シ得ルヤ否ノ議論アリト雖モ我刑法ニ於テハ素ヨリ此議論アラサル可シト信スルナリ

以上述ヘ來リタル所ハ皆刑罰ヲ減輕スル原由ナリシカ以下續テ刑罰ヲ加重スル原由ニ論及ス可シ

第六款 刑ノ加重ヲ論ス

刑罰加重  
法

刑罰ヲ加重スル原由ニ於テモ亦各犯罪ニ普通ナル者ト或犯罪ニ特別ナル者トノ二種アリ今先ツ其第一即チ各犯罪ニ普通ナル加重ノ原由ヨリ講説セン

第一節 再犯加重

再犯加重

再犯加重トハ前ニ一罪ヲ犯シ其裁判言渡ノ確定シタル後更ニ一罪ヲ犯シタル時ニ於テ此後ノ犯罪ノ刑ヲ加重スルヲ云フ是レ刑ヲ加重スル原由中其一般ニ係ル者ナリ

再犯加重ノ  
第一ノ  
再犯者ニ  
對スル者  
何レニ  
似タリ  
如

○或ハ説チ爲シテ曰ク先ニ一罪ヲ犯シテ確定裁判ヲ受ケ後又一罪ヲ犯シタルニ方リ其後ノ刑ヲ加重スルカ如キハ必竟前罪ニ對スル刑ニ基トシテ後罪ニ對スル刑ヲ加重スル者ナレハ是レ盡ソ前罪ヲ再理スル者ニ異ナラン故ニ再犯加重ノ規定ハ素ト正理ニ適セスト  
予ハ此主説チ是認スルコトヲ得ス何トナレハ再犯加重ハ重子テ前罪ヲ理スルニ非ス只前ノ刑罰ハ以テ充分犯人ヲ懲戒スルニ足ラザリシチ知ルカ故ニ之ヲ懲毖ノ實チ擧ケシメンカ爲メ後罪ノ刑ヲ加重スルニ過キサレハナリ惟フニ或者ノ主説ハ事實ヲ誤ル者ト謂ハサル可カラス

再犯加重  
法ノ適用  
及制限

○抑再犯加重ノ規則ヲ適用センニハ前ノ犯罪ト後ノ犯罪ト其種類ノ同一ナルヲ要スル乎否ヤ原則ニ於テハ必ス其種類ノ同一ナルヲ要セサル者トス

然レモ亦例外ナキニ非ス即チ初メ違警罪ヲ犯シテ後輕罪若クハ重罪ヲ犯シタル時又ハ前ニ重罪輕罪ヲ犯シテ後ニ違警罪ヲ犯シタル時又ハ前ニ輕罪ヲ犯シテ後ニ重罪ヲ犯シタル時ノ如キハ決シテ再犯加重ト爲ス限リニ非サルナリ

要スルニ再犯加重ヲ爲シニハ前犯ノ罪既ニ確定シタル者ナル時ハ必スシモ後罪ノ同種類ナルコトヲ要セス故ニ違警罪ハ違警罪中ノ犯罪ナレハ其種類ノ如何ヲ問ハス重罪ハ前犯重罪ナレハ其種類ノ何タルチ問ハス又輕罪ハ前犯ノ重罪若クハ輕罪ナル時ハ其種類ノ如何ヲ論セス齊シク皆再犯加重ノ例ヲ用ユルコトヲ得ルナリ

然レモ違警罪ニ付テハ二箇ノ條件アリ

曰ク一年內ニ再犯アルヲ要スルコト

曰ク同一ノ裁判所管轄地内ニ於テ再犯アルヲ要スルコト

再犯加重ノ  
要件及  
理由

是レ第九十三條ニ規定スル所ナリ今乞フ其理由ヲ左ニ述ヘン  
第一違警罪ハ此刑法ニ規定シタル者ノミ全國ニ普通ナルモ其他ハ皆  
各地方ニ於ニ便宜ニ從ヒ制定セラル、者ナレハ隨テ又各地其規定ヲ  
苟ニスルヲ以テ苟クモ管轄ヲ異ニスル時ハ再犯加重ヲ爲ス可キニア  
ラストスルニ在リ

第二違警罪ハ元來輕微ノ犯罪ナルヲ以テ頗ル前犯ヲ搜索スルニ不便  
アリ凡ソ重罪輕罪ニ付キテハ治罪法ニ於テ各裁判所ヨリ既決犯罪表  
ヲ司法省ニ送致スルノ規定アリ又明治十四年十二月十九日司法省布  
達ニ依ルモ各裁判所ヨリ既決犯罪表ヲ司法省并ニ本籍裁判所へ送致  
スルノ規則アルヲ以テ司法省へ問合シ又ハ本籍裁判所へ問合スモ其  
前犯ヲ知ルヲ容易ナリト雖モ唯違警罪ニ付テハ此等ノ手續ナキヲ以  
テ其前犯ヲ知ルヲ頗ル困難ナリ故ニ其裁判所管轄地内ニ非サレハ再

犯加重ヲ爲サストスルニ在リ

第三違警罪ハ多クハ無意犯ニシテ然ラサルモ亦輕微ノ犯罪ナルヲ以  
テ既ニ一年ヲ經過スレハ犯人ニ於テハ最早前罪ノ刑ヲ受ケタルヲ  
遺忘シ隨テ其注意ヲ怠タリ爲メニ知ラス識ラス又違警罪ヲ犯スナ  
シト謂フ可カラス故ニ一年内ニ非サレハ再犯加重ヲ爲サストスルニ  
在リ

要スルニ違警罪ニ付テノ再犯加重ノ場合ハ前ニ違警罪ヲ犯シテ其刑  
ヲ受ケタル後一年内ニ同一ノ裁判所管轄地内ニ於テ再ヒ違警罪ヲ犯  
シタル時ニ限リ本刑ヲ加重スルモノトス

○若シ前ニ再犯ノ罪ニ付キ刑ニ處セラレ其裁判言渡ノ確定シタル後  
更ニ一罪ヲ犯シ即チ三犯ニ係ル時ハ如何只再犯ノ例ニ照シテ一等ヲ  
加重スルノミ別ニ遞加スルヲナシ何トナレハ若シ之ヲ遞加スル者ト

三犯以上  
ハ遞加ス  
ル乎

再犯加重  
ニ付キ注  
意ス可キ  
要點

第一

爲スルハ終ニ輕罪ヲ變シテ重罪ニ入ラサルヘカラサルコトアル可ク而  
 ノ如此ハ畢竟法律ノ許サ、ル所ナレハナリ是レ其四犯若クハ五犯ニ  
 及フ時ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シトスル所以ナリ(第九十八條)  
 ○以上講説シタル所ニ由テ之ヲ觀レハ凡ソ再犯加重ノ理由ハ最初ニ  
 於テ常ニ懲戒スルニ足ル可キ刑罰ヲ加ヘタルモ尙ホ懲慙ノ實ナク更  
 ニ罪ヲ犯シタル者ナルカ故ニ其後犯ノ情狀重キト勿論ナレハ乃チ其  
 刑ヲ加重スルト至當ナリトスルニ在リ今余ハ再犯加重ニ付テ注意ス  
 可キ要點數者ヲ左ニ述ヘン

○第一前犯ノ裁判言渡確定ニ後新ナル犯罪アル時ハ縱令ヒ未タ前犯  
 ノ刑ヲ現ニ受ケサル場合ト雖モ再犯加重ヲ爲スニ毫モ支障ナキ事  
 現ニ未タ刑ヲ受ケサル時ハ前犯ノ刑罰ハ犯人ヲ懲戒スルニ足ルノ効  
 力ナカリシトノ推測起ラサルカ故ニ後犯罪ノ刑ヲ加重ス可カラサル

ニ似タリ然レモ法律ハ前犯ニ付テノ裁判言渡既ニ確定シタル以上ハ  
 其現ニ刑ヲ受ケ終リタルト否トヲ問ハス常ニ再犯加重ノ爲ス可キ者  
 トス是レ第九十四條ニ於テ「再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後云々」ト云  
 ヘル所以ナリ

何故ニ裁判言渡ノ未タ確定セザル時ハ再犯加重ヲ爲スコト能ハサル乎  
 他ナシ未タ確定セザル時ハ犯人上訴シテ破毀ヲ求ムルノ道絶ヘサル  
 カ故ニ自ラ其無罪タルコトヲ信スルモ亦知ル可カラサレハ以テ犯人ヲ  
 懲戒セシムルノ効力ナシトスルニ由ル然レモ既ニ一旦確定シタル上  
 ハ犯人ハ到底其刑ノ執行ヲ受ケサルコトヲ得サルカ故ニ其懲戒ノ効力  
 ナ生スヘキヤ勿論ナリトス

若之ナラス若シ再犯加重ヲ爲シ得ルハ只現ニ其刑ノ執行ヲ受ケタル  
 者ノミニ限ルト爲ス時ハ甚シキ不都合ヲ生スルコトアル可シ何者其

謹慎刑ニ服シテ當然刑期ヲ終了シタル者再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ本刑ヲ加重セラル、ニ拘ハラス其刑ノ執行ヲ遁レテ期滿免除ヲ得タル者ハ其後再ヒ罪ヲ犯スモ本刑ヲ加重スルヲ得ス是レ豈ニ其權衡ヲ失スルノ最モ甚シキ者ニアラスヤ然ラハ再犯加重ニハ現ニ刑ノ執行ヲ受ケタルト否トテ問ハサルモ亦宜ナリト謂フ可シ

去レハ刑ノ期滿免除ヲ得タル者特赦ヲ得タル者又ハ復權ヲ得タル者ニ於テ再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ孰レモ皆再犯加重ノ例ヲ適用ス何トナレハ期滿免除及ヒ特赦ハ只其刑ノ執行ヲ免スル者ニシテ又復權ハ只將來ニ於テ公權ヲ執行スルノ權ヲ復シタルニ過キス要スルニ是等ノ者ハ決シテ前ニ確定シタル裁判言渡ノ事實ヲ消滅スル者ニ非サレハナリ

之ニ反シテ大赦ヲ得タル者ハ縱令ヒ其後罪ヲ犯シタリトテ決シテ再

犯加重ノ例ヲ適用スルヲ得ス何トナレハ抑、大赦ノ効果ハ社會ヲシテ全ク此犯罪ノ事實ヲ遺忘セシメ將來既往共ニ其犯罪事件ノ痕跡ヲ留メサル者トスレハナリ

又再審ノ訴ニ依リテ無罪ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テモ亦其犯罪ノ事實無キ者ナルヲ表白スルノ効アルカ故ニ其後ノ犯罪ニ付キ再犯加重ノ例ヲ用ユルヲ得サル者トス

第二

○第二再犯加重ヲ生スルニハ必ス刑ノ宣告アリタル事

例へハ第八十條ニ記シタル滿十六歳ニ滿タサル者是非ノ辨別ナクシテ罪ヲ犯シタルニ因リ懲治場ニ留置スルノ言渡ヲ受ケタルト如キ是レ宣告シタル刑ニ非スシテ單ニ行政上ノ處分ニ屬スルヲ以テ再犯加重ヲ生スルヲナキナリ

舊法ニ依  
リ確定裁  
判ヲ受ケ  
其舊法ハ

○茲ニ一ノ問題アリ即チ舊法ノ時罪ヲ犯シ其裁判言渡ノ確定シタル



爾後モレタル  
法ノ罪ヲ  
再犯ト爲  
ス可キ乎

後新法ニ於テ舊法ヲ改正シ又ハ廢止シテ其新法ハ右ノ事實ヲ以テ犯  
罪ト認メス然ルニ其後右犯人更ニ新法ニ於テ罪ト爲ル可キ所爲ヲ爲  
シタル時ハ再犯加重ノ例ヲ適用ス可キ乎如何ト是ナリ

予ハ將ニ答ヘントス曰ク此場合ニ於テハ當然再犯加重例ヲ適用ス可  
キモノトスト何トナレ新法ヲ以テ舊法ノ刑ヲ廢止シ若クハ減輕スル  
モ其曾テ舊法ニ依リ確定裁判ヲ受ケタル犯人ノ利益ト爲ルヲ得ス  
トハ是レ一般ノ原則ナルニ若シ此場合ニ於テ再犯ヲ以テ論スルヲ  
得スト爲スキハ此新法ノ改正ハ即チ舊法ニ依リ確定裁判ヲ受ケタル  
犯人ヲ利スルニ至ル可ケレハナリ

此事ニ關シテハ予曾テ第一編第三章第三款(即チ八十七頁)以下ニ於テ  
詳論シタルヲアリ宜シク參看ス可シ

第三

○第三再犯加重ニハ前犯ノ言渡其管轄裁判所ニ於テ爲サレタルヲ要

スル事

既ニ管轄裁判所ナル以上ハ其非常裁判所ナルト通常裁判所ナルトハ  
共ニ問フ所ニ非ス例ハ前ニ高等法院若クハ陸海軍法衙ニ於テ初犯  
ノ裁判言渡ヲ受ケ其後通常裁判所ニ於テ後犯ノ裁判言渡ヲ受ケル場  
合ニ於テモ亦再犯ヲ以テ論スルヲ得ルナリ

但第九十六條ニ明記スルカ如ク陸海軍法衙ニ於テ爲シタル裁判ノ確  
定ヲ經タル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタルニ因リ再犯ヲ以テ論スルヲ  
得ルハ其初犯ノ非常律ニ從フテ處斷セラレタル時ニ限ル者トス

陸海軍法衙ニ於テ常律ニ從ヒ處斷スルハ海軍刑法第五條第四十八條  
陸軍刑法第十四條第四十八條等ニ記載スル所ナリ

○茲ニ又一ノ問題アリ即チ前キニ外國ニ於テ裁判言渡ヲ受ケ其言渡  
確定シタル後日本ニ歸リ更ニ罪ヲ犯シタル時ハ再犯ヲ以テ論ス可キ

前ニ外國  
ノ確定裁  
判ヲ受ケ  
タル者ノ  
内國ニ於  
テ更ニ犯  
シタル罪

ハ再犯加  
重ヲ爲ス  
可キ乎

乎如何ト是ナリ

論者或ハ曰ク縱令ヒ初犯ハ外國ニ於テ爲シタル者ナルモ既ニ確定裁  
判ヲ受ケタル後尙ホ罪ヲ犯シタル者ノ如キハ通常ノ刑罰ヲ以テ之ヲ  
懲戒スルニ足ラサルヲ知ル可ケレハ則チ其刑ヲ加重スルヲ至當ナリ  
ト

然レモ予ハ其主説ヲ至當ナリト信セス如何トナレハ前既ニ説キタル  
カ如ク外國ノ法律ハ曾テ我法律ニ影響ヲ及ホスノ理ナキヲ勿論ナレ  
ハ非除ヤ外國ニ於テ曾テ刑罰ヲ受ケタリトテ日本ニ於テ其刑罰ヲ基  
本ト爲シ爾後犯シタル罪ニ付キ本刑ヲ刑ヲ加重スルノ理由ナキヤ復  
タ明ナリト謂フ可シ且ツヤ國異ナレハ則チ其刑モ亦異ナルカ故ニ外  
國ノ刑ハ未タ必スシモ日本ノ刑ニアラス良シ其刑日本ト同一ナリト假  
定スルモ而カモ初犯ハ外國ノ安寧ヲ害シタルノミ日本ノ安寧ニ關係

ナケレハ其後日本ニ於テ犯シタル罪ニ付キ本刑ヲ加重スヘキノ理ナ  
キヤ知ル可キナリ

第四  
○第四再犯加重ヲ爲サンニハ後犯ノ罪前犯ノ罪ニ牽連セサルヲ要ス  
ル事

故ニ後犯ノ罪初犯ノ罪ノ結果ナル時ハ再犯加重ノ例ヲ適用スルヲチ  
得ス例ハ囚徒逃走ノ罪、剝奪公權停止公權ニ處セラレタル者私ニ其  
公權ヲ行ヒタル罪、監視ノ執行ヲ逃レタル罪ノ如キハ何レモ前ノ犯罪  
執行ニ關スル犯罪ナルヲ以テ再犯加重ノ限リニ非ス蓋シ箇ハ到底初  
犯ノ執行ニ附屬スル犯罪ニシテ若シ初犯アテサレハ決シテ是等ノ犯  
罪ヲ生スルヲナケレハナリ若シ之ヲ加重スル者ト爲ス時ハ究竟前犯  
ヲ加重スルノ結果ヲ生スルニ至ル可キナリ

然レモ再度囚徒逃走シ若クハ附加刑ノ執行ヲ逃レタル時ハ各再犯ヲ

以テ論セサルヲ得ス何トナレハ最初逃走シ若クハ附加刑ノ執行ヲ遁レタル罪ト再度逃走シ若クハ附加刑ノ執行ヲ遁レタル罪トハ相牽連セサレハナリ

○再犯加重ノ場合ニ於テ加重ノ原由即チ前犯ニ對スル確定裁判ノアリタルヲ證明スルハ檢察官ノ任ナリ檢察官ハ既決犯罪表アルヲ以テ之ヲ證明スルヲ易々タル可シ然レモ若シ檢察官ニ於テ之ヲ證明スルヲ能ハサルカ又ハ證明セサル時ニ於テハ裁判官ハ職權ヲ以テ自ラ之ヲ證明シ以テ加重スルヲ得可シ若シ又檢察官及ヒ裁判官ニ於テ共ニ證明セサルニ方リ犯人ヨリ其前科アル旨ヲ申立ル時ハ裁判官ハ通常ノ證據法ニ從ヒ之ヲ審査シ其中立ヲ眞實ナリト認ムル時ハ乃チ再犯ヲ以テ論スヘキ者トス敢テ既決犯罪表ニ據ルヲ必要トセサルナリ

予ハ以上一般ノ加重即チ再犯加重ニ關スル規定ヲ講了シタリ其他第九十五條アリト雖モ該條ハ只初犯後犯ノ刑ヲ執行スルニ付テノ順序ヲ定メタルニ過キサレハ復別ニ詳説スルヲ要セサル可シ

第二節 特別加重

特別加重

○特別加重トハ例ヘハ故殺罪ニ付キ豫謀ノ所爲アルカ如キ是ナリ凡ソ故殺罪ニハ人ヲ殺スノ所爲ト人ヲ殺サントスルノ意思トヲ必要ナル原素ト爲ス而シテ豫謀ノ所爲アル時ハ即チ加重ノ情狀アル者ト爲シ重キ謀殺罪ノ刑ヲ科ス可キ者トス但シ豫謀ハ故殺ニ付キ加重ノ情狀ニアラスシテ謀殺ナル一種ノ犯罪ノ原素ナリト云ヘル論アリ我刑法ノ文面ニ依レハ此論或ハ穩當ナラシ歟然レモ余ハ爰ニ其當否ヲ論セスシテ各本條ヲ講スルニ際シ所見ヲ述フ可シ

又被害者被告人ノ尊屬親ニ係ル時ハ其地位ニ因リ加重ノ情狀アル者

竊盜罪ハ三箇ノ原素ヨリ成立スル者ナルコト予曾テ之ヲ述ヘタリ而シテ若シ竊盜二人以上ニテ共ニ犯シタルカ若クハ兇器ヲ携帯シテ犯シタルカ如キハ即チ共ニ加重ノ情狀アル者トス

若シ故殺犯ニシテ故意ノ要件ヲ缺クキハ即チ過失殺ノ罪ト爲リ竊盜ニシテ其物件他人ノ所有タル要件ヲ缺クキハ即チ犯罪ヲ構成スルコトナシ然ルニ犯罪加重ノ情狀ニ至テハ則チ之レニ異ナリ縱令ヒ之ヲ缺キタリトテ犯罪成立ニハ更ニ影響ヲ來タス可キ者ニアラス由此觀之加重ノ情狀ハ常ニ犯罪ノ原素外ニ在ルコト明ナリトス

第七款 加減順序ヲ論ス

一箇ノ犯罪ニ付キ同時ニ加重減輕ノ情狀アル時ハ先ツ減輕ヲ爲シ後チ加重ヲ爲ス可キ乎或ハ之ニ反シテ加重ヲ先ニシ減輕ヲ後ニスヘキ

乎又一般ノ加減ト特別ノ加減トアル片ハ孰レカ先ニシ孰レカ後ニス可キ乎

佛國ニ於テハ其順序ニ付キ明定ナキヲ以テ學者ノ說同一ナラザリシモ現今ハ加重ヲ先ニスルヲ以テ裁判上一定ノ習慣ト爲スニ至レリ

加減順序

○我刑法ハ此事ニ關シ明文ヲ設ケタレハ復タ別ニ議論ヲ生スルコトナシ今其法文ヲ茲ニ掲出セン

第九十九條 犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減輕其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

- 一再犯加重
- 二宥恕減輕

三自首減輕

四酌量減輕

加減ノ先  
後ニ因リ  
被告ノ人  
利害ノ別  
アリトハ  
如何

何レノ場合ニ於テモ本條規定ノ順序ニ從テ加減ヲ爲ス者ナルカ故ニ其順序ノ事ニ付テハ固ヨリ別ニ講説ヲ要ス可キ廉ナシ但此加重ヲ先ニシ減輕ヲ後ニスルコトハ犯人ノ爲メ最モ利益ト爲ルコト多シトス何トナレハ違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルコトヲ得ス輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得ス又重罪ノ刑ハ加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得サル等ノ制限アルモ減輕ニ付テハ別ニ此等ノ制限ナク死刑ヨリ無期刑ニ重罪ノ刑ヨリ輕罪ノ刑ニ輕罪ノ刑ヨリ違警罪ノ刑ニ下スコトヲ得可ク又減盡スルコトモ得可ケレハナリ

例ハ本刑ハ無期徒刑ニシテ加重及ヒ減輕ノ情狀アル者ト假定センニ加重ノ適用ヲ先ニスル時ハ死刑ニ入ルコト能ハサルヲ以テ依然無期

徒刑ニ止マリ而シテ此ヨリ減輕スル時ハ更ニ有期徒刑ト爲ル可シ反之若シ減輕ヲ先ニスル時ハ下テ有期徒刑ト爲ルモ加重スル時ハ又無期徒刑ニ復スルノ結果ヲ生ス可ク其先後ニ因リ犯人ニ損益ノ差異ヲ生ス可キナリ

其本刑ハ輕罪ノ刑タリ若クハ違警罪ノ刑タル場合ニ於テモ亦右ト同一ノ結果ヲ生ス而シテ若シ數等ヲ加重減輕スル場合ニ於テハ其差異モ亦隨テ頗ル著シキ者アルヲ見ル可シ

減輕ヨリ先ニ加重ヲ爲ス時ハ前述ノ如ク犯人ノ利益ヲ生スル場合多シト雖モ今試ニ純正ノ理論ヲ以テ之ヲ視レハ其方法ハ蓋シ正當ノ法規ナリト謂フ可カラサルニ似タリ何トナレハ常ニ減輕ノ利益ヲ受クレハナリ去レハ我刑法草按起草者ハ此點ニ付キ注意スル所アリシニヤ加重ト減輕トハ互ニ差引勘定ヲ爲スノ方法ヲ設定セリ

例ハ本刑無期徒刑ニ該リ且ツ加重及ヒ減輕ノ情狀アル時ハ其加ヘテ死刑ニ至ル可キ一等ト減シテ有期徒刑ニ下ル可キ一等トテ相殺進折シテ仍ホ無期徒刑ニ處スルノ類ナリ此方法ハ最モ純正ノ理論ニ吻合スルト雖モ我立法者ハ犯人ノ利益ニ過クルモ寧ロ本條ノ所定ヲ以テ適用上簡便ナリト做シタルモノ歟

特別ノ加重減輕ハ加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス所以

○本條但書以下ニ於テ何故ニ特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲スト云ヒ以テ他ノ通常加重減輕ト區別シタル乎更ニ之ヲ詳言スレハ例ハ竊盜二人以上ニテ共ニ犯シタル場合ニ於テハ縱令ヒ他ニ一般ノ宥恕減輕若クハ再犯加重ノ情狀アルモ先ツ其特別ノ加重即チ二人以上ノ加重ヲ爲シ然後始メテ宥恕減輕若クハ再犯加重ヲ爲スノ規定ヲ擇ミタルカ

今其理由ヲ釋ヌルニ蓋シ此等特別ノ加重減輕ノ情狀ハ皆犯罪ノ本質

ニ密着シ即チ犯罪ノ本體ニ關スル者ナリト雖モ夫ノ再犯加重ノ如キ若クハ一般ノ宥恕減輕ノ如キ通常加減ノ情狀ハ所謂犯罪成立以上ノ情狀ニシテ只犯罪ニ間接ノ關係ヲ有スルニ過キサレハ之ヲ其特別ノ加重減輕ト區別スルハ法理上必ス然ラサルヲ得サルニ由ル

要スルニ特別ノ加重減輕ハ良シ犯罪構成ノ原素ニ非サルモ例ハ猶ホ淡質ヲシテ濃厚タラシメタルカ如ク直接ニ犯罪ノ本質上一種ノ潤色ヲ爲シタル者ナリ之ニ反シテ再犯加重若クハ一般ノ宥恕減輕等ノ如キ通常ノ加減情狀ハ敢テ犯罪ノ本質ニ關係スル者ニアラス強テ言ハ、犯罪皮膚外ノ情狀ト云フ可キノミ就中酌量減輕ハ是レ加重減輕ヲ爲シタル上ニテ刑ノ權衡ヲ保タシメントスル者ナレハ其最終ニ適用セラル、ヤ復タ言ヲ俟タサルナリ  
但シ一般ノ宥恕減輕即チ年齡ノ不足ナルカ爲メニスル減輕ハ元來其

犯人ノ辨知力乏シキヲ以テ原由トスル者ナレハ犯罪ノ本質ニ幾分カ  
 關係シタル所アリ且犯罪ト共ニ生スル者ナルカ如クナレハ先ツ第一  
 ニ其減輕ヲ爲ス可キカ如シ然レモ其年齡ノ不足ハ敢テ犯罪成立ノ上  
 ニ關係ナキノミナラス其原由ハ犯罪以前ニ生スル者ナルカ故ニ之ヲ  
 特別ノ減輕ト同視スルコトヲ得ス然レモ此場合ニ於テハ前述ノ理由幾  
 分カ其薄弱タルヲ免レサルナリ  
 從犯及ヒ未遂犯罪ハ一般ノ減輕トシテ總則中ニ規定シタル者ナレハ  
 之ヲ適用シテ始メテ本刑ヲ定ムルノ理由ナキカ如シト雖モ其性質上  
 須ラク本法所定ノ如クナラサル可カラサル者アリ  
 抑從犯ハ第九條ニ於テ定義ヲ與ヘタルカ如ク正犯トハ全ク其本質  
 ナ異ニスル者タリ又未遂犯ハ百十二條ニ於テ規定シタルカ如ク既遂  
 犯ト其性質ヲ同フセス要スルニ此二者ハ其從犯タリ未遂犯タル一箇

ノ犯罪ニシテ正犯及ヒ既遂犯ヨリ一等ヲ減輕スルハ是レ其犯罪ノ定  
 度ニ因リテ之レカ刑ヲ定メタルニ過キサル者ナレハ其減輕シタル者  
 ナ以テ本刑ト爲スハ素ヨリ其所ナリト謂ハサル可カラス  
 第四章 刑ノ停止及ヒ消滅ヲ論ス

第一款 刑ノ停止ヲ論ス

刑ヲ停止スルトハ即チ刑罰ノ執行ヲ停止スルノ義ナリ刑罰ニシテ執  
 行スルコト能ハサル者即チ停止公權剝奪公權禁治産ノ如キハ其能力ヲ  
 回復スルヲ以テ刑罰執行ノ停止ニ比スヘキナリ

○刑罰ヲ停止スル原由ハ數者アリ

第一 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナル時ハ分娩後一百日間其  
 執行ヲ停止ス

第二 囚徒悔改ノ狀アル時ハ假出獄又ハ免幽閉ノ處分ヲ以テ刑ノ

刑ヲ停止  
スルトハ  
何ゾ

刑ヲ停止  
スル原由

執行ヲ停止ス

第三 大審院ノ裁判言渡ハ元來確定ノ者ナルモ其言渡アリタルヨリ三日間刑ノ執行ヲ停止ス

第四 大審院ノ裁判言渡ニ對シ哀訴アリタル時ハ其判決アルマテ刑ノ執行ヲ停止ス

第五 總テ死刑ハ司法卿ノ命令アルマテ其執行ヲ停止ス又再審ノ訴アリタル時又ハ特赦ノ申立アリタル時ニ於テモ其判決アルマテ又ハ棄却ノ言渡マテ其執行ヲ停止ス

○第一婦女ノ懐胎ナル時死刑ノ執行ヲ停止スルコトニ付テハ第十五條ニ明定セリ此事ニ關シテハ予曾テ詳説シタレハ今復茲ニ贅セス

○第二假出獄ノ事ハ第五十三條乃至第五十七條ニ規定セリ而シテト參觀ス可キハ刑法附則第三十八條以下監獄則第二十七條第六十一

假出獄免  
幽閉ノ主  
裁

條第六十二條ナリ但此第二十七條ハ明治十七年四月二日太政官達ニテ改正セリ又免幽閉ノ事ハ第二十一條第三十六條ニ在リ之レト參觀ス可キハ刑法附則第十二條乃至第十五條ナリ又假出獄免幽閉ノ二者ニ通シテ參照ス可キハ監獄則第一百十三條第二十八條等ナリトス

此假出獄免幽閉ハ共ニ行政上ノ處分ニ屬シ即チ内務司法兩卿ニ上申シ後行フ者トス此處分ハ畢竟犯人ノ過ヲ改メ善ニ遷ラントテ獎勵スルノ趣旨ニ出ル者タリ蓋シ改過遷善ハ素ト刑罰ノ目的ナレハ其目的ヲ達シ得タル場合ニ於テ此恩典ヲ與フルハ又最モ至當ナリト謂フ可シ若シ妄リニ之ヲ支フルニ於テハ却テ刑罰ノ効力ヲ減殺スルノ恐アルヲ以テ法律ハ茲ニ一ノ制限ヲ設ケ假出獄ニ付テハ第五十三條ニ於テ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ刑期四分ノ三無期徒刑ニ處セラレタル者ハ十五年ヲ經過スルニ非サレハ之ヲ許スコトヲ得ス又免幽閉





島地ニ發遣スルノ冗費ヲ要スル等ノ恐ナキト克ハサルナリ  
 免幽閉ハ地ヲ限り自由ヲ與フルト雖モ假出獄ハ更ニ地ヲ限ラサルヲ  
 以テ其取締上自カラ涇渭ノ別アリ即チ假出獄ヲ得タル者ハ特別監視  
 ニ付シテ警察官ニ其取締ヲ爲サシメ免幽閉ヲ得タル者ハ獄司ニ其取  
 締ヲ爲サシムル者トス  
 又假出獄免幽閉ヲ得タル者ハ禁治産ノ幾分ヲ免セサラル可シ但第五  
 十五條ニ於テ「治産ノ禁ノ幾分ヲ免スル」トアルニ依レハ則チ時  
 ニ或ハ免セラレサルトモ亦アルカ如クナリト雖モ其幾分ハ必ス常ニ  
 許サル、者トス何トナレハ今若シ其幾分ヲモ許サ、ル者トスルモハ  
 假出獄免幽閉ノ効用ハ更ニ見ルト得サルニ至レハナリ去レハ此「得」  
 ノ文字ハ幾分ノ字ヲ受ケタル者ト解釋スルト寔ニ至當ナリ只其幾分  
 ハ行政處分ヲ以テ宜シキニ從ヒ之ヲ制限スルニアル而已

刑法第五  
 十條ニ  
 所謂行政  
 ノ處分ハ  
 以テトス  
 如何ナル  
 意乎

然ルニ此第五十五條ニ所謂行政ノ處分ヲ以テ云々トハ内務司法ノ兩  
 卿ニ具申シテ其幾分ノ禁治産ヲ免スルノ意カ將タ警察官ニ於テ之ヲ  
 許スノ意カ蓋シ刑法附則第四十一條ニ「重罪ノ刑ニ處セラレタル者云  
 々警察署ニ申請シ許可ヲ受ク可シ」トアルニ依テ之ヲ觀レハ則チ此行  
 政上ノ處分ハ之ヲ警察官ニ委任シタルト明ナリ惟フニ禁治産ノ幾分  
 チ免スルトハ多少刑ノ威力ヲ減殺スル者ナルト勿論ナリト雖モ既ニ  
 其主刑スラ假リニ執行ヲ停止シタルトナレハ其治産ノ禁ノ幾分ヲ解  
 クノ權ヲ警察官ニ付與スルトハ即チ其假出獄ヲ許スノ日ニ在リト云  
 フトチ得可キナリ

特別監視  
 ノ者  
 通常監視  
 ハ者  
 視同ノ  
 處分ヲ受  
 ケ可キ乎

假出獄ヲ許サレタル者ハ特別ノ監視ニ付ス其處分ハ刑法附則第四十  
 三條以下ニ規定シテ明ナリ此特別監視ハ一ノ行政處分ニシテ刑法ノ  
 通常監視中ニ包含ス可キ者ニ非サルヲ以テ又附加刑ニアラス故ニ第

百五十五條ニ監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ストノ規則アリト雖モ特別監視ノ犯則者ニ之ヲ適用スルコトヲ得ス其違犯者ハ則チ監獄則第百十三條ニ記載スル監署ノ命令ニ違背シタル者ト爲シ七日以下ノ拘置處分ヲ受クル而已

假出獄ヲ許サレタル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタルニ因リ直チニ出獄ヲ停止シタル時ハ其出獄中ノ日數ハ之ヲ刑期ニ算入スルコトヲ得サル者トス(第五十六條)

加之ナラス縱令ヒ重罪輕罪ヲ犯サスト雖モ其行狀戻逆行政官ニ於テ未タ遷善悛改ノ情ナキ者ナリト確認スル時ハ内務司法兩卿ニ具申シテ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得可シ此事ハ法律ニ明文ナシト雖モ既ニ假出獄ト云ヘルニ依テ之ヲ觀ルモ場合ニ因リ或ハ再ヒ入獄セシム

刑法第五十七條ニ所謂刑期ニ限内ノ意

ルコトヲ得可キハ蓋シ當然ノ理ナリト謂ハサル可カラス但シ此場合ニ於テハ彼ノ重罪輕罪ヲ犯シタルカ爲メ假出獄ヲ取消サレタル時ノ如クニ其出獄中ノ日數ヲ刑期ヨリ扣除スルコト能ハサル可シト信ス何トナレハ法律上其明文ナケレハナリ

第五十七條ニ因リ「刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サスト」惟フニ本條ハ免幽閉ノ場合ニハ適用スルコトヲ得サル可シ又總テ無期徒刑ノ囚ハ適用スルコト能ハサル者ト信ス何トナレハ本條ニ所謂「刑期限内」トハ有期刑ノ限内ヲ指ス者タルコト毫モ疑ナケレハナリ去レハ無期刑ノ囚ハ更ニ重罪輕罪ヲ犯スモ其情狀ニ因リテ或ハ假出獄ヲ許サル、コアル可シ又有期刑ノ囚ト雖モ其重罪輕罪ヲ犯シタルニ因リ更ニ言渡サレタルニ刑期限内ニ於テ或ハ情狀ニ因リ假出獄ヲ許サル、コアル可シ何トナレハ本條ニ於テ假出獄ヲ許サストハ即チ其新

ナル犯罪ノアリタル刑期限内更ニ語ヲ換テ言ハ其舊刑期限内ハ再度ノ假出獄ヲ許サスト云フノ意義ナレハナリ

○第三大審院ノ判決ハ元來確定ノ者ト爲ストハ治罪法第四百三十四條ノ初項ニ明言スル所ナルニ拘ハラス同法第四百三十八條ニ於テ其言渡アリタルヨリ三日間執行ヲ停止スル旨ヲ記載セリ是レ或ハ哀訴ヲ爲ストアランテ慮リテナリ

○第四大審院ノ裁判言渡ニ對シ哀訴アリタル時ハ其哀訴ニ付テノ判決アルマテ執行ヲ停止スル旨亦治罪法第四百三十八條ニ記載セリ  
○第五死刑ノ宣告確定スルモ司法卿ノ命令アルマテ之ヲ執行スルト能ハス其命令アリタル時ハ三日内ニ其執行ヲ爲ス可キ旨掲テ治罪法第四百六十條ニ在リ又同法第四百三十九條以下ニ規定スル所ニ據ルモ死刑ノ宣告ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲メ再審ノ訴起リタル場合ニ於

再審ノ新  
起リタル  
刑ノ如何  
行ハルヤ  
スルヤ

テハ其死刑ノ執行ヲ停止ス可キ明文ナシト雖モ理固ヨリ再審ノ訴ノ結局ヲ竣タサル可カラサル者ト信ス而シテ死刑ノ宣告ヲ受ケタル者ノ情狀ニ因リ特赦ノ申立アリタル場合ニ於テハ其執行ヲ停止セサル可カラサルトハ同法第四百七十八條第二項ニ死刑ヲ除クノ外特赦ノ申立アリト雖モ刑ノ執行ヲ停止セスト云ヘルニ依テ明ナリ  
以上第一及ヒ第三乃至第五ノ規則ハ何レモ凡ソ刑ノ言渡確定シタル時ハ直チニ執行ス可シト云ヘル規則ニ對スル例外ナリ而シテ其第三以下ノ例外ハ事治罪法ノ規定ニ係ルヲ以テ予ハ之ヲ治罪法講義ニ讓リ茲ニ詳説セサルナリ

第二款 刑ノ消滅ヲ論ス

刑罰ヲ消滅セシムル原由中ニハ單ニ刑ノ執行權ヲ消滅セシムル者アリ全ク犯罪其者ヲ消滅セシムル者アリ此第二ノ場合ハ例ハ大赦ノ

如キ者ニシテ法律上極メテ稀有ナリトス

期滿免除

第一節 期滿免除

刑ノ期滿免除ニ關スル規則ハ第八十五條以下ニ記載セリ民法ニハ權利ヲ消滅セシメ又ハ之ヲ獲得セシムル所ノ期滿免除ト期滿得有ノ二種アリト雖モ刑法ニハ單ニ期滿免除アルノミ但シ刑事ノ期滿免除ヲ別テ二種ト爲ス曰ク公訴ノ期滿免除曰ク刑ノ期滿免除是レナリ公訴ノ期滿免除ハ予カ治罪法ノ講義ニ於テ既ニ詳悉シタル者ニ係ル蓋シ其効果ハ略ホ大赦ニ似タリ刑ノ期滿免除ハ予カ將ニ茲ニ講述セントスル者ニシテ其効果ハ能ク特赦ニ類スル者ナリ

刑ノ期滿免除トハ何ソ

○刑ノ期滿免除トハ既ニ審査ヲ終リ裁判確定シタル後或年間其刑ノ執行ヲ爲サ、ルニ由リ其經過シタル時間ノ効果社會ヲシテ其犯人ニ對スル刑ノ執行權ヲ失ハシムルヲ謂フナリ

刑ニ期滿免除ノ理由

何故ニ或時間ノ經過ニ因リ社會ハ刑ノ執行權ヲ失フ乎其理由果シテ如何

論者或ハ曰ク刑ノ期滿免除ニ係ル期限ハ概テ其刑期ヨリ長キ者ナレハ其逃亡シタル犯人ハ長キ期限中常ニ戰々競々殆ント安身ノ時ナカラン此ヲ彼ノ短キ期限中刑ノ執行ヲ受クル者ニ比スルニ其苦痛蓋シ復擇フ可カラサル者アル可シ是レ更ニ刑ヲ執行セサル所以ナリト此說ハ嘗テ佛國法典編纂者中ニ唱導スル者アリテ爾後國會等ニ於テ時々人ノ提出シタル說ナリ然レモ此理由ハ到底予ノ是認スル能ハサル所ナリ今其理由ヲ略言セシニ先ツ此主說ハ死刑ニ適當セス何トナレハ死刑ハ他ノ刑ト處分チ異ニシテ犯人ノ生命ヲ奪フ者ナレハ彼ノ躊躇身ヲ安ンヌル所ナキノ苦痛ハ未タ以テ之ニ比スルヲ得サレハナリ

且ツ所謂逃亡中ノ苦痛ハ犯人ノ性質ニ因テ各其感チ同フセサルノミナラス或ハ却テ法律ヲ輕侮スノ念ヲ惹起スル者亦或ハ之アル可ク又夫ノ遠ク外國(犯人交付即チ引渡條約ヲ締結セサル)ニ逃亡シタル者ノ如キハ曾テ其心中畏懼ノ苦痛ヲ感スルコトナカルヘシ然ラハ則チ其正當ノ理由トスル所ハ如何即チ予カ視ル所チ以テセハ左ニ講說スル者はナリ蓋シ其主說タル社會刑罰權ヨリ生スル自然ノ結果ニシテ彼レ折衷說ヲ主張スル論者ト雖亦敢テ非難セサル所ナルヘシ

夫レ刑罰ハ法律ノ効力ヲシテ較著ナラシメンカ爲メニ外ナラス法律ニシテ制裁ナケレハ焉ソ人ヲ懲戒セシムルニ足ラン否ナ制裁ナキ法律ハ寧ロ之ヲ徒法ト云ハシノミ無用ノ長物ト稱センノミ是レ刑罰ヲ設テ以テ法律ノ効力ヲ鞏固ナラシムル所以ナリ夫レ然リ然リト雖

社會衆庶ノ顯ニ厭惡スル所爲ニ對シテ其畏懼スル刑罰ヲ當行スルニ非サレハ之ヲ刑罰ノ効アリ懲戒ノ實舉ル者ト謂フ可カラス更ニ之ヲ裏面ヨリ換言スレハ社會衆庶カ既ニ遺忘シタル所爲ヲ罰スルカ如キハ殆ント刑罰ノミアリテ之カ原因タル犯罪即チ社會衆庶ノ厭惡スル所爲ノ存在セサルカ如キノ情ナキコト能ハス或ハ社會衆庶ハ却テ其刑罰ノ苛酷ヲ恨ムノ情ヲ生スルコトアル可シ今夫レ犯罪ノ所爲アルモ或年間ヲ經過スル時ハ社會衆庶ハ自然其犯罪ノ所爲ヲ遺忘スルト同シク刑ノ言渡アリタルコトモ亦遺忘スルニ至ル可シ若シ遺忘セサレハ宜シク相當ノ手續即チ逮捕狀等ヲ發シテ其期滿免除ヲ中斷スル等ノ事ヲ爲ス可キ筈ナルニ其之ヲ爲サ、ルハ即チ社會衆庶ヲ代表スル所ノ機關ニ於テ犯罪ヲ罰シタル裁判ヲ遺忘シタル證ナリト推測サセルヲ得ス果シ然ラハ則チ最早刑罰ヲ當行スルノ必要ナキ者ト謂ハサル

期滿免除  
ハ社會ノ  
遺忘ヲ基  
トスルヨ  
リ生スル  
結果

ヲ得ス然ルニ尙ホ此ニ關ハラス刑罰ヲ當行スルカ如キアラハ寧ロ法律ノ實力ナキヲ公示スルニ似タル可シ若シ社會組織ノ完全ナル時ハ此期滿免除ヲ得ルニ至ル迄ノ長キ期間間犯人ヲシテ刑ノ執行ヲ通レシムルカ如キコトナカル可キニ其然リシハ即チ是レ社會組織ノ不完全ナルカ爲メタルトチ曝示スル者ニ非スシテ何ソヤ況ンヤ犯人此長キ期間間再犯等ノ所爲ナク社會ヲシテ逮捕ノ便ヲ失ハシメタルハ則チ能ク惡ヲ去リ善ニ遷リテ法律ヲ輕侮セザリシト知ル可キチヤ之ヲ要スルニ期滿免除ハ全ク社會ノ遺忘ニ基ク者ニシテ其刑ヲ執行スルノ利ハ寧ロ不刑ニ措クノ愈レルニ若カストスルニ在リ

○期滿免除ハ社會ノ遺忘ヲ基トスルヨリ隨テ左ノ結果ヲ生ス

期滿免除ノ期限ハ刑罰ノ輕重ニ從テ長短アル可キト是ナリ何トナレハ重キ刑罰ニ付テハ社會ハ必ス久キ時間之ヲ記憶ス可ク輕キ刑罰ニ

期滿免除  
ハ公ケノ

付テハ其遺忘上者ニ比シテ必ス速カナル可ケレハナリ是レ管ニ刑罰ノミナラス犯罪ノ輕重ニ付テモ亦社會ノ遺忘ニ早晚ナキト能ハス重罪輕罪違警罪ノ種類ニ因リ公訴期滿免除ノ期限ヲ異ニスルハ實ニ此ニ職由セサルハ莫シ

然リ而シテ今法律ノ所定ニ據ルニ刑ノ期滿免除ニ係ル期限ハ總テ公訴ノ期滿免除ノ期限ヨリ長シ其然ル所以ノモノハ他ナシ抑公訴權ノ基因タル犯罪ニ付テハ單ニ其所爲アリタルカ如クナルモ審判ニ依テ確然其成立ヲ認メタルニアラス刑罰ニ付テハ然ラス既ニ確定ノ裁判言渡テ爲シ社會ヲシテ其犯罪アリタル事及ヒ刑ノ言渡ヲ爲シタル事ヲ確認セシメタル者ナレハ社會ノ記憶即チ前者ニ比シテ一層確固ニシテ輒ク遺忘セサル可シトノ推測ニ由ルナリ

○抑刑ノ期滿免除ハ上來説明シタル如ク社會ノ遺忘ニ基キタルタル

秩序ニ關スル規則  
生ナルヨリ  
果スル結

モノニシテ而カモ亦公ケノ秩序ニ關スル規定タリ於是乎左ノ結果ヲ生ス

刑ノ期滿免除ハ即チ公ケノ利益ノ爲メ刑ノ執行ヲ消滅セシムル者ナルカ故ニ犯人自ラ其免除ノ權利ヲ拋棄シテ刑ノ執行アレントテ請求シタリトテ之ヲ執行スルコト能ハス是レ夫ノ民事ノ期滿免除ニ大差アル所ナリ蓋シ此差異ヲ生スル所以タル抑、民事ノ期滿免除ハ一個ノ利益ノ爲メニ設ケラレタル者ナレハ自ラ其期滿免除ノ利益ヲ拋棄シテ所謂自然ノ義務ヲ執行シタリトテ敢テ公ケノ秩序ニ關スル所ナキヲ以テナリ

其レ然リ故ニ期滿免除ハ元來犯人ノ利益タル場合居多ナルニ關ラス時ニ或ハ犯人ノ不利益ヲ生スルコトナキニ非ス例ハ闕席裁判ニテ刑ノ言渡ヲ受ケ其期滿免除ヲ得タル者爾後自ラ出頭シテ前闕席裁判ノ

錯誤アルコト即チ全ク無罪ナリシコトヲ證明セント欲スルモ最早之ヲ爲スト能ハサルノ不利益ヲ見ル場合ノ如キ是ナリ

然レモ社會ハ闕席裁判ヲ爲ス場合ニ於テモ必ス精密ナル手續ヲ盡シ成ル可ク犯人ヲシテ其裁判アリタルコトヲ知ラシムルノ方法ヲ設ケタレハ實際之ヲ知ラサルカ如キコトナカル可シト法律上推測スルコトヲ得可キナリ

○刑ノ期滿免除ハ前段既ニ述ヘタルカ如ク刑ノ言渡アリタルヨリ或ル年月ノ經過ニ因リ生スル者ナレハ其消滅スル所ノ者ハ則チ執行權ナリトス去レハ期滿免除ハ有形上ノ所爲ニ因リ執行ス可キ刑ニ非サレハ之ヲ適施スルコトヲ得ス夫ノ單ニ裁判言渡ノ確定ノミニ因リ直チニ其効果ヲ生ス可キ刑ハ期滿免除ヲ得ルノ限ニ非ス例ハ剝奪公權停止公權禁治産監視ノ如キ是ナリ但シ監視ハ性質上固ヨリ有形ノ執

期滿免除  
ノ規則  
適施ス可  
カラスル  
刑ヲアル  
以テ



行チ爲ス可カラサル刑ニシテ期滿免除ヲ得サル者ナリト雖モ又彼ノ  
裁判言渡確定ノ効ニ因リ自然ニ生スル者トハ自カラ差異ナキニアラ  
ス

○第六十條初項ニ曰ク「剝奪公權停止公權及ヒ監視ハ期滿免除ヲ得ス  
ト此ニ剝奪公權ヲ掲載シタルハ他ナシ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得可キ  
者ニ非サル」ト明示センカ爲メノ注意タルニ過キス若シ之ヲ本條ニ  
記載セサリシ時ハ或ハ剝奪公權モ亦主刑ト共ニ期滿免除ヲ得可キ者  
ナリトノ疑惑ヲ生スル者ナキヲ保セザレハナリ例ヘハ有期徒刑十二  
年ニ處セラレタル者第五十九條ニ規定スル二十年ヲ經過シタル時ハ  
期滿免除ニ因リ主刑ノ執行ヲ免セラル、カ故ニ隨テ附加刑タル剝奪  
公權モ亦同様免除ヲ得可キ者ナラントノ感想ハ明文ナキ場合ニ於テ  
ハ強チ無理ナラサル者アレハナリ

○停止公權ハ第三十三條及ヒ第三十四條ニ定メタルカ如ク主刑及ヒ  
監視ノ刑期間之レアル者ナルカ故ニ主刑及ヒ監視ト共ニ期滿免除ヲ  
得可キ等ナルニ第六十條ニ於テ停止公權ハ期滿免除ヲ得スト明掲シ  
タルハ抑、何ソヤ是レ蓋シ其性質上決シテ期滿免除ヲ得可キ者ニ非サ  
ルノ意ヲ明示スルニ在ルナラン歟然レモ若シ之ヲ然リトセハ則チ同  
時ニ禁治産ノ事ヲモ記載セサル可カラサルカ如シ何トナレハ禁治産  
モ亦齊シク有形上執行スル「得サルカ故ニ又期滿免除ヲ得可カラ  
サルノ性質アル者ナレハナリ之ヲ要スルニ停止公權禁治産ノ二者ハ  
其性質上執行スル「能ハサルモノナルニ因リ爲メニ期滿免除ヲ得可  
カラサル者ナルニ拘ハラス我刑法ニ從ヘハ一ハ期滿免除ヲ得ル「能  
ハス他ノ一ハ之ヲ得可キ者ナリトセサルヲ得ス

刑法草案第七十一條ニハ禁治産モ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得ル旨ヲ規

定シタリ

五百六十八

○監視ハ其性質有形上執行スルヲ能ハサル者ニシテ期滿免除ヲ得サル刑ナルヲ前既ニ述ヘタル所ノ如シ但シ彼ノ管外ニ出ツルニハ必ス警察官ノ允許ヲ要スル等ノ規則アリト雖此ハ畢竟取締法ニ屬スル者ニシテ敢テ刑ノ執行ニハ非サルナリ

○剝奪公權ニ付テハ尙ホ一言ス可キトアリ今他所ニ在リテ十年間引續キ撰擧權ヲ行ヒタル者アリトセンニ唯其撰擧ノ無効ニ屬スルノミニシテ決シテ夫カ爲ノニ能力即チ公權ヲ得タリト謂フ可カラズ畢竟能力ハ時効ニ因テ失フ可キ者ニ非ス又獲得ス可キ者ニモ非ス是レ其性質上期滿免除ヲ得サル刑ナリト云ヘル所以ナリ

○罰金ノ刑ヲシテ若シ單一ノ負債タルニ過キストスル時ハ須リク民法上ノ規則ニ從テ期滿免除ヲ得キト勿論ナリト雖此既ニ一箇ノ刑

罰ニシテ而カモ有形上執行シ得キ者ナル上ハ他ノ刑ト同シク期滿免除ノ規則ニ據ラサルヲ得ス是レ我刑法ニ於テ附加ノ罰金ハ其主刑ト共ニ運命ヲ同フシ主刑期滿免除ヲ得レハ則チ附加ノ罰金モ亦隨テ期滿免除ヲ得可シト定メタル所以ナリ(第六十條第二項)

○沒收ニ付テハ第六十條第三項ニ於テ之カ規定ヲ爲セリ曰ク沒收ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得但禁制物ハ期滿免除ノ限ニ在ラスト此但書アル所以ハ他ナシ抑禁制物ハ非除マ幾年ヲ經過スルモ到底其禁制物タルノ性質ヲ變更スルヲナク常ニ物品其者カ公安ニ害アルヲ以テナ

而ノ此沒收ハ元來重罪輕罪違警罪ニ通シテ適用ス可キ者ナルカ故ニ其期滿免除ノ期限ハ時ニ或ハ主刑ノ期滿免除ノ期限ト長短ノ差アリ可キナリ

五百六十九

○佛國ニ於テハ刑法上期滿免除ノ事ニ付キ其明文ナキヲ以テ時ニ議論ヲ生スルコトアリフチスタンエリーノ如キハ現ニ其犯シタル罪ニ就テ期滿免除ノ期限ヲ計算ス可ク宣告セラレタル刑ニ依リテ計算ス可カラスト云ヘリ例ヘハ其現ニ犯シタル犯罪ニ相當スル刑ハ無期徒刑ナルニ宥恕減輕等ノ情狀アリテ現ニ有期徒刑ニ處セラレタリト雖モ其期滿免除ノ期限ハ則チ無限徒刑ノ爲メ定メタル期限ニ從フ可シト云フニ在リ

我國ニ於テハ其犯罪ノ名稱ニ關セス現ニ宣告セラレタル刑ニ隨テ期滿免除ノ期限ヲ計算スルコト爲シタリ即チ左ノ如シ

- 第五十九條 主刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免除ヲ得
  - 一 死刑ハ三十年
  - 二 無期徒刑ハ二十五年

刑ノ期滿  
免除ノ期

三 有期徒刑ハ二十年

四 重懲役重禁獄ハ十五年

五 輕懲役輕禁獄ハ十年

六 禁錮罰金ハ七年

七 拘留料料ハ一年

故ニ我國ニ於テハ佛國ニ於ケルカ如キ議論ヲ生スルノ患更ニアルナシ

○予ハ此ヨリ期滿免除ノ期限ハ何レノ時ヨリ起算ス可キ乎ヲ講セン」抑期滿免除ハ予カ既ニ講説シタルカ如ク或ル時間刑ノ執行ヲ適レタルニ因テ生スル者ナレハ刑ヲ執行シ得可キ日即チ刑ノ執行權ノ生シル日ヨリ起算スルヲ通則ト爲ス其執行權ノ生スルハ一般ノ場合ニ於テハ即チ裁判確定ノ日ニ在リ而シテ其裁判確定スルヤ直チニ執行スル

刑ノ期滿  
免除ノ期  
限ハ何レ  
ノ日ヨリ  
起算ス可  
キ乎

丁チ得サルハ只死刑アルノミ

死刑ノ言渡確定スル時ハ直チニ其訴訟書類ヲ檢事ヨリ司法卿ニ送致シ司法卿ヨリ死刑ヲ執行ス可キ命令アリタル時ハ三日内ニ其執行ヲ爲ス可キ定規治罪法第四百六十條ヲレハ其司法卿ノ命令ヲ爲シタル日ハ即チ執行權ノ生シタル日ナルカ故ニ此日ヨリ期滿免除ノ期限ヲ要起算ス可キ者トス

然リ而シテ其執行ヲ免カルトハ必スシモ逃亡シテ自由ヲ得タルヲセ倉ス故ニ縱令ヒ監倉ニ在リト雖モ死刑執行ノ命令アリタル日ヨリ三十年ヲ經過スル時ハ當然期滿免除ヲ得可キ者ノトス何トナレハ其監ニ在ルト否トニ關セス現ニ死刑ノ所爲ヲ受ケサレハ即チ其執行ヲ通レタル者ナリトスルニ於テ敢テ支障ナケレハナリ

罰金別  
○罰金ニ付テハ第二十七條ニ於テ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セ

期滿免除  
ハ何レノ  
日ヨリ起  
算スルヤ

セシムト云ヒ科料ニ付テハ第三十一條ニ於テ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納完セシムト云ヘルニ依レハ則チ罰金科料モ亦裁判確定スルヤ直チニ執行スルヲ得サル者ニシテ其執行權ノ生スルハ罰金ニ付テハ裁判確定ノ日ヨリ三十一日目科料ニ付テハ同シク十一日目ナルカ如シト雖モ決シテ然ルニ非ス其執行權ハ則チ裁判確定ノ日直チニ生スルト雖モ一月内又ハ十日内ニ納完スルヲ許シ其期限間ハ之ヲ輕禁錮又ハ拘留ニ換フルヲ猶豫スルニ過キサルナリ故ニ裁判確定スルヤ直チニ納完ヲ督促スルモ可ナリ是レ云々内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ云々ニ換フトアル所以ナリ去レハ其期滿免除ノ期限モ亦尋常ノ場合ト均シク裁判確定ノ日ヨリ起算スル者タルヤ毫モ疑ナキナリ

○沒收モ亦通常ノ場合ニ於テハ裁判確定ノ日ヨリ期滿免除ノ期限チ

起算ス可キ者トス但禁制物ハ期滿免除ヲ得サルヲ予既ニ之ヲ述ヘタ

刑ニ該  
犯人逃  
シタル  
方又ハ欠  
席裁判ノ  
場合ニ於  
テ刑ノ期  
算點知  
何

○身體ノ自由ヲ剝奪スル刑ニ付テ、期滿免除ハ犯人其刑ヲ言渡サレ  
タル當時捕ニ就キ居リタル時ハ其裁判確定ノ日ヨリ起算シ一旦逃走  
ノ未捕ニ就キ再ヒ逃走シタル時ハ其再ヒ逃走シタル日ヨリ起算シ又  
闕席裁判ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリ起算スコレ第六十一條ニ記載ス  
所ナリ

闕席裁判  
ニテ刑ノ  
言渡ヲ受  
ケル者  
出頭シテ  
故障ヲ爲  
シ其裁判  
ナキ内再  
ヒ逃走シ  
タル時刑  
ノ起算點  
際起算點  
ハ如何

○茲ニ一ノ問題アリ闕席裁判ニテ刑ノ言渡ヲ受ケタル犯人爾後出頭  
シテ故障ノ申立ヲ爲シ之ヲ受理セラレタルモ未タ其本案ノ裁判言渡  
ヲ爲サ、ル中再ヒ逃走シタル時ハ其期滿免除ハ何レノ日ヨリ起算ス  
ヘキ乎乃チ前闕席裁判言渡ノ日ヨリ起算ス可キ乎將タ就捕ノ日ヨリ  
起算ス可キ乎如何予ハ此場合ニ於テモ仍ホ前闕席裁判言渡ノ日ヨリ

起算セサル可カラスト信ス何トナレハ此場合ハ犯人ニ於テ前闕席裁  
判言渡ニ對シ故障ノ申立ヲ爲シ之ヲ受理セラレタル上ハ其闕席裁判  
ノ言渡ハ未タ確定ノ者ニ非ス又故障ヲ受理シタル以後ニハ犯人再ヒ  
逃走シタルカ爲メ又裁判言渡ナケレハナリ而シテ若シ捕ニ就キタルモ  
未タ闕席裁判言渡書ヲ示サ、ル中再ヒ逃走シタル時ニ於テモ亦前ノ  
言渡アリタル日ヨリ期滿免除ノ期限ヲ起算ス可キヲ勿論ナリトス  
然ト雖モ闕席裁判言渡ヲ受ケタル犯人捕ニ就キ其言渡書ヲ示サレタ  
ルニ故障ノ申立ヲ爲サ、ル中再ヒ逃走シタル時ハ其輕罪ニ付テハ三  
日重罪ニ付テハ十日ヲ經過スルニ因リ其裁判言渡ハ確定スルヲ以テ  
此場合ニ於テハ其確定ノ日ヨリ期滿免除ノ期限ヲ起算スル者ナラン  
何トナレハ刑ノ執行權ハ裁判言渡ノ確定ト同時ニ生シ期滿免除ノ期  
限ハ又執行權ノ生シタル日ヨリ起算スル者ナルヲ予カ前段ニ講述シ

タル所ノ如クナレハナリ(治罪法第三百五十六條第三項并ニ末項及ヒ第四百七條但書參看)

刑ノ期滿  
免除ノ中  
斷法

○以上説明スル所ニ依テ之ヲ觀レハ凡ソ期滿免除ノ經過ヲ中斷セン  
トスルニハ必ス刑ノ執行ヲ爲シ得ルノ權アル場合ナラサル可カラサ  
ルヲ知ルニ足ル可シ去レハ闕席裁判ハ前段述ヘタル場合ヲ除クノ  
外現ニ犯人ヲ逮捕シタル場合ニ非レハ確定スル者ニ非サルカ故ニ  
又執行權生スルヲナシ故ニ又期滿免除ヲ中斷スルヲ得サルナリ  
之ニ反シテ對審裁判ニ係ル時ハ其裁判確定ノ後直チニ執行權生スル  
ヲ以テ縱令ヒ逃走スルモ其捕ニ就ク毎ニ常ニ直チニ刑ノ執行ヲ受タ  
可キ者ナルカ故ニ其就捕ノ度毎ニ期滿免除ノ期限ヲ中斷スルナリ  
今前述ノ論理ヲ適用スル時ハ死刑ノ期滿免除ヲ中斷スルニ付テモ亦  
必ス一回執行ノ所爲ヲ爲シテ然ル後始テ之ヲ中斷スル者トセサルヲ

得サルニ似タリ然レモ我刑法ニ於テハ他ノ刑ト同一ノ手續ニ因テ之  
カ中斷ヲ爲シ得ルモノ、如シ

抑執行權ハ之ヲ執行シ得可キ時ニ執行セサレハ乃チ自然ニ消滅スル  
モノト爲ス然ルニ夫ノ自由ヲ奪フノ刑ニ在テハ之ヲ逮捕シタルノミ  
ヲ以テ即チ犯人ノ自由ヲ奪フカ故ニ恰カモ刑ノ執行ヲ爲シタルニ異  
ナラサルモ死刑ニ在テハ然ラサレハ理論上決ノ中斷ノ効ナキナリ  
シタルノ所爲アルニ非サレハ理論上決ノ中斷ノ効ナキナリ

然ルニ第六十二條ニ於テハ刑ノ執行ヲ通レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シ  
タル時ハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ス「トアリ」即  
チ唯令狀ヲ發シタルノミヲ以テ執行權ヲ行ヒタルト同一ノ効力ヲ有  
スル者ト爲シタリ

是レ果シ何ノ理由ニ基キタル乎聊カ疑團ナキ「能ハス何トナレハ凡

ノ令狀ハ之ヲ民事上ノ事ニ譬喩スレハ宛カモ一ノ催促狀ニ異ナラス  
 而ノ單一ノ催促狀ノミニテハ未タ時効ヲ中斷スルノ効アル者ニアラ  
 ス然ルニ刑法ハ此催促狀ト同一ノ効力アルニ過キサレ令狀ヲ發シタ  
 ルノミナ以テ直チニ刑ノ時効ヲ中斷スルノ効アリト爲シタレハナリ  
 刑法草按第七十三條ニ於テハ令狀ヲ發シタルノミニテハ未タ之ヲ以  
 テ刑ノ時効ヲ中斷スルニ足ラス其然ランカ爲メニハ必ス尙ホ犯人ノ  
 捕ニ就キタルヲ要スル者ト爲シ而シテ就捕ノ日ヨリ更ニ期滿免除ヲ起  
 算スル者ト爲シタリ

刑法第六  
 十二條ニ  
 於テ令狀  
 ヲ發シタ  
 ルノ時以  
 テ時効中  
 斷スルノ  
 効アリト  
 爲シタル  
 事ト爲シ  
 タルハ蓋  
 シ左ノ精  
 神ニ出タル  
 ナラン歟

○我刑法ニ於テ唯令狀ヲ發シタルノミナ以テ時効中斷ノ効アリト爲  
 シタルハ蓋シ左ノ精神ニ出タルナラン歟  
 令狀ヲ發シタルノ効ハ即チ社會カ業ニ刑ノ言渡アリタルコトノ記念ヲ  
 喚起スルニ足ル可シトノ推測是ナリ

果シテ此精神ヨリ出タル者トスル時ハ死刑ニ付キ生スル所ノ果有左  
 ノ如シ

死刑ノ裁判言渡確定シタル時其期滿免除ヲ得ンカ爲メニハ必ス犯人  
 逃走シテ身体ノ自由ヲ得サル可カラス若シ監倉ニ在ル時ハ縱令幾十  
 年ヲ經過スルモ到底期滿免除ヲ得ルノ期ナシト云フノ結果ヲ生スル  
 一是ナリ奈何トナレハ社會ハ單一令狀ヲ發スルモ尙ホ且之ヲ以テ能  
 ク社會衆庶ノ記念ヲ喚起スルニ足ルトスル時ハ其犯人ノ現ニ監倉ニ  
 在ル間ハ非除ヤ幾十年ヲ經過スルモ常ニ其記念ヲ繼續スル者ナリト  
 謂ハサルヲ得サレハナリ更ニ他ノ語ヲ以テ之ヲ述フレハ即チ日々期  
 滿免除ノ期限ヲ中斷スルト云フモ亦固ヨリ可ナレハナリ  
 但此令狀ハ其刑ノ執行ヲ爲ス可キ地ノ始審裁判所ノ檢事ニ於テ之ヲ  
 發スル者トス明治十四年十二月二十八日司法省有達參看

第二節 復權

復權

夫レ公權ハ人ノ最モ貴重スル所ナリ然ルニ今若シ一タヒ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ因リ生涯之ヲ剝奪シテ復タ回復ノ期ナキ時ハ夫ノ懲治ノ効チ欠クノ恐ナキト能ハス去レハ法律ハ其遷善改惡ノ情狀著シキ者ニ限り此公權ヲ行フノ能力ヲ再有セシムルハ特リ社會ニ損害ナキ而已ナラス犯人ヲ勸誘シテ悔改セシムルノ大利アリ是レ法律カ復權ノ制ヲ規定シタル所以ナリ

復權ハ一タヒ剝奪セラレタル公權ヲ回復スル者ナレハ唯無期有期ノ重罪刑ニ處セラレタル者ノミニ付テ其効チ見ル可シ何トナレハ彼ノ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ノ如キハ單ニ公權ヲ停止セラル、ノミニ固ヨリ公權ヲ剝奪セラル可キ者ニ非サレハ復タ復權ナキト勿論ナレハナリ而シテ重罪ノ無期刑ニ處セラレタル者ハ特赦ヲ得タル時又ハ主

刑ノ期滿免除ヲ得タルニ非サレハ則チ復權ヲ得ルノ場合アルトナシ蓋シ單ニ復權ノミヲ得タリトテ本刑ニ付キ特赦ヲ得サル時ハ殆ント其利益チ見サル可キナリ又重罪ノ有期刑ニ處セラレタル者ハ其主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其情狀ニ因リ將來ノ公權ヲ復スルトチ得ルナリ(第六十三條初項)

○無期徒刑ハ假出獄ヲ得ルトアリ無期流刑ハ免幽閉ヲ得ルトアリ而シテ其之ヲ得タル時ハ必ス公權ヲ行フ可キ機會アル可キモ法律ハ此等ノ事ニ付キ其明文ナキヲ以テ遂ニ復權ヲ得ルト能ハサル可シ何トナレハ抑、假出獄及ヒ免幽閉ハ共ニ行政上ノ處分ヲ以テ假ニ一部ノ自由ヲ許シタル者ノミ之ヲ以テ主刑ノ終リタル者ト做ス可カラサルト勿論ナレハナリ

假出獄者ハ免幽閉ヲ得タル者ハ復權ヲ得サルヲ如シ然ラハ他ノ權衡如何

斯ク述ヘ來ル時ハ法律上甚タ權衡ヲ失ハサルヤノ疑ナシ能ハス第六



十三條第二項ニ於テハ日ク主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後亦同シト夫レ此主刑ノ期滿免除ヲ得タル者トハ果ノ何者ナルカ即チ二回マテ法律ヲ輕侮シタル者ニ非スヤ始メ罪ヲ犯シタル一ナリ其罪ニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケ遁逃シテ其刑ニ服セス二ナリ此ヲ彼ノ遷善改惡ノ情狀較著タルニ因リ法律ノ恩典ヲ辱フスル者即チ假出獄免幽閉ヲ許セレ假ニ自由ヲ得ルノ光榮ト幸福トヲ受クルヲ得タル者ニ比スルニ果ノ孰レカ勝レリト爲ス乎蓋シ智者ヲ待テ知ラサルナリ

其然リ然ルニ此期滿免除ヲ得タル者尙ホ公權ヲ復スルヲ得テ却テ彼ノ假出獄免幽閉ヲ得タル者ニ及ハサルハ是レ豈ニ權衡ヲ失スル者ニ非スシテ何ソヤ去レハ此場合ニ於テハ公權剝奪ノミニ關スル特赦ヲ請願スルヲ得可キノミナラン歟

○停止公權ハ輕罪ノ刑ニ付加スル者ニシテ其期限短カキカ故ニ別ニ復權ノ規定アルヲナシ但シ主刑ト共ニ特赦ヲ與フル場合ハ格別ナリトス

輕罪ノ刑ニ附加シタル資人ノ資格ヲ剝奪セラルルハ復權ノ方ナキ乎

○復權ハ前既ニ述ヘタルカ如ク重罪ノ刑ニ附加スル剝奪公權ヲ回復スルニ在ルカ故ニ例ヘハ盜罪詐欺罪等ノ輕罪ノ刑ニ處セラレタルニ因リ代言人タルノ資格ヲ剝奪セラレタル場合ノ如キハ第六十三條ニ規定スル復權ニ依テ其代言人ト爲ルノ能力ヲ回復スルヲ能ハサルヤ勿論ナリ蓋シ代言人タルノ資格ハ第三十一條ニ列記スル公權中ニ包含スルト雖モ其重罪ノ刑ニ附加スルニ非スシテ輕罪ノ刑ニ處セラレタルニ因リ奪ハレタル者ハ此刑法ノ復權ヲ適施スル能ハサルヲ勿論ナレハナリ於是乎又不權衡ノ甚シキ者アルヲ見ル去レハ輕罪ノ刑ニ因リ代言人タルノ資格ヲ奪ハレタル者ハ別ニ請願シテ其代言人タル

復権ヲ得ルカ爲メノ要件

ノ能力ヲ回復スルノ外亦之ヲ奈何トモスルニ道ナラシキナリ

○復権ヲ得ンカ爲メニハ左ノ三箇ノ條件ヲ要スル者トス

第一主刑ノ終リタルヲ

第二五年ヲ経過シタルヲ

第三復権ヲ得可キ情狀アルヲ

第一主刑ノ終ル可キ原由ハ刑ヲ全ク執行シタル場合(一)特赦ヲ得タル

場合(二)主刑ノ期滿免除ヲ得タル場合(三)等ナリ而シテ此最後ノ場合ハ實

ニ法律ノ寬典ニ出ル者ト謂ハサル可カラズ何トナレハ予カ既ニ說示

シタルカ如ク再度マテ法律ヲ輕侮シタル者ナルニ却テ彼ノ假出獄免

幽閉ヲ得タル者ヨリモ一層恩典ヲ被ムルニ至ル可キヲ以テナリ

第二ノ五年ヲ経過スルヲ要スル所以ハ畢竟其果ノ遷善改惡ノ實ヲ

示ヤ否ヲ試査スルニ過キサルナリ

第三ノ情狀タル素ヨリ千態萬狀ニシテ今之ヲ汎言スルヲ能ハスト雖

モ要スルニ謹慎正直公權ヲ執行シテ公益ヲ害セサルノ實ヲ表スル等

ノ事ヲ云ヘルニ外ナラサルナリ

○予ハ茲ニ本節ノ講議ヲ終ルニ臨ンテ上來説明シタル復権ノ結果ニ

付キ約言スル所アル可シ

復権ノ効

復権ノ効果ハ一タヒ剝奪セラレタル公權ヲ回復スルニ在リ之ヲ再言

スレハ登初言渡サレタル不能力ノ點ノミヲ取消スニ過キサルナリ去

レハ其以前言渡サレタル裁判及ヒ其刑罰ハ決シテ消滅スル者ニ非ス

故ニ爾後ノ犯罪ニ付テハ前ノ犯罪ヲ以テ再犯加重ノ原因ト爲ス可キ

ト勿論ナリ又復権ハ唯將來ノ公權ヲ復スルニ過キサルヲ以テ彼ノ年

金又ハ恩給ノ如キ其剝奪中ニ係ル者ハ固ヨリ之ヲ受クルヲ能ハサ

者トス

第三節 大赦及ヒ特赦

大赦

○大赦ハ多クハ國事犯ノ場合ニアル者ニシテ例ハ一ノ國事犯罪アリテ其夥黨連累甚タ多ク備シ盡ク之ヲ處罰スル時ハ却テ人心ヲ激昂セシメ社會ノ安寧ヲ害スルニ至ルノ慮アル等ノ場合ニ於テ大赦ヲ行ヒ舉テ其犯罪人ヲ赦免スルヲ云フ

夫レ大赦ハ其人ニ因ラスシテ其犯罪事件ニ因リ行フ者ナレハ畢竟其人ヲ赦スニ非スシテ其犯罪事件ヲ免スニ在リ故ニ其効果ハ全ク其犯罪事件ヲ消滅セシムル者トスコレ特赦ノ或ル犯人ヲ限リ其罪ヲ赦免スルト大ニ徑庭アル所ナリ去レハ大赦アリタル時ハ其犯罪ハ他日犯數ニ計ヘテ再犯加重ノ原因ト爲ストテ得ス又犯罪事件ノ生シタル後ナレハ既ニ刑ノ言渡アリタルト未タ其言渡前ナルトニ拘ハラス何時ニテモ其必要ノ場合ニ於テハ之ヲ行フヲ得ル者トス故ニ若シ大

特赦

赦アリタル時ハ何人ト雖拒ンテ之ヲ受ケサラントスルモ得可カラズ何トテレハ大赦ハ犯人ニ私セス實ニ社會ノ秩序ヲ維持シ公益ヲ保護センカ爲メ必要ナリトシテ行フ者ナレハナリ

○特赦ハ則チ之ニ異ナリ犯罪事件ヲ赦スニ非ラスシテ其人ノ刑ヲ免ス者ナリ即チ國君或人ノ情狀ヲ憫諒シテ其既ニ言渡サレタル刑ヲ赦免スルニ在リ故ニ必ス裁判確定ノ後ニ非サレハ敢テ之ヲ行フヲ能ハス但シ特特テ得タル者モ亦之ヲ拒ムノ權ナキヲ大赦ニ異ナラス蓋シテ特赦ハ國君ノ仁德ニ出ル者ニシテ之ヲ拒ムカ如キハ固ヨリ國民恭順ノ義ニ合ハサル者アルニ由ル

要スルニ特赦ノ効果ハ犯罪事件ノ消滅スルニ非スシテ唯其刑ノ執行ヲ消滅セシムルニ過キサルヲ以テ爾後其犯罪ヲ犯數ニ計ヘテ再犯加重ノ原因ト爲ス可キヲ勿論ナリ

前述ノ區別アルカ故ニ大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ當然復權ヲ得可  
シト雖モ特赦ニ因テ免刑ヲ得タル者ハ其赦狀ニ復權ノ旨ヲ特記シタ  
ル時ニ非サレハ決メ之ヲ得タル者トセス(第六十四條)。  
都テ大赦及ヒ特赦ハ上裁ヲ以テ之ヲ行フ者ト爲シ復權ハ犯人ノ請願  
ニ因リ裁許ヲ經テ之ヲ行フ者トス但其詳細ハ予之ヲ治罪法ノ講義ニ  
詳悉セリ

予ハ上來刑ヲ停止シ及ヒ消滅セシムル理由ニ付キ順次講説スル所ア  
リシカ今本章ヲ終ルニ蒞ミ茲ニ仍ホ刑ヲ消滅セシムル數箇ノ理由ヲ  
示ス可シ即チ新法ニ於テ舊法ノ刑ヲ發シタル時再審ノ訴アリテ前ノ  
裁判即チ刑ノ言渡ヲ取消シタル時犯人ノ死去シタル時等はナリ  
予ハ是ヨリ曾テ諸君ニ爲シタル約束ヲ履ミ數罪俱發及ヒ數人共犯ノ  
事ヲ講説ス可シ

第五章 數罪俱發ヲ論ス

予カ前章マテニ講説シタル者ハ即チ一人ニテ一罪ヲ犯シタル場合若  
クハ一人ニテ犯シタル一罪ニ付キ確定裁判ヲ受ケタル後更ニ一罪ヲ  
犯シタル場合ナリシ然ルニ今本章及ヒ次章ニ於テ講述セント欲スル  
者ハ即チ一人ニテ數罪ヲ犯シタル場合及ヒ數人ニテ一罪若クハ數罪  
ヲ犯シタル場合ニシテ第百條乃至第百十條ニ記載スル者是ナリ

數罪俱發  
及再犯加  
重ト罪ナ  
ル所以

○數罪俱發トハ再犯加重ノ場合ト差異アリテ二箇以上ノ罪ヲ犯シ其  
各犯罪發覺ノ時ニ在テハ未タ他ノ犯罪ニ關シ確定裁判アラスシテ俱  
ニ發シタルヲ云フ又或ハ一罪前ニ發シ既ニ確定裁判ヲ經テ其後二罪  
以上俱ニ發シタル場合アリ此最後ノ場合ハ再犯加重ト數罪俱發ト混  
同シタル場合ナリ

此未タ確定裁判ヲ經サル數罪俱ニ發シタル場合ニ於テハ同時ニ之ヲ